マニュアルの使いかた

安心してお使いいただくために

- パソコンをお取り扱いいただくための注意事項
  ご使用前に必ずお読みください。

セットアップガイド

- パソコンの準備
- Windowsのセットアップ
- Q&A集（電源が入らないとき）
- 初期状態に戻す（リカバリー）
- 廃棄／譲渡

など

取扱説明書

- 各部の名前
- 電源の入れかた
- 電源の切りかた
- メモリの取り付け／取りはずし
- バッテリーパックの交換
- システム環境の変更とは

など

オンラインマニュアル（本書）

Windowsが起動しているときにパソコンの画面上で見るマニュアルです。

- パソコンを買い替えたとき
- パソコンの基本操作
- ネットワーク機能
- 周辺機器の接続
- バッテリー駆動で使う方法
- システム環境の変更
- パソコンの動作がおかしいとき／Q&A集

など

リリース情報

- 本製品を使用するうえでの注意事項など
  必ずお読みください。

参照 「はじめに - 7 リリース情報について」

もくじ

はじめに

本製品を安全に正しく使うために重要な事項が、付属の冊子『安心してお使いいただくために』に記載されています。
必ずお読みになり、正しくお使いください。
お読みになったあとは、いつでも見られるようにお手元に大切に保管してください。
本書は、次の決まりに従って書かれています。

1 記号の意味

⚠危険	“取り扱いを誤った場合、使用者が死亡または重傷（＊1）を負うことがあり、その切迫の度合いが高いこと”を示します。
⚠警告	“取り扱いを誤った場合、使用者が死亡または重傷（＊1）を負うことが想定されること”を示します。
⚠注意	“取り扱いを誤った場合、使用者が傷害（＊2）を負うことが想定されるか、または物的損害（＊3）の発生が想定されること”を示します。
お願い	データの消失や、故障、性能低下を起こさないために守ってほしい内容、仕様や機能に関して知っておいてほしい内容を示します。
メモ	知っていると便利な内容を示します。
役立つ操作集	知っていると役に立つ操作を示します。
参照	参照先を示します。 ● 本書内への参照の場合…「　」 ● ほかのマニュアルやヘルプへの参照の場合…『　』

＊1 重傷とは、失明やけが、やけど（高温・低温）、感電、骨折、中毒などで、後遺症が残るものおよび治療に入院・長期の通院を要するものをさします。
＊2 傷害とは、治療に入院・長期の通院を要さない、けが、やけど（高温・低温）、感電などをさします。
＊3 物的損害とは、家屋・家財および家畜・ペットなどにかかわる拡大損害をさします。

2 用語について

本書では、次のように定義します。

システム

特に説明がない場合は、使用しているオペレーティングシステム（OS）を示します。

アプリケーションまたはアプリケーションソフト

アプリケーションソフトウェアを示します。

WindowsまたはWindows 8

特に説明がない場合は、Windows 8 Proを示します。

ハードディスク

特に説明がない場合は、HDD（ハードディスクドライブ）とSSD（ソリッドステートドライブ）をまとめて「ハードディスク」と呼びます。

HDD搭載モデル

HDDを搭載しているモデルを示します。

SSD搭載モデル

SSDを搭載しているモデルを示します。

ドライブ

DVDスーパーマルチドライブ／DVD-ROMドライブを示します。搭載しているドライブはモデルによって異なります。

ドライブ搭載モデル

DVDスーパーマルチドライブ、DVD-ROMドライブのいずれかを搭載しているモデルを示します。

DVDスーパーマルチドライブ搭載モデル

DVDスーパーマルチドライブを搭載しているモデルを示します。

DVD-ROMドライブ搭載モデル

DVD-ROMドライブを搭載しているモデルを示します。

シリアルコネクタ搭載モデル

シリアルコネクタを搭載しているモデルを示します。

無線LAN機能搭載モデル

無線LAN機能を搭載しているモデルを示します。

Bluetooth機能搭載モデル

Bluetooth機能を搭載しているモデルを示します。

モデム搭載モデル

モデムを搭載しているモデルを示します。

Webカメラ搭載モデル

Webカメラを搭載しているモデルを示します。

指紋センサー搭載モデル

指紋センサーを搭載しているモデルを示します。

TPM搭載モデル

TPM（Trusted Platform Module）を搭載しているモデルを示します。

3 記載について

- 記載内容によっては、一部のモデルにのみ該当する項目があります。その場合は、「用語について」のモデル分けに準じて、「＊＊＊＊モデルの場合」や「＊＊＊＊シリーズのみ」などのように注記します。
- インターネット接続については、ブロードバンド接続を前提に説明しています。
- アプリケーションについては、本製品にプレインストールまたは本体のハードディスクや付属のCD／DVDからインストールしたバージョンを使用することを前提に説明しています。
- 本書に記載している画面やイラストは一部省略したり、実際の表示とは異なる場合があります。
- 本書では、コントロールパネルの操作方法について表示方法を「カテゴリ」に設定していることを前提に説明しています。表示方法が「大きいアイコン」または「小さいアイコン」になっている場合は、「カテゴリ」に切り替えてから操作説明を確認してください。
- 本書は、語尾をのばすカタカナ語の表記において、語尾に長音（ー）を適用しています。画面の表示と異なる場合がありますが、読み替えてご使用ください。

4 Trademarks

- Microsoft、Windows及びWindowsロゴは、マイクロソフト企業グループの商標です。その他記載されている会社名および製品名は各社の商標または登録商標です。
- Windowsの正式名称は、Microsoft Windows Operating Systemです。
- Intel、インテル、インテル Core、Celeronは、アメリカ合衆国およびその他の国におけるIntel Corporationまたはその子会社の商標、または登録商標です。
- MagicGate、マジックゲートメモリースティック、メモリースティック、メモリースティックロゴ、メモリースティック デュオ、"Open MG"および"Open MG"ロゴはソニー株式会社の登録商標または商標です。
- SDロゴは商標です。（　）
- SDHCロゴは商標です。（　）
- SDXCロゴは商標です。（　）
- xD-ピクチャーカード™は、富士フイルム（株）の商標です。
- Fast Ethernet、Ethernetは富士ゼロックス株式会社の商標または登録商標です。
- TRENDMICRO、ウイルスバスターおよびウイルスバスタークラウドは、トレンドマイクロ株式会社の登録商標です。
- 「PC引越ナビ」は、東芝パソコンシステム株式会社の商標です。
- WiMAXは、WiMAXフォーラムの商標です。
- Bluetoothは、その商標権者が所有しており、東芝はライセンスに基づき使用しています。

本書に掲載の商品の名称やロゴは、それぞれ各社が商標および登録商標として使用している場合があります。

5 プロセッサ（CPU）に関するご注意

本製品に使われているプロセッサ（CPU）の処理能力は次のような条件によって違いが現れます。

- 周辺機器を接続して本製品を使用する場合
- ACアダプターを接続せずバッテリー駆動にて本製品を使用する場合
- マルチメディアゲームや特殊効果を含む映像を本製品にてお楽しみの場合
- 本製品を通常の電話回線、もしくは低速度のネットワークに接続して使用する場合
- 複雑な造形に使用するソフト（たとえば、運用に高性能コンピューターが必要に設計されているデザイン用アプリケーションソフト）を本製品上で使用する場合
- 気圧が低い高所にて本製品を使用する場合
  目安として、標高1,000メートル（3,280フィート）以上をお考えください。
- 目安として、気温5～30℃（高所の場合25℃）の範囲を超えるような外気温の状態で本製品を使用する場合

本製品のハードウェア構成に変更が生じる場合、CPUの処理能力が実際には仕様と異なる場合があります。
また、ある状況下においては、本製品は自動的にシャットダウンする場合があります。
これは、当社が推奨する設定、使用環境の範囲を超えた状態で本製品が使用された場合、お客様のデータの喪失、破損、本製品自体に対する損害の危険を減らすための通常の保護機能です。なお、このようにデータの喪失、破損の危険がありますので、必ず定期的にデータを外部記録機器にて保存してください。また、プロセッサが最適の処理能力を発揮するよう、当社が推奨する状態にて本製品をご使用ください。

本製品には64ビットプロセッサが搭載されております。64ビット版OSでご使用の場合は、32ビット版のデバイスドライバーやアプリケーションが正しく動作しない場合があります。

6 著作権について

音楽、映像、コンピューター・プログラム、データベースなどは著作権法により、その著作者および著作権者の権利が保護されています。こうした著作物を複製することは、個人的にまたは家庭内で使用する目的でのみ行うことができます。上記の目的を超えて、権利者の了解なくこれを複製（データ形式の変換を含む）、改変、複製物の譲渡、ネットワーク上での配信などを行うと、「著作権侵害」「著作者人格権侵害」として損害賠償の請求や刑事処罰を受けることがあります。本製品を使用して複製などをする場合には、著作権法を遵守のうえ、適切な使用を心がけてください。

7 リリース情報について

「リリース情報」には、本製品を使用するうえでの注意事項などが記述されています。
必ずお読みください。次の操作を行うと表示されます。

①スタート画面のタイルのない部分で、右クリックする

②［すべてのアプリ］をクリックする

③［はじめに］の［ リリース情報］をクリックする

8 お願い

- 本体のハードディスクにインストールされている、または付属のCD／DVDからインストールしたシステム（OS）、アプリケーション以外をインストールした場合の動作保証はできません。
- Windows標準のシステムツール以外の方法で、パーティションを変更・削除・追加しないでください。ソフトウェアの領域を壊すおそれがあります。
- 本体のハードディスクにインストールされている、または付属のCD／DVDからインストールしたシステム（OS）、アプリケーションは、本製品でのみ利用できます。
- 購入時に定められた条件以外で、製品およびソフトウェアの複製もしくはコピーをすることは禁じられています。取り扱いには注意してください。
- 本製品の画像データは、本製品上で壁紙に使用する以外の用途を禁じます。
- パスワードを設定した場合は、忘れたときのために必ずパスワードを控えておいてください。パスワードを忘れてしまって、パスワードを解除できなくなった場合は、使用している機種（型番）を確認後、東芝PCあんしんサポートに連絡してください。有料にてパスワードを解除します。HDDパスワードを忘れてしまった場合は、ハードディスクドライブは永久に使用できなくなり、交換対応となります。この場合も有料です。またどちらの場合も、身分証明書（お客様自身を確認できる物）の提示が必要となります。
- 本製品はセキュリティ対策のためのパスワードの設定や、無線LANの暗号化設定などの機能を備えていますが、完全なセキュリティ保護を保証するものではありません。
  セキュリティの問題の発生や、生じた損害に関し、当社はいっさいの責任を負いません。
- 「ウイルスバスター」を使用している場合、ウイルス定義ファイルなどは、新種のウイルスやワーム、スパイウェア、クラッキングなどからコンピューターを保護するためにも、常に最新の状態で使用する必要があります。本製品に用意されている「ウイルスバスター」は、インターネットに接続していると自動的に最新の状態に更新されますが、90日間の使用制限があります。90日を経過するとウイルスチェック機能を含めて、すべての機能がご使用できなくなります。
  ウイルスチェックが全く行われない状態となりますので、必ず期限切れ前に有料の正規サービスへ登録するか、ほかのウイルスチェック／セキュリティ対策ソフトを導入してください。
- ご使用の際は必ず本書をはじめとする各種説明書と『ソフトウェアに関する注意事項』、Windowsのセットアップ時に表示されるライセンス条項およびエンドユーザー使用許諾契約書をお読みください。

- アプリケーション起動時に使用許諾書が表示された場合は、内容を確認し、同意してください。使用許諾書に同意しないと、アプリケーションを使用することはできません。一部のアプリケーションでは、一度使用許諾書に同意すると、以降起動時に使用許諾書が表示されなくなります。リカバリーを行った場合には再び使用許諾書が表示されます。
- 『東芝保証書』は、記入内容を確認のうえ、大切に保管してください。

本製品のお客様登録（ユーザー登録）をあらかじめ行っていただくようお願いしております。当社ホームページで登録できます。

参照 詳細について「付録 3 お客様登録の手続き」

9 ［ユーザーアカウント制御］画面について

操作の途中で［ユーザーアカウント制御］画面が表示された場合は、そのメッセージを注意して読み、開始した操作の内容を確認してから、画面の指示に従って操作してください。
パスワードの入力を求められた場合は、管理者アカウントのパスワードで認証を行ってください。

10 映像／音楽関連の機能を使用するにあたって

❏ 映像を扱うアプリケーションについて

映像を扱うアプリケーションの使用中に、スリープ／休止状態への移行を行わないようにしてください。
エラーメッセージが表示されたり、アプリケーションが終了したりする場合があります。
その場合は、使用したいアプリケーションを再度起動してください。

11 H.264/AVC, VC-1and MPEG-4ライセンスについて

本製品は、AVC、VC-1、MPEG-4 VISUAL規格特許ライセンスのもとで、個人的利用および非商業利用目的に限り、お客様が以下のいずれか、または両方の使用を行うことが許諾されています。(i) AVC、VC-1、MPEG-4 VISUAL標準規格に従いビデオをエンコードすること(以下「AVCビデオ」、「VC-1ビデオ」、「MPEG-4ビデオ」という)、(ii) 個人的、非商業的行為においてお客様によりエンコードされた、または/およびAVCビデオ、VC-1ビデオ、MPEG-4ビデオを提供するためにMPEG LAからライセンスを受けたビデオ提供者から取得した、AVCビデオ、VC-1ビデオ、MPEG-4ビデオをデコードすること。ほかの使用についてはライセンスを許諾されていません。上記以外の販売、社内利用および商業的利用など利用/許諾に関する情報については、MPEG LAのHP (http://www.mpegla.com) より入手いただけます。

● H.264/AVC, VC-1 and MPEG-4 License Notice

THIS PRODUCT IS LICENSED UNDER THE AVC, THE VC-1 AND MPEG-4 VISUAL PATENT PORTFOLIO LICENSE FOR THE PERSONAL AND NON-COMMERCIAL USE OF A CONSUMER FOR (i)ENCODING VIDEO IN COMPLIANCE WITH THE ABOVE STANDARDS ("VIDEO") AND/OR (ii)DECODING AVC, VC-1AND MPEG-4 VIDEO THAT WAS ENCODED BY A CONSUMER ENGAGED IN A PERSONAL AND NON-COMMERCIAL ACTIVITY AND/OR WAS OBTAINED FROM A VIDEO PROVIDER LICENSED BY MPEG LA TO PROVIDE SUCH VIDEO. NO LICENSE IS GRANTED OR SHALL BE IMPLIED FOR ANY OTHER USE. ADDITIONAL INFORMATION INCLUDING THAT RELATING TO PROMOTIONAL, INTERNAL AND COMMERCIAL USES AND LICENSING MAY BE OBTAINED FROM MPEG LA,L.L.C. SEE http://www.mpegla.com

1章

使いはじめる前に

前のパソコンで使っていたデータを移行する便利なソフト「PC引越ナビ」について説明します。

1 前のパソコンのデータを移行する
－PC引越ナビ－

パソコンを買い替えたときは、それまでに使用していたパソコンと同じ環境にするために、設定やデータの移行といった準備が必要です。
「PC引越ナビ」は、データや設定を一つにまとめ、新しいパソコンへの移行の手順を簡略化することができるアプリケーションです。
ここでは、移行したい設定やデータが保存されているパソコンを「前のパソコン」、設定やデータを移行したいパソコンを「新しいパソコン」として説明します。

環境を確認する

■前のパソコンの動作環境を確認する

「PC引越ナビ」は、次のシステムに対応しています。

- Windows XP
- Windows Vista
- Windows 7
- Windows 8

＊マイクロソフト社が提供している最新のService Packを適用してください。また、「Internet Explorer」のバージョンが「6 SP1」以上であることを確認してください。それ以下のバージョンの場合は、「6 SP1」を適用してください。

システムの正式名称は次のとおりです。

Windows XP............. Windows XP operating system 日本語版の全エディション
Windows Vista......... Windows Vista の全エディション
Windows 7................ Windows 7の全エディション
Windows 8................ Windows 8の全エディション

お願い 前のパソコンの動作環境について

- あらかじめ、次の説明を確認してください。

参照 「付録 1 - 1 「PC引越ナビ」について」

■移行の方法を確認する

設定・データの移行をするには、次の方法があります。

- USBフラッシュメモリを使用する
- USBフラッシュメモリとネットワーク（有線LAN）を使用する
- USBフラッシュメモリとクロスケーブル（有線LAN）を使用する＊1
- USBフラッシュメモリとDVD、またはUSBフラッシュメモリとブルーレイディスクを使用する＊2

＊1 「前のパソコン」と「新しいパソコン」が東芝製のGigabit Ethernet（1000BASE-T）搭載モデルの場合、クロスケーブルの代わりにLANケーブルも使用できます。
LANケーブルは、エンハンストカテゴリ5（CAT5e）以上のケーブルを使用してください。

＊2 使用できる記録メディアは、モデルによって異なります。
ドライブを搭載していないモデルの場合、外付けの書き込み可能なDVD／ブルーレイディスクドライブ（市販品）を接続して使用できます。
ただし、すべての外付けDVD／ブルーレイディスクドライブでの動作確認は行っておりません。したがって、すべての外付けDVD／ブルーレイディスクドライブでの動作は保証できません。

前のパソコンと、新しいパソコンの仕様を確認し、共通して使用できる方法のなかから、移行する設定・データの容量に適した方法を選んでください。

前のパソコンでどの方法が使用できるかを確認し、USBフラッシュメモリやネットワーク用のケーブル、DVDなどが必要な場合は購入してください。また、フォーマットが必要なUSBフラッシュメモリは、あらかじめフォーマットしてください。

- USBフラッシュメモリのみで移行する場合は、512MB以上の容量が必要です。
  移行するファイルや設定内容に比べて、USBフラッシュメモリの容量が小さいと、数回に分けてデータをコピーすることになりますので、大容量のUSBフラッシュメモリを移行用に使用することをおすすめします。
- USBフラッシュメモリの代わりに、メディアカードを使用することもできます。
  本製品で使用できるメディアカードについては、「2章 9 いろいろなメディアカードを使う」で確認してください。

移行できる設定とデータ

「PC引越ナビ」を起動したときの、ユーザーの設定とデータを移行できます。

- **Internet Explorerの設定**＊1
- **Windows Live メール（Windows メールまたはWindows 8のメール機能、Outlook Express）の設定**＊2＊4
- **Microsoft Outlookの設定**＊3＊4
- **［ドキュメント］（または［マイドキュメント］）フォルダーに保存されているファイル**
- **デスクトップ上のファイル**
- **任意のフォルダーに含まれるファイル**

＊1 Microsoft Internet Explorer 6 SP1以上
＊2 移行できるデータは、「Microsoft Outlook Express（バージョンが6.0 SP1以上）」、「Windows メール」、「Windows Live メール」のデータです。
＊3 移行できるデータは、「Microsoft Outlook 2000」以降のデータです。
本製品には、Office搭載モデルにのみ、「Microsoft Outlook」が付属およびインストールされています。
前のパソコンに保存されている「Microsoft Outlook」のデータをOfficeが搭載されていないモデルに移行したいときは、「PC引越ナビ」をご使用の前に、市販の「Microsoft Outlook」を新しいパソコンにインストールする必要があります。
移行するためには、「Microsoft Outlook 2003」以降の「Microsoft Outlook」をインストールしてください。
＊4 新しいパソコンにメールソフトがインストールされていない場合でも、「PC引越ナビ」はパソコンにデータを保存します。
「Windows Live メール」および「Microsoft Outlook」は起動したときに、保存したデータのインポート（取り込み）を行います。
メールソフトによっては、違うソフトのデータを変換して取り込むことができます。
詳しくは、メールソフトのヘルプを確認してください。

メモ

- 移行できる設定やデータの詳細は、「PC引越ナビ」のヘルプで確認してください。

1 インストール方法

「PC引越ナビ」は、購入時の状態ではインストールされていません。
次の手順でインストールしてください。

1 スタート画面のタイルのない部分で、右クリックする

2 ［すべてのアプリ］をクリックする

3 ［ アプリケーションの再インストール］をクリックする

4 ［セットアップ画面へ］をクリックする

5 ［アプリケーション］タブをクリックする

6 画面左側の［PC引越ナビ］をクリックし、［「PC引越ナビ」のセットアップ］をクリックする

7 画面の指示に従ってインストールする

「XXXX（ファイル名）を実行または保存しますか？」というメッセージが表示された場合は、［実行］ボタンをクリックしてください。

2 起動方法

1 スタート画面のタイルのない部分で、右クリックする

2 ［すべてのアプリ］をクリックする

3 ［ PC引越ナビ］をクリックする

「PC引越ナビ」が起動します。

4 画面下の ヘルプ？ ボタンをクリックし、注意制限事項を確認する

「PC引越ナビ」のヘルプが表示されます。
「PC引越ナビ」の注意制限事項をお読みください。
目次で［注意制限事項とメッセージ］をクリックし、画面右側に表示される各項目をよくお読みください。

5 ［同意する］をチェックし、［次へ］ボタンをクリックする

使用許諾契約に同意しないと、「PC引越ナビ」を使用することはできません。
注意事項が表示されます。内容を確認し、［次へ］ボタンをクリックしてください。

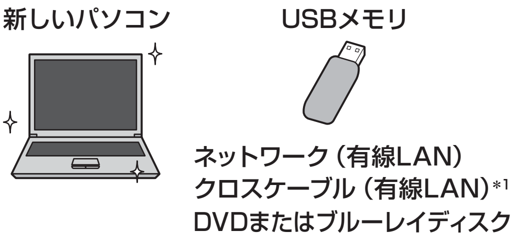
引き続き、説明画面が表示されますので、内容を確認しながら、操作してください。

3 操作の流れ

設定とデータの移行は、画面の指示に従って行います。移行する設定・データや使用する移行方法などで操作の詳細は異なりますが、大まかな流れは次のとおりです。
新しいパソコンと前のパソコンとで交互に作業を行いますので、近くに設置して行うとよいでしょう。

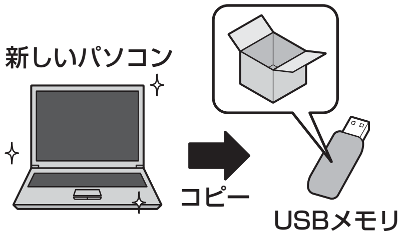
移行方法を決める

いくつかある移行方法のなかから、前のパソコンと新しいパソコンの仕様や、移行するデータの容量を元に移行方法を選択します。



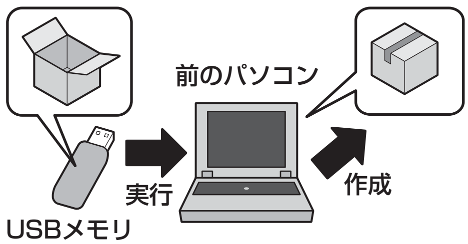
「こん包プログラム」をコピーする

「こん包プログラム」は複数のファイルを1つにまとめるプログラムです。
USBフラッシュメモリにコピーしてください。



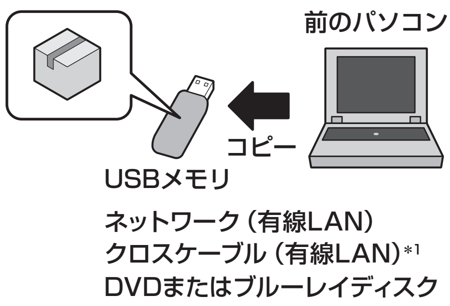
「こん包プログラム」を実行する

コピーした「こん包プログラム」を前のパソコンで実行し、移行する複数のデータを1つのファイル（「こん包ファイル」）にまとめます。



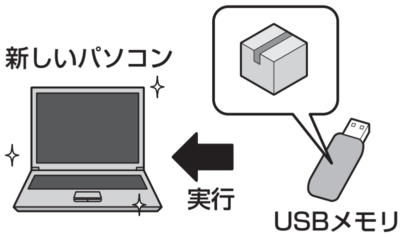
「こん包ファイル」をコピーする

作成した「こん包ファイル」をコピーします。
移行するデータの容量によっては、「こん包ファイル」は複数作成されます。すべての「こん包ファイル」をコピーしてください。



「こん包ファイル」を開こんする

コピーした「こん包ファイル」を新しいパソコンで開き、コピーします。



＊1「前のパソコン」と「新しいパソコン」が東芝製のGigabit Ethernet（1000BASE-T）搭載モデルの場合、クロスケーブルの代わりにLANケーブルも使用できます。
LANケーブルは、エンハンストカテゴリ5（CAT5e）以上のケーブルを使用してください。

2 リカバリーメディアを作る

パソコンにトラブルが発生したときに、パソコンを購入時の状態（初期状態）に戻すことを「リカバリー」といいます。
本製品には、システムやアプリケーションを購入時の状態に復元するためのリカバリーツールが搭載されています。
リカバリーDVD-ROMが付属していないモデルの場合、「TOSHIBA Recovery Media Creator」を使って、あらかじめ、リカバリーツールのバックアップをとっておくこと（リカバリーメディアの作成）をおすすめします。
作成したリカバリーメディアは大切に保管してください。
何らかのトラブルでハードディスクドライブからリカバリーできない場合でも、リカバリーメディアからリカバリーをすることができるようになります。
リカバリーメディアがない状態で、ハードディスクドライブからリカバリーが行えない場合は、修理が必要になる可能性があります。東芝PCあんしんサポートに相談してください。

■リカバリーを行うと

リカバリーをすると、ハードディスクドライブ内に保存されているデータ（文書ファイル、画像・映像ファイル、メールやアプリケーションなど）はすべて消去され、設定した内容（インターネットやメールの設定、Windowsパスワードなど）も購入時の状態に戻る、つまり何も設定していない状態になります。
詳しくは、『セットアップガイド』を参照してください。
また、データのバックアップについては、普段から定期的に行っておくことをおすすめします。

リカバリーメディアを作成できる記録メディア

「TOSHIBA Recovery Media Creator」では、次の記録メディアのいずれかを使用できます。何もデータが書き込まれていないものを用意してください。

- USBフラッシュメモリ
- 記録用のDVDメディア*1（DVD-R、DVD-R DL、DVD-RW、DVD+R、DVD+R DL、DVD+RW）

＊1 使用できる記録メディアは、モデルによって異なります。
ドライブを搭載していないモデルの場合は、外付けの書き込み可能なDVD／ブルーレイディスクドライブ（市販品）を接続すると、DVDを使用できます。
ただし、すべての外付けDVD／ブルーレイディスクドライブでの動作確認は行っておりません。したがって、すべての外付けDVD／ブルーレイディスクドライブでの動作は保証できません。

必要な記録メディアの枚数や容量は［TOSHIBA Recovery Media Creator］画面に表示されます。
DVDの場合は、必要な枚数が表示されます。複数枚使用する場合は、同じ規格の記録メディアで統一してください。
USBフラッシュメモリの場合は、リカバリーメディアの作成に最低限必要な容量が表示されます。表示される容量より大きい容量のUSBフラッシュメモリを用意してください。

お願い　DVDについて／DVDの使用推奨メーカー

＊ 使用できるDVD記録メディアについては、「付録 2 - 2 使えるDVDを確認しよう」を確認してください。
外付けのDVD／ブルーレイディスクドライブ（市販品）を使用して作成する場合は、『DVD／ブルーレイディスクドライブに付属の説明書』を確認してください。

- 推奨するメーカーのDVDを使用してください。規格に準拠したDVDを使用してください。
- 外付けのDVD／ブルーレイディスクドライブ（市販品）で使用できるDVDについては、『DVD／ブルーレイディスクドライブに付属の説明書』を確認してください。

お願い リカバリーメディアの作成にあたって

- 「TOSHIBA Recovery Media Creator」ではDVD-RAMおよびブルーレイディスクを使用できません。
- 「TOSHIBA Recovery Media Creator」を使ってリカバリーメディアを作成するときは、ほかのアプリケーションソフトをすべて終了させてから、行ってください。

DVDまたはUSBフラッシュメモリに書き込みを行うときは、次の注意をよく読んでから使用してください。
守らずに使用すると、書き込みに失敗するおそれがあります。また、ドライブへの振動や衝撃などの本体異常や、メディアの状態などによっては処理が正常に行えず、書き込みに失敗することがあります。

- 書き込みに失敗したメディアの損害については、当社はいっさいその責任を負いません。また、記憶内容の変化・消失など、メディアに保存した内容の損害および内容の損失・消失により生じる経済的損害といった派生的損害については、当社はいっさいその責任を負いませんので、あらかじめご了承ください。
- DVDに書き込むときには、それぞれの書き込み速度に対応し、それぞれの規格に準拠した記録メディアを使用してください。また、推奨するメーカーの記録メディアを使用してください。

参照 DVDについて「付録 2 - 2 使えるDVDを確認しよう」、
『DVD／ブルーレイディスクドライブに付属の説明書』

- バッテリー駆動で使用中に書き込みを行うと、バッテリーの消耗などによって書き込みに失敗するおそれがあります。必ず電源コードとACアダプターを接続してパソコン本体を電源コンセントに接続して使用してください。
- 書き込みを行うときは、本製品の省電力機能が働かないようにしてください。また、スリープ、休止状態、シャットダウンまたは再起動を実行しないでください。

参照 省電力機能について「5章 2 省電力の設定をする」

- 次に示すような、ライティングソフトウェア以外のソフトウェアは終了させてください。
  - ・スクリーンセーバー
  - ・ウイルスチェックソフト
  - ・ディスクのアクセスを高速化する常駐型ユーティリティ
  - ・音楽や映像の再生アプリケーション
  - ・LANなどの通信アプリケーション　　など

  ソフトウェアによっては、動作の不安定やデータの破損の原因となります。
- タッチパッドを操作する、ウィンドウを開く、ユーザーを切り替える、画面の解像度や色数の変更など、パソコン本体の操作を行わないでください。
- パソコン本体に衝撃や振動を与えないでください。
- 書き込み中は、周辺機器の取り付け／取りはずしを行わないでください。

参照 周辺機器について「4章 周辺機器を使って機能を広げよう」

- パソコン本体から携帯電話、およびほかの無線通信装置を離してください。

リカバリーメディアを作成するには、以降の説明を参照してください。

1 インストール方法

「TOSHIBA Recovery Media Creator」は、購入時の状態ではインストールされていません。次の手順でインストールしてください。

1. **スタート画面のタイルのない部分で、右クリックする**
2. **［すべてのアプリ］をクリックする**
3. **［ アプリケーションの再インストール］をクリックする**
4. **［セットアップ画面へ］をクリックする**
5. **［ユーティリティ］タブをクリックする**
6. **画面左側の［TOSHIBA Recovery Media Creator］をクリックし、［「TOSHIBA Recovery Media Creator」のセットアップ］をクリックする**
7. **画面の指示に従ってインストールする**

   「XXXX（ファイル名）を実行または保存しますか？」というメッセージが表示された場合は、［実行］ボタンをクリックしてください。

2 リカバリーメディアを作成する

外付けのDVD／ブルーレイディスクドライブ（市販品）でDVDのリカバリーメディアを作成する場合は、あらかじめDVD／ブルーレイディスクドライブをパソコン本体に接続しておいてください。

参照 接続方法『DVD／ブルーレイディスクドライブに付属の説明書』

1 スタート画面の［デスクトップ］をクリックする

デスクトップ画面が表示されます。

2 ［デスクトップアプリメニュー］アイコン（ ）をダブルクリックする

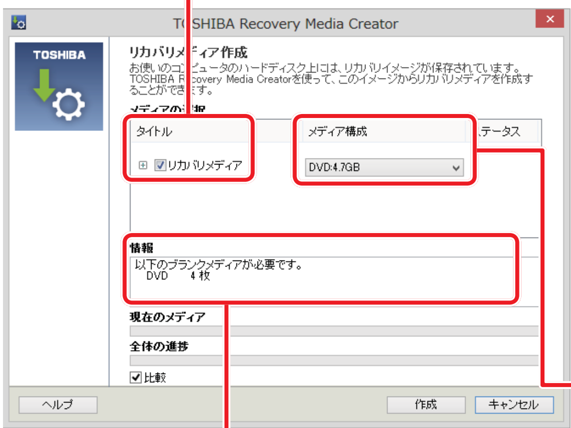
「東芝デスクトップアプリメニュー」が起動します。

3 ［サポート＆リカバリー］→［リカバリーメディア作成ツール ］をクリックする

「TOSHIBA Recovery Media Creator」が起動します。

4 ［タイトル］、［メディア構成］を選択する

［情報］に、必要なDVDの枚数やUSBフラッシュメモリの容量が表示されるので、用意してください。



（表示例）

タイトル
チェックボックスにチェックがついている（☑）リカバリーメディアを作成します。
⊞をクリックすると作成するリカバリーメディアの一覧が表示されます。
作成する必要のないリカバリーメディアは、チェックをはずしてください。

メディア構成
作成する記録メディアの種類を選択します。

情報
DVDの場合、画面に表示される枚数分が必要になります。
USBフラッシュメモリの場合、画面に表示される容量が必要になります。

5 ［作成］ボタンをクリックする

作成するリカバリーメディアの確認と記録メディアのセットを求める画面が表示されます。

6 DVDまたはUSBフラッシュメモリをセットする

参照 DVDのセット「2章 6-2 CD／DVDを使うとき（セット）」、『DVD／ブルーレイディスクドライブに付属の説明書』

参照 USBフラッシュメモリ「4章 2 USB対応機器を使う」

7 ［OK］ボタンをクリックする

作成が開始され、［現在のメディア］に、作成しているリカバリーメディアの進捗状況が表示されます。
作成を途中で中止する場合は、［キャンセル］ボタンをクリックしてください。

DVDの場合、作成が終了すると、記録メディアが自動的に出てきます。
作成するメディアが複数枚ある場合は、メッセージに従って記録メディアを入れ替えてください。

8 メッセージを確認し、［OK］ボタンをクリックする

作成したリカバリーメディアには、次のことがわかるように目印をつけてください。

- 「リカバリーメディアであること」
- 複数枚ある場合は、番号

たとえばDVDの場合、「リカバリーメディアXX（番号）」というように、レーベル面に油性のフェルトペンなどで記載してください。リカバリーをするとき、この番号の順にリカバリーメディアを使用しないと、正しくリカバリーされません。必ずリカバリーメディア番号がわかるようにして保管してください。

9 ［閉じる］ボタン（ × ）をクリックする

［TOSHIBA Recovery Media Creator］画面が閉じ、リカバリーメディアの作成を終了します。

リカバリーメディアからリカバリーをする操作手順については、『セットアップガイド』を参照してください。
「TOSHIBA Recovery Media Creator」の詳細は、ヘルプを参照してください。

ヘルプの起動方法

1 「TOSHIBA Recovery Media Creator」を起動後、［ヘルプ］ボタンをクリックする

参照 「TOSHIBA Recovery Media Creator」のお問い合わせ先
『取扱説明書 付録 2 お問い合わせ先』

2章

パソコンの基本操作を覚えよう

このパソコン本体の各部について、基本の使いかたなどを説明しています。

1 電源を入れるとき

1 メッセージが表示された場合

電源を入れたときにメッセージが表示された場合は、次の内容を確認してください。

■パスワードを設定している場合

● **ユーザーパスワードを設定している場合**

電源を入れると次のメッセージが表示されます。

```
Password＝
```

設定したユーザーパスワードを入力し、ENTERキーを押してください。

参照 パスワードについて「6章 3 パスワードセキュリティ」

● **HDDパスワードを設定している場合**

電源を入れると次のメッセージが表示されます。

```
HDD/SSD Password＝
```

設定したHDDパスワードを入力し、ENTERキーを押してください。

メモ

- パスワードの入力ミスを3回繰り返した場合は、自動的に電源が切れます。
  パスワードを入力せずに約1分経過した場合も、自動的に電源が切れます。
  パスワード入力画面で自動的に電源が切れると、LAN、USB、スリープ解除タイマーからの許可によるWake-upができません。
  その場合は電源を入れ直してください。
- ユーザーパスワードとHDDパスワードの両方を設定してある場合は、ユーザーパスワード→HDDパスワードの順に認証が求められます。ただし、ユーザーパスワードとHDDパスワードが同一の文字列の場合は、ユーザーパスワードの認証終了後、HDDパスワードの認証は省略されます。

参照 パスワードについて「6章 3 パスワードセキュリティ」

■メッセージが表示される場合

不明なメッセージについては、『セットアップガイド』の「Q&A集」をご覧ください。

2 起動するドライブを変更する場合

ご購入時の設定では、本体のハードディスクドライブからシステムを起動します。起動するドライブを変更したい場合、次の方法で変更できます。

1 一時的に変更する

**＊この操作は、本マニュアルを参照しながら実行することはできません。
必ず本項目のページを印刷してから実行してください。**

電源を入れたときに表示されるメニューから、起動するドライブを選択できます。

1 データを保存し、SHIFT キーを押しながら［シャットダウン］をクリックして電源を切る

参照 電源の切りかた『取扱説明書』

2 電源スイッチを押し、すぐに F12 キーを数回押す

各種パスワードを設定している場合は、パスワードの入力をうながすメッセージが表示されます。パスワードを入力して ENTER キーを押してください。

3 起動したいドライブを ↑ または ↓ キーで選択し、ENTER キーを押す

一時的にそのドライブが起動最優先ドライブとなり、起動します。

お願い

- 「▶HDD Recovery」は選択しないでください。HDDリカバリーを実行すると、ハードディスクドライブ内に保存されているデータはすべて消去されます。
  間違えて選択してしまった場合、メッセージが表示されますので N キーを押してしてください。
  電源が切れるので、手順 2 からやり直してください。
  HDDリカバリー（ハードディスクドライブからパソコンを初期状態に戻す）については、『セットアップガイド』を確認してください。

2 あらかじめ設定しておく

「東芝システムセッティング」の［起動オプション］で起動ドライブの優先順位を変更できます。

参照 設定の変更「6章 1 東芝システムセッティング」

3 ディスプレイを開くと、電源が入るようにする

パネルオープンパワーオン機能を有効に設定した場合、ディスプレイを開くと、自動的にパソコンの電源が入るようになります。

1 スタート画面の［デスクトップ］をクリックする

デスクトップ画面が表示されます。

2 ［デスクトップアプリメニュー］アイコン（ ）をダブルクリックする

「東芝デスクトップアプリメニュー」が起動します。

3 ［ユーティリティ］→［システムセッティング ］をクリックする

「東芝システムセッティング」が起動します。

4 ［起動オプション］をクリックする

5 ［パネルオープン パワーオン］の下に表示されているボタンを右側へドラッグする

6 ［OK］ボタンをクリックする

2 使い終わったら

パソコンを使い終わったときは、電源を完全に切る「シャットダウン」を行ってください。

参照 電源の切りかた『取扱説明書』

パソコンの使用を一時的に中断したいときは、スリープまたは休止状態にすると、パソコンの使用を中断したときの状態が保存されます。
再び処理を行う（電源スイッチを押す、ディスプレイを開くなど）と、パソコンの使用を中断したときの状態が再現されます。

警告

- 電子機器の使用が制限されている場所ではパソコンの電源を切る
  パソコン本体を航空機や電子機器の使用が制限されている場所（病院など）に持ち込む場合は、無線通信機能を無効に設定した上で、パソコンの電源を切ってください。ほかの機器に影響を与えることがあります。
  - 無線通信機能は、FN＋F8キーを押してOFFにすることができます。FN＋F8キーを押して［機内モード オン］に設定し、ワイヤレスコミュニケーションLEDが消灯しているのを確認してください。
  - スリープや休止状態では、パソコンが自動的に復帰することがあるため、飛行を妨げたり、ほかのシステムに影響を及ぼしたりすることがあります。
  - 電源を切った状態でも、パソコンが自動的に起動するような設定のソフトウェアの場合は、あらかじめ設定を無効（解除）にしてください。
  - ディスプレイを開くことで自動的に電源が入るパネルオープンパワーオン機能を設定している場合は、あらかじめ設定を無効（解除）にしてください。
  - Intel® Rapid Start Technologyで休止状態になっている場合がありますので、確実に電源を切るため、一度パソコンを起動し、その後電源を切って（シャットダウンして）ください。＊1

＊1 Intel® Rapid Start Technology搭載モデルのみ

お願い 操作にあたって

中断する前に

- スリープまたは休止状態を実行する前にデータを保存することを推奨します。
- スリープまたは休止状態を実行するときは、記録メディアへの書き込みが完全に終了していることを確認してください。
  書き込み途中のデータがある状態でスリープまたは休止状態を実行すると、データの書き込みが正しく行われません。
- スリープまたは休止状態を実行するときは、SDメモリカードやUSB接続型の外付けハードディスクドライブなどとのデータの読み出し、保存（書き込み）が完全に終了していることを確認してください。
  データのアクセス途中でスリープを実行すると、データの読み出し、保存が正しく行われません。

中断したときは

- スリープ中や休止状態では、バッテリーやメモリの取り付け／取りはずしは行わないでください。
  ・保存されていないデータは消失します。
  ・感電、故障のおそれがあります。
  ・次回電源を入れたときに、システムが起動しないことがあります。
  また、スリープ中にバッテリー残量が減少した場合も同様に、次回起動時にシステムが起動しないことがあります。
  システムが起動しない場合は、電源スイッチを５秒間押していったん電源を切ったあとで、再度電源を入れてください。この場合、スリープ前の状態は保持できていません（Windowsエラー回復処理で起動します）。
- スリープまたは休止状態を利用しないときは、データを保存し、アプリケーションをすべて終了させてから、電源を切ってください。保存されていないデータは消失します。

ハイブリッド スリープのときは

- ハイブリッド スリープを有効にしているとき、スリープを実行するとすぐに画面は真っ暗になりますが、しばらくの間はハードディスクドライブへのデータ保存が行われています。ハードディスクドライブへのアクセス中は、パソコン本体を動かさないでください。

1 スリープ

パソコンの使用を中断する場合は、パソコンを「スリープ」にしましょう。次に電源スイッチを押したときに、すばやく中断したときの状態を再現することができます。
スリープ中はバッテリーを消耗しますので、電源コードとACアダプターを取り付けて使用することを推奨します。作業を中断している間にバッテリーの残量が少なくなったときは、通常のスリープでは保存されていないデータは消失します。

参照 ハイブリッド スリープ「本項 2 スリープ機能を強化する」

なお数日以上使用しないときや、付属の説明書で電源を切る手順が記載されている場合（メモリの取り付け／取りはずしや、バッテリーパックの取り付け／取りはずしなど）は、スリープではなく、必ず電源を切ってください。

1 スリープの実行方法

1 ポインターを画面の上または下の右隅に合わせる

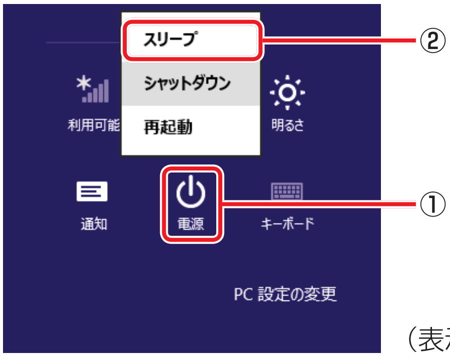
チャームが表示されます。

参照 チャームの操作方法『セットアップガイド』

2 ［設定］をクリックする

画面右側に［設定］画面が表示されます。

3 ［電源］をクリックし①、表示されたメニューから［スリープ］をクリックする②



（表示例）

スリープ状態から復帰させるときは、電源スイッチを押してください。

メモ

- FN ＋ F3 キーを押して、スリープを実行することもできます。

2 スリープ機能を強化する

通常のスリープのほかに「ハイブリッド スリープ」という機能が用意されています。
パソコンの使用を中断したとき、それまでの作業をメモリに保存するスリープに対して、ハイブリッド スリープはメモリとハードディスクの両方に保存します。
作業を中断している間にバッテリーの残量が少なくなった場合などは、通常のスリープでは保存されていないデータは消失します。ハイブリッド スリープを有効にしておくと、ハードディスクから作業内容を復元できます。ハイブリッド スリープを有効にしている状態でスリープを実行すると、ハイブリッド スリープとして機能します。この場合は、スリープを実行してからスリープ状態になるまでの時間が長くなります。
またスリープを実行してから一定時間が経過すると、自動的に休止状態に移行するようにも設定できます。

参照 休止状態に移行する設定について「本項-「役立つ操作集」」

ハイブリッド スリープを有効にするには、次の手順で設定してください。

1 スタート画面の［デスクトップ］をクリックする

デスクトップ画面が表示されます。

2 ［デスクトップアプリメニュー］アイコン（ ）をダブルクリックする

「東芝デスクトップアプリメニュー」が起動します。

3 ［コントロールパネル］をクリックする

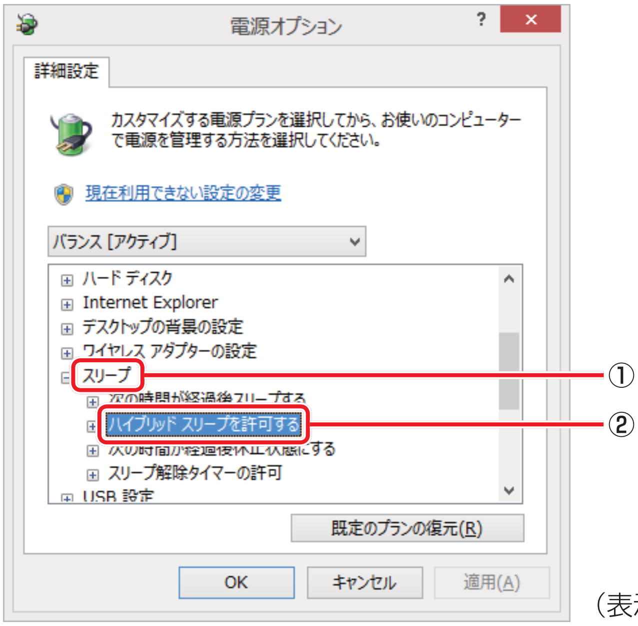
4 ［ ハードウェアとサウンド］→［ 電源オプション］をクリックし、選択している電源プランの［プラン設定の変更］をクリックする

［プラン設定の変更］は、各電源プランの右端に表示されています。選択している電源プランの［プラン設定の変更］をクリックしてください。
ハイブリッド スリープの設定は、電源プランごとに必要です。
［プラン設定の編集］画面が表示されます。

5 ［詳細な電源設定の変更］をクリックする

［詳細設定］画面が表示されます。

6 ［スリープ］をダブルクリックし①、表示される項目から［ハイブリッド スリープを許可する］をダブルクリックする②



（表示例）

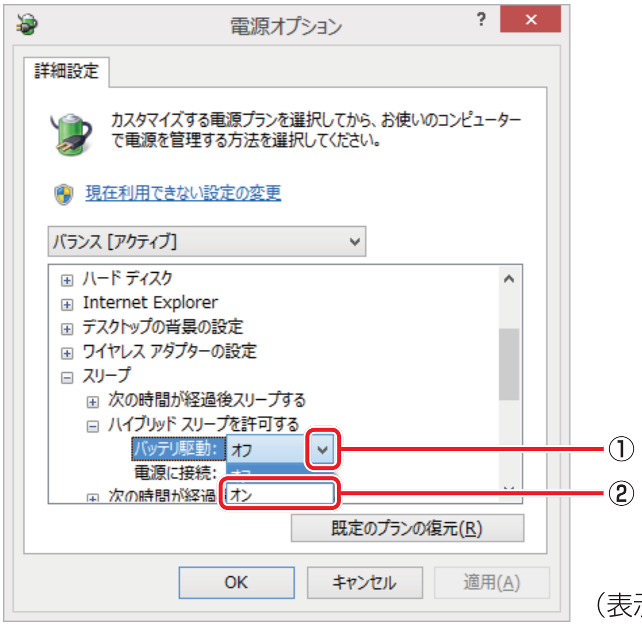
7 ハイブリッド スリープをONにしたい項目（［バッテリ駆動］／［電源に接続］）をクリックする

それぞれの項目は、次のようになります。

［バッテリ駆動］：バッテリー駆動時の、ハイブリッド スリープ機能のON／OFFを設定できます。

［電源に接続］：電源に接続しているときの、ハイブリッド スリープ機能のON／OFFを設定できます。

8 項目の横に表示された をクリックし①、表示されたメニューから［オン］をクリックする②



（表示例）

9 ［OK］ボタンをクリックする

これでハイブリッド スリープを有効にする設定は完了です。
この状態でスリープを実行すると、ハイブリッド スリープとして機能します。

役立つ操作集

一定時間の経過後、休止状態にする

スリープを実行してから一定時間が経過すると、自動的に休止状態に移行するよう設定できます。
［詳細設定］画面で［次の時間が経過後休止状態にする］をダブルクリックし、表示された項目を選択して▲ ▼で時間を設定してください。
スリープを実行してから設定した時間が経過すると、自動的に休止状態に移行します。

参照 休止状態『Windows ヘルプとサポート』

2 休止状態

パソコンの使用を中断したときの状態をハードディスクに保存します。次に電源を入れると、状態を再現できます。なお数日以上使用しないときや、付属の説明書で電源を切る手順が記載されている場合（メモリやバッテリーパックの取り付け／取りはずしなど）は、休止状態ではなく、必ず電源を切ってください。

1 休止状態の実行方法

1 FN＋F4キーを押す

休止状態から復帰させるときは、電源スイッチを押してください。

3 スリープから一定時間後に休止状態にする

＊Intel® Rapid Start Technology搭載モデルのみ

Intel® Rapid Start Technology搭載モデルには、スリープから一定時間後に休止状態に変わる、Intel® Rapid Start Technologyが搭載されています。
Intel® Rapid Start Technologyの搭載により、スリープ状態よりもバッテリー保持時間を延ばします。

Intel® Rapid Start Technologyは、購入時の状態では有効に設定されており、スリープを実行後、2時間で休止状態に変わる設定になっています。
無効に設定する場合や、スリープから休止状態に変わるまでの時間を変更する場合はBIOSセットアップから設定してください。

お願い

- Intel® Rapid Start Technologyでスリープから休止状態に移行すると、LAN、USB、スリープ解除タイマーからの許可によるWake-upができません。
- Intel® Rapid Start Technologyを無効（Disabled）にしてもSSD上にあるIntel® Rapid Start Technologyの領域は削除することはできません。
- Intel® Rapid Start Technologyで、スリープから休止状態に移行した状態からのWindowsの復帰時間は、Windowsのメモリの使用容量によって変わります。
- スリープを実行する前にデータを保存することを推奨します。
- Intel® Rapid Start Technologyでスリープから休止状態に移行した状態で放置し、バッテリー残量がなくなると、作成中のデータで保存されていないものが消失し、Windowsは正常に復帰できなくなります。

1 「無効」に設定する方法

＊ この操作は、本マニュアルを参照しながら実行することはできません。
必ず本項目のページを印刷してから実行してください。

1 **データを保存し、SHIFTキーを押しながら［シャットダウン］をクリックして電源を切る**

参照 電源の切りかた『取扱説明書』

2 **電源スイッチを押し、すぐにF2キーを数回押して、BIOSセットアップを起動する**

各種パスワードを設定している場合は、パスワードの入力をうながすメッセージが表示されます。パスワードを入力してENTERキーを押してください。

3 **←→キーを押して、「Advanced」メニューを表示する**

4 **↑↓キーを押してカーソルを「Intel(R) Rapid Start Technology」に合わせ、ENTERキーを押す**

5 **表示されたメニューで、↑↓キーを押してカーソルを「Disabled」に合わせ、ENTERキーを押す**

6 **F10キーを押す**

確認のメッセージが表示されます。

7 **Yキーを押す**

設定内容が有効になり、BIOSセットアップが終了します。
パソコンが再起動します。

2 スリープから休止状態に変わるまでの時間を変更する方法

＊この操作は、本マニュアルを参照しながら実行することはできません。
必ず本項目のページを印刷してから実行してください。

1 データを保存し、SHIFTキーを押しながら［シャットダウン］をクリックして電源を切る

参照 電源の切りかた『取扱説明書』

2 電源スイッチを押し、すぐにF2キーを数回押して、BIOSセットアップを起動する

各種パスワードを設定している場合は、パスワードの入力をうながすメッセージが表示されます。パスワードを入力してENTERキーを押してください。

3 ←→キーを押して、「Advanced」メニューを表示する

4 ↑↓キーを押してカーソルを「Intel(R) Rapid Start Technology」に合わせ、ENTERキーを押す

5 表示されたメニューで、↑↓キーを押してカーソルを「Enabled」に合わせ、ENTERキーを押す

6 ↑↓キーを押してカーソルを「Rapid Start Entry after」に合わせ、ENTERキーを押す

7 表示されたメニューで、↑↓キーを押してカーソルを変更したい時間に合わせ、ENTERキーを押す

「Immediately」を選択した場合は、スリープに入るとすぐに休止状態になります。

8 F10キーを押す

確認のメッセージが表示されます。

9 Yキーを押す

設定内容が有効になり、BIOSセットアップが終了します。
パソコンが再起動します。

4 簡単に電源を切る／パソコンの使用を中断する

チャームから操作しないで、パソコン本体の電源スイッチを押したときやディスプレイを閉じたときに、電源を切る（電源OFF）、またはスリープ／休止状態にすることができます。

1 パソコン本体の電源スイッチを押したときの動作の設定

1 スタート画面の［デスクトップ］をクリックする

デスクトップ画面が表示されます。

2 ［デスクトップアプリメニュー］アイコン（ ）をダブルクリックする

「東芝デスクトップアプリメニュー」が起動します。

3 ［コントロールパネル］をクリックする

4 ［ ハードウェアとサウンド］をクリックする

5 ［ 電源ボタンの動作の変更］をクリックする

6 ［電源ボタンを押したときの動作］で［スリープ状態］［休止状態］［シャットダウン］のいずれかを選択する

［何もしない］に設定すると、特に変化はありません。
「バッテリ駆動」時と「電源に接続」時のそれぞれについて設定してください。

7 ［変更の保存］ボタンをクリックする

パソコン本体の電源スイッチを押すと、手順 6 で設定した状態へ移行します。

2 ディスプレイを閉じたときの動作の設定

1 スタート画面の［デスクトップ］をクリックする

デスクトップ画面が表示されます。

2 ［デスクトップアプリメニュー］アイコン（ ）をダブルクリックする

「東芝デスクトップアプリメニュー」が起動します。

3 ［コントロールパネル］をクリックする

4 ［ ハードウェアとサウンド］をクリックする

5 ［ 電源ボタンの動作の変更］をクリックする

6 ［カバーを閉じたときの動作］で［スリープ状態］［休止状態］［シャットダウン］のいずれかを選択する

［何もしない］に設定すると、パネルスイッチ機能は働きません。
「バッテリ駆動」時と「電源に接続」時のそれぞれについて設定してください。

7 ［変更の保存］ボタンをクリックする

ディスプレイを閉じると、手順 6 で設定した状態へ移行します。
［スリープ状態］［休止状態］に設定した場合は、次にディスプレイを開くと、自動的にディスプレイを閉じる前の状態が再現されます。

メモ

- ディスプレイを閉じることによって［スリープ状態］［休止状態］［シャットダウン］のうち、あらかじめ設定した状態へ移行する機能を、パネルスイッチ機能といいます。

3 タッチパッド

1 タッチパッドで操作する

電源を入れてWindowsを起動すると、パソコンのディスプレイに が表示されます。この矢印を「ポインター」といい、操作の開始位置を示しています。この「ポインター」を動かしながらパソコンを操作していきます。
パソコン本体には、「ポインター」を動かすタッチパッドと、操作の指示を与える左ボタン／右ボタンがあります。

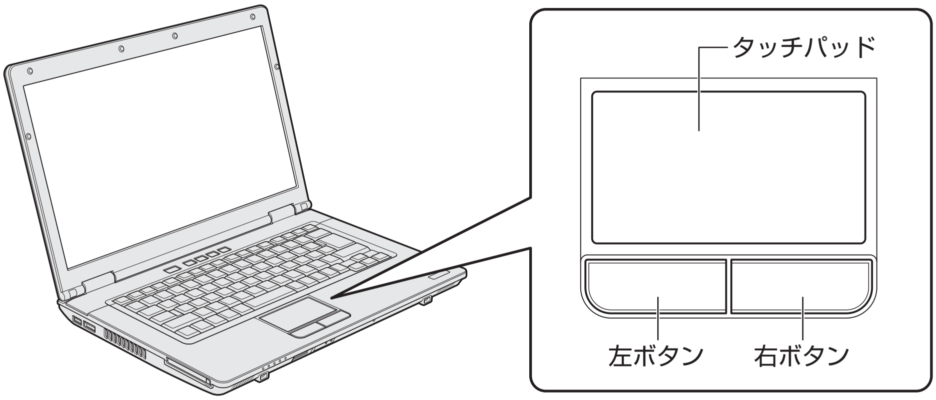
タッチパッドと左ボタン／右ボタンを使ってポインターを動かし、パソコンを操作してみましょう。ここでは、タッチパッドと左ボタン／右ボタンの基本的な機能を説明します。

お願い タッチパッドの操作にあたって

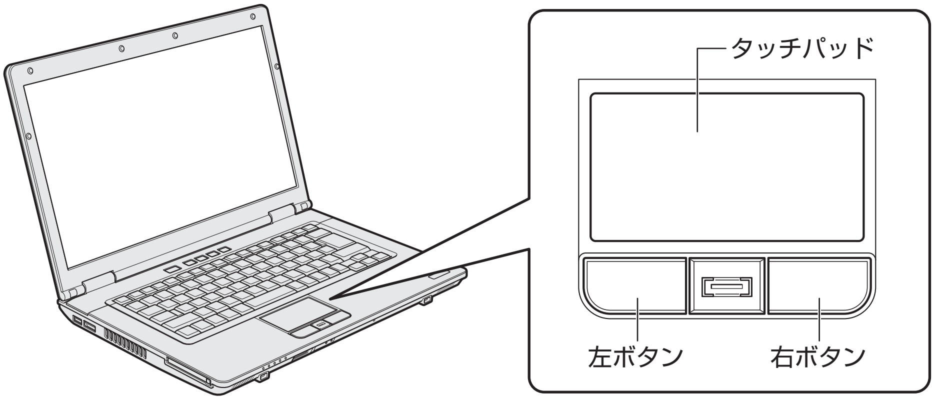
- あらかじめ、次の説明を確認してください。

参照 「付録 1 - 2 - タッチパッドの操作にあたって」

■指紋センサーを搭載していないモデルの場合



■指紋センサー搭載モデルの場合



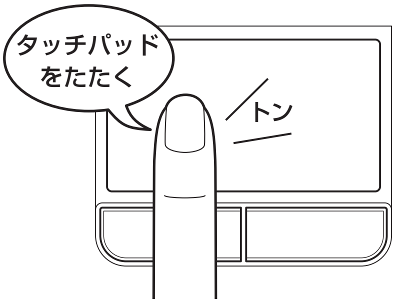
以降、指紋センサーを搭載していないモデルを例に説明します。

1 タッピングの方法

タッチパッドを指で軽くたたくことを「タッピング」といいます。
タッピング機能を使うと、左ボタンを使わなくても、次のような基本的な操作ができます。
＊次のイラストは指紋センサーを搭載していないモデルの例です。

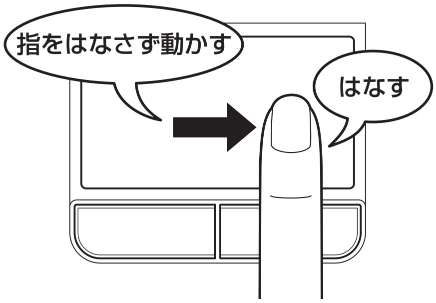
❏ クリック／ダブルクリック

タッチパッドを1回軽くたたくとクリック、2回たたくとダブルクリックができます。



❏ ドラッグアンドドロップ

タッチパッドを続けて2回たたき、2回目はタッチパッドから指をはなさずに目的の位置まで移動し、指をはなします。



2 タッチパッドの使用環境を設定する

タッチパッドやポインターの設定は、［マウスのプロパティ］で行います。

1 ［マウスのプロパティ］の起動方法

1 スタート画面の［デスクトップ］をクリックする

デスクトップ画面が表示されます。

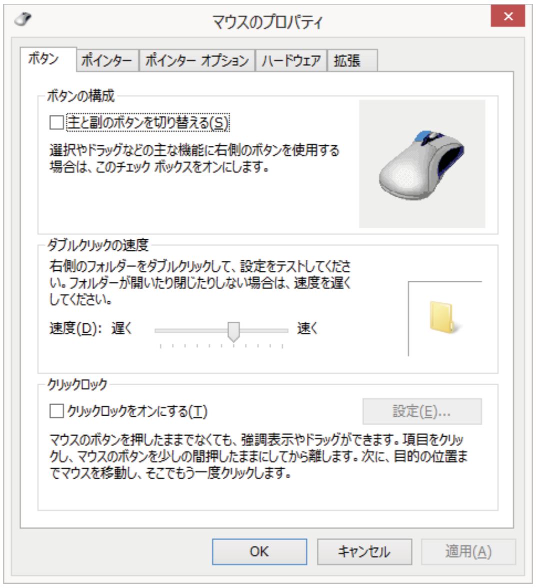
2 ［デスクトップアプリメニュー］アイコン（）をダブルクリックする

「東芝デスクトップアプリメニュー」が起動します。

3 ［コントロールパネル］をクリックする

4 ［ハードウェアとサウンド］→［マウス］をクリックする

［マウスのプロパティ］画面が表示されます。



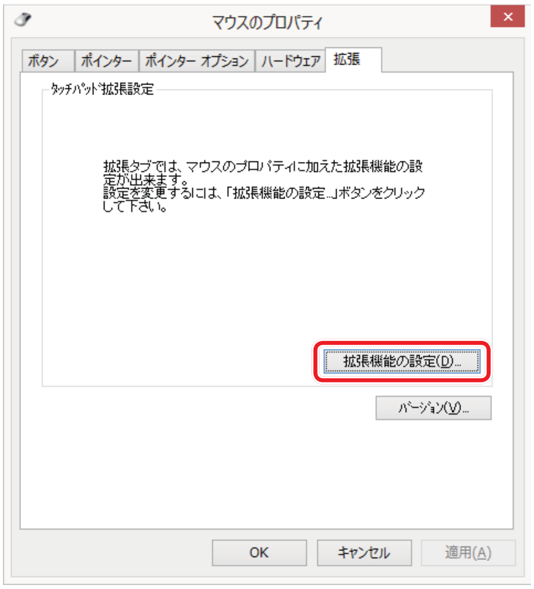
（表示例）

＊モデルによって画面構成が異なる場合があります。

2 タッチパッドの設定方法

［マウスのプロパティ］では、タッチパッドやポインターなどの各種設定ができます。
タッチパッドの設定をするには、次のように操作してください。

1 ［マウスのプロパティ］画面の［拡張］タブで［拡張機能の設定］ボタンをクリックする

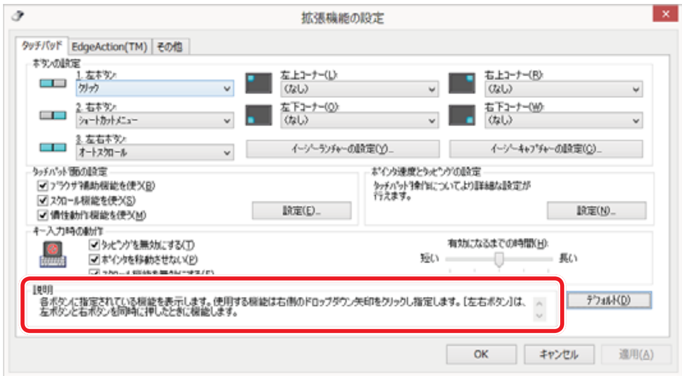


（表示例）

［拡張機能の設定］画面が表示されます。

2 ［タッチパッド］タブまたは［その他］タブで各項目を設定する

各項目にポインターを合わせると、画面下部の［説明］欄に詳細が表示されます。



（表示例）

役立つ操作集

タッチパッドを有効／無効にするには

FN ＋ F9 キーを押すたびにタッチパッドの有効／無効を切り替えることができます。

FN ＋ F9 キーでタッチパッドの有効／無効を切り替える場合は、タッチパッドから指をはなしてから行ってください。

FN ＋ F9 キーでタッチパッドの操作を有効にした瞬間、カーソルの動きが数秒不安定になることがあります。そのような場合は、一度タッチパッドから指をはなしてください。しばらくすると、正常に操作できるようになります。

USB対応マウス接続時に、自動的にタッチパッドを無効にする

USB対応マウスを接続したときに、タッチパッドによる操作が自動的に無効になるように設定することができます。

① スタート画面の［デスクトップ］画面をクリックする
　デスクトップ画面が表示されます。
② ［デスクトップアプリメニュー］アイコン（　）をダブルクリックする
　「東芝デスクトップアプリメニュー」が起動します。
③ ［コントロールパネル］をクリックする
④ ［　ハードウェアとサウンド］→［　マウス］をクリックする
⑤ ［拡張］タブで［拡張機能の設定］ボタンをクリックする
　［拡張機能の設定］画面が表示されます。
⑥ ［その他］タブの［USBマウス接続時の動作］で［タッチパッドを無効にする］をチェックする
⑦ ［OK］ボタンをクリックする
　［マウスのプロパティ］画面に戻ります。
⑧ ［OK］ボタンをクリックする

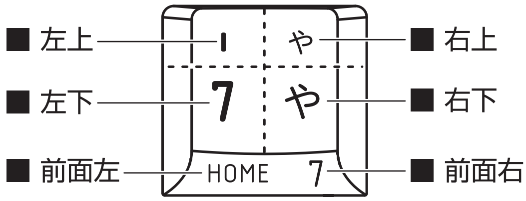
FN ＋ F9 キーを押して設定する「タッチパッドON／OFF機能」とは連動していません。
市販のUSB対応マウスをお使いの場合、マウスの種類によっては、本機能が動作しない場合があります。

4 キーボード

各キーにはさまざまな機能が用意されています。いくつかのキーを組み合わせて押すと、いろいろな操作が実行できます。

1 キーボードの文字キーの使いかた

文字キーは、文字や記号を入力するときに使います。キーボードの文字入力の状態によって、入力できる文字や記号が変わります。



左上	ほかのキーは使わず、そのまま押すと、アルファベットの小文字などが入力できます。 SHIFT キーを押しながら押すと、記号やアルファベットの大文字が入力できます。
左下	ほかのキーは使わず、そのまま押すと、数字や記号が入力できます。
右上	かな入力ができる状態で SHIFT キーを押しながら押すと、記号、ひらがなの促音（小さい「っ」）、拗音（小さい「ゃ、ゅ、ょ」）が入力できます。
右下	かな入力ができる状態で押すと、ひらがなや記号が入力できます。
前面左	＊ テンキーを搭載していないモデルのみ アローモードのときに押すと、カーソル制御キーとして使えます。
前面右	＊ テンキーを搭載していないモデルのみ 数字ロックモードのときに押すと、テンキーとして使えます。

2 FN キーを使った特殊機能キー

キー	内容
FN ＋ ESC ＜スピーカーのミュート＞	FN キーを押したまま、ESC キーを押すたびに本体のスピーカーやヘッドホンの音量のミュート（消音）のON／OFFが切り替わります。
FN ＋ SPACE ＜本体液晶ディスプレイの解像度切り替え＞	FN キーを押したまま、SPACE キーを押すたびに本体液晶ディスプレイの解像度が切り替わります。
FN ＋ TAB ＜ディスクトレイを開く＞	＊ドライブ搭載モデルのみ FN キーを押したまま、TAB キーを押すと、ディスクトレイが開きます。
FN ＋ F1 ＜インスタントセキュリティ機能＞	コンピューターをロックします。 解除するには、SHIFT キーを押してください。Windowsパスワードを設定している場合は、パスワード入力欄にWindowsパスワードを入力し、ENTER キーを押してください。
FN ＋ F2 ＜電源プランの切り替え＞	FN キーを押したまま、F2 キーを押すたびに電源プランが切り替わります。
FN ＋ F3 ＜スリープ機能の実行＞	FN キーを押したまま、F3 キーを押すと、スリープ機能が実行されます。
FN ＋ F4 ＜休止状態の実行＞	FN キーを押したまま、F4 キーを押すと、休止状態になります。
FN ＋ F5 ＜表示装置の切り替え＞	表示装置を切り替えます。 参照 詳細について「4章 4 - 2 表示を切り替える」
FN ＋ F6 ＜本体液晶ディスプレイの輝度を下げる＞	FN キーを押したまま、F6 キーを押すたびに本体液晶ディスプレイの輝度が下がります。
FN ＋ F7 ＜本体液晶ディスプレイの輝度を上げる＞	FN キーを押したまま、F7 キーを押すたびに本体液晶ディスプレイの輝度が上がります。
FN ＋ F8 ＜無線通信機能のON／OFF＞	FN キーを押したまま、F8 キーを押すたびに、無線通信機能のON／OFFが切り替わります。 ［機内モード オフ］にすると無線通信機能はONになります。 ［機内モード オン］にすると無線通信機能はOFFになります。
FN ＋ F9 ＜タッチパッド ON／OFF＞	FN キーを押したまま、F9 キーを押すたびにタッチパッドの有効／無効を切り替えます。

キー	内容
FN＋F10 ＜オーバーレイ機能＞	**＊ テンキーを搭載していないモデルのみ** FNキーを押したまま、F10キーを押すと、アローモードになります。キー左下に灰色で印刷されているカーソル制御キー（↑、↓、←、→、HOME、PGUPなど）として使えます。アローモードを解除するには、もう一度FN＋F10キーを押します。 Arrow Mode LEDが点灯します。
FN＋F11 ＜オーバーレイ機能＞	**＊ テンキーを搭載していないモデルのみ** FNキーを押したまま、F11キーを押すと、数字ロックモードになります。キー右下に灰色で印刷されているテンキー（1、2、3など）として使えます。数字ロックモードを解除するには、もう一度FN＋F11キーを押します。アプリケーションによっては異なる場合があります。 Numeric Mode LEDが点灯します。
FN＋F12 ＜スクロールロック状態＞	**＊ テンキーを搭載していないモデルのみ** 一部のアプリケーションで、↑↓←→キーを画面スクロールとして使用できます。ロック状態を解除するには、もう一度FN＋F12キーを押します。
FN＋↑ ＜PGUP（ページアップ）＞	**＊ テンキーを搭載していないモデルのみ** 一般的なアプリケーションで、FNキーを押したまま、↑キーを押すと、前のページに移動できます。
FN＋↓ ＜PGDN（ページダウン）＞	**＊ テンキーを搭載していないモデルのみ** 一般的なアプリケーションで、FNキーを押したまま、↓キーを押すと、次のページに移動できます。
FN＋← ＜HOME（ホーム）＞	**＊ テンキーを搭載していないモデルのみ** 一般的なアプリケーションで、FNキーを押したまま、←キーを押すと、カーソルが行または文書の最初に移動します。
FN＋→ ＜END（エンド）＞	**＊ テンキーを搭載していないモデルのみ** 一般的なアプリケーションで、FNキーを押したまま、→キーを押すと、カーソルが行または文書の最後に移動します。
FN＋1 ＜縮小＞	スタート画面／デスクトップ画面や一般的なアプリケーションで、FNキーを押したまま、1キーを押すと、画面やアイコンなどが縮小されます。
FN＋2 ＜拡大＞	スタート画面／デスクトップ画面や一般的なアプリケーションで、FNキーを押したまま、2キーを押すと、画面やアイコンなどが拡大されます。

「東芝ファンクションキー」について

FNキーを使った特殊機能キーの一部では、キーを押したときにメッセージを表示するかどうかを、「東芝ファンクションキー」で設定することができます。

1 スタート画面の［デスクトップ］をクリックする

デスクトップ画面が表示されます。

2 ［デスクトップアプリメニュー］アイコン（ ）をダブルクリックする

「東芝デスクトップアプリメニュー」が起動します。

3 ［ユーティリティ］→［ファンクションキー ］をクリックする

「東芝ファンクションキー」が起動します。

4 各項目を設定し、［OK］ボタンをクリックする

3 特殊機能キー

特殊機能	キー	操作
タスクマネージャーの起動	CTRL＋SHIFT＋ESC	［タスク マネージャー］画面が表示されます。アプリケーションやシステムの強制終了を行います。
画面コピー	PRTSC	現在表示中の画面をクリップボードにコピーします。
	ALT＋PRTSC	現在表示中のアクティブな画面をクリップボードにコピーします。
	⊞＋PRTSC	現在表示中の画面をPNGファイルとして保存します。 PNGファイルは、デスクトップ画面のタスクバーの［エクスプローラー］→［ライブラリ］→［ピクチャ］→［スクリーンショット］に保存されています。

5 ハードディスクドライブ

HDD搭載モデルには、ハードディスクドライブが搭載されています。
本体のハードディスクドライブは、取りはずしできません。
PCカードタイプ（TYPE Ⅱ）、eSATA接続型やUSB接続型のハードディスクなどを使用して記憶容量を増やすことができます。

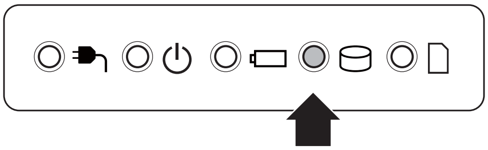
お願い 操作にあたって

- パソコンを激しく揺らしたり、強い衝撃を与えると、故障の原因となる場合があります。
- ハードディスクに記録された内容は、故障や障害の原因にかかわらず保証できません。
  万が一故障した場合に備え、バックアップをとることを推奨します。
- あらかじめ、次の説明を確認してください。

参照 「付録 1 - 3 ハードディスクドライブについて」

ハードディスクドライブに関する表示

本体のハードディスクやドライブ、eSATA接続型のハードディスクなどとデータをやり取りしているときは、Disk LEDが点灯します。



SSDについて

＊ SSD搭載モデルのみ

SSD搭載モデルは、補助記憶装置として、フラッシュメモリを記憶媒体とするドライブを搭載しています。SSD（ソリッドステートドライブ）とは、ハードディスクの記憶媒体である磁気ディスクの代わりに、NANDフラッシュメモリを使用した大容量記憶媒体です。
SSDの補助記憶装置としての機能は、ハードディスクドライブと同等です。
以下の機能についてもご利用いただけます。

- **BIOSセットアップ**
  BIOSセットアップ画面には「HDD/SSD」と表示されますが、SSDでも同様の動作をします。
- **HDDパスワード**
  ハードディスクドライブ同様、登録可能です。
- **ハードディスクドライブからのリカバリー**
  ハードディスクドライブ同様、SSDからリカバリーできます。

本書および付属の説明書では、HDDとSSDをまとめて「ハードディスクドライブ」と呼びます。

1 東芝HDDプロテクションについて

＊HDD搭載モデルのみ

「東芝HDDプロテクション」とは、パソコン本体に搭載された加速度センサーにより落下・振動・衝撃およびその前兆を検出し、HDD（ハードディスクドライブ）を損傷する危険性が軽減する機能です。
パソコンの使用状況に合わせ、検出レベルを設定できます。
パソコン本体の揺れを検知すると、メッセージが表示されます。

お願い　東芝HDDプロテクションの使用にあたって

- あらかじめ、次の説明を確認してください。

参照 「付録 1 - 3 - 東芝HDDプロテクションの使用にあたって」

メモ

- 購入時の状態では、東芝HDDプロテクションがONに設定されています。
- パソコン起動時、スリープ、休止状態、および休止状態へ移行中と休止状態からの復帰中、電源を切ったときには、東芝HDDプロテクションは動作しません。パソコンに衝撃が加わらないようにご注意ください。
- 音楽や動画の再生中に、パソコン本体の揺れを検出してHDDのヘッド退避が行われた場合、再生中の音楽や動画が一時的に途切れることがあります。

設定方法

東芝HDDプロテクションでは、パソコンの使用状況に合わせて検出レベルを設定することができます。

1 スタート画面の［デスクトップ］をクリックする

デスクトップ画面が表示されます。

2 ［デスクトップアプリメニュー］アイコン（ ）をダブルクリックする

「東芝デスクトップアプリメニュー」が起動します。

3 ［ユーティリティ］→［HDDプロテクション ］をクリックする

［東芝HDDプロテクション］画面が表示されます。



（表示例）

＊表示されるメニューは、モデルにより異なります。

4 各項目を設定する

設定項目は、次のとおりです。

HDDプロテクション	東芝HDDプロテクションの有効／無効を設定できます。
HDDプロテクション動作メッセージ	東芝HDDプロテクションが動作したときに、検出メッセージを表示するかどうかが設定できます。
システムトレーアイコン	東芝HDDプロテクションのアイコンを通知領域に表示するかどうかが設定できます。
検出レベル	「OFF／レベル1（低）／レベル2／レベル3（高）」のいずれかを選択できます。 バッテリー駆動時／電源（電源コードとACアダプター）接続時それぞれ設定できます。
検出レベル増幅機能	電源コードをコンセントから抜いたとき、一時的に検出レベルを高くしたい場合は、［電源からはずしたとき］をチェックします。
［標準設定］ボタン	東芝HDDプロテクションを購入時の設定に戻します。
［3D表示］ボタン	パソコン本体の傾きや揺れに合わせて動く3Dオブジェクトを画面上に表示します。

メモ　検出レベルについて

- 東芝HDDプロテクションを効果的に使用したい場合、「検出レベル」を「レベル3（高）」に設定することをおすすめします。ただし、パソコンを手に持って操作したり、不安定な場所で操作したりすると、頻繁に東芝HDDプロテクションが動作し、パソコンの応答が遅れることがあります。パソコンの応答速度を優先する場合は、設定を下げて使用できます。
- 机上でパソコンを使う場合（電源接続中）には検出レベルを上げ、手で持って使う場合（バッテリー駆動時）には検出レベルを下げる、といった使いかたができます。

メモ　3D表示

- ［東芝HDDプロテクション］画面で［3D表示］ボタンをクリックすると、［3D表示］画面が表示され、パソコン本体の傾きや揺れに合わせて動く3Dオブジェクトを画面上に表示します。振動を検出し、HDDのヘッドを退避させている間は、画面に表示されているディスクの回転が停止し、ヘッド退避が解除されると、回転が再開します。
［3D表示］画面を終了する場合は、［閉じる］ボタンをクリックしてください。
- ［3D表示］画面の3Dオブジェクトは、本体のハードディスクを仮想的に表現したものであり、ハードディスクのディスクの枚数や、ディスクの回転、ヘッドの動作、各部品のサイズや形状、向きなどは実際のものとは異なります。
- ［3D表示］画面を表示した状態でほかの作業を行ったときに、CPUやメモリの使用率が高くなる場合があるため、パソコンの動作が遅くなることがあります。

5 ［東芝HDDプロテクション］画面で［OK］ボタンをクリックする

メモ

- 東芝HDDプロテクションの各設定は、通知領域の［東芝HDDプロテクション］アイコン（ ）をクリックし、表示されたメニューから項目を選択して行うこともできます。
＊通知領域にアイコンが表示されていない場合は、 をクリックしてください。

6 CDやDVDを使う
－ドライブ－

ドライブ搭載モデルには、DVDスーパーマルチドライブ、DVD-ROMドライブのいずれかが搭載されています。搭載されているドライブは、購入したモデルによって異なります。

- **DVDスーパーマルチドライブ**
  DVD-RAM、DVD-RW、DVD-R、DVD+RW、DVD+R、CD-RW、CD-Rの読み出し／書き込み機能と、DVD-ROM、CD-ROMの読み出し機能を搭載したドライブです。

- **DVD-ROMドライブ**
  DVD-ROMの読み出し機能を搭載したドライブです。

『安心してお使いいただくために』に、CD／DVDを使用するときに守ってほしいことが記述されています。
CD／DVDを使用する場合は、あらかじめその記述をよく読んで、必ず指示を守ってください。

ドライブを搭載していないモデルの場合は、外付けのCD／DVD／ブルーレイディスクドライブ（市販品）を接続すると、CD／DVD／ブルーレイディスクを使用できます。
ただし、すべての外付けCD／DVD／ブルーレイディスクドライブでの動作確認は行っておりません。したがって、すべての外付けCD／DVD／ブルーレイディスクドライブでの動作は保証できません。

1 使える記録メディアを確認しよう

＊ ドライブ搭載モデルのみ

使用できるCD／DVDの詳細と、書き込み速度については、「付録 2 記録メディアについて」を確認してください。
使用する記録メディアによっては、読み出しができない場合があります。

1 DVDスーパーマルチドライブ搭載モデル

使用するメディアによっては、読み出しができない場合があります。

＊ 12cm/8cmディスク対応、Serial ATA接続、バッファアンダーランエラー防止機能付き。

○：使用できる　×：使用できない

	読み出し＊1	書き込み回数
CD-ROM	○＊2	×
CD-R	○	1回
CD-RW	○	繰り返し書き換え可能＊3
DVD-ROM	○＊2	×
DVD-R＊4	○＊5	1回
DVD-RW	○	繰り返し書き換え可能＊3
DVD+R＊6	○＊5	1回
DVD+RW	○	繰り返し書き換え可能＊3
DVD-RAM	○	繰り返し書き換え可能＊3

＊1 対応フォーマットによっては再生ソフトが必要な場合があります。
＊2 読み出し速度 CD-ROM：最大24倍速、DVD-ROM：最大8倍速。
＊3 実際に書き換えできる回数は、記録メディアの状態や書き込み方法により異なります。
＊4 本書では、「DVD-R」と記載している場合、特に書き分けのある場合を除き、DVD-R DL（DVD-R Dual Layer）を含みます。DVD-R DLは、Format4での読み出し/書き込みをサポートしておりません。
＊5 記録メディアの状態や書き込み方法により、読み出しできない場合があります。DVD-R DLのみ追記されたデータは読み出しできません。
＊6 本書では、「DVD+R」と記載している場合、特に書き分けのある場合を除き、DVD+R DL（DVD+R Double Layer）を含みます。

メモ　書き込みについて

- CD／DVDにデータを書き込むには、Windowsの書き込み機能を使用してください。
- 記録メディアにデータを書き込むとき、記録メディアの状態やデータの内容、またはパソコンの使用環境によって、実行速度は異なります。

お願い　CD／DVDに書き込む前に、書き込みを行うにあたって

- あらかじめ、次の説明を確認してください。

参照 「付録 1 - 12 - CD／DVDに書き込む前に」
参照 「付録 1 - 12 - 書き込みを行うにあたって」

2 DVD-ROMドライブ搭載モデル

DVD-ROMドライブは、CD／DVDの読み出しのみ可能です。
書き込みはできません。

2 CD／DVDを使うとき（セット）

＊ ドライブ搭載モデルのみ

CD／DVDは、パソコン本体に搭載されているドライブにセットして使用します。

お願い CD／DVDの操作にあたって

- あらかじめ、次の説明を確認してください。

参照 「付録 1 - 4 CDやDVDについて」
参照 「付録 2 - 1 使えるCDを確認しよう」
参照 「付録 2 - 2 使えるDVDを確認しよう」

メモ セットする前に確認しよう

- 傷ついたり汚れのひどいCD／DVDの場合は、挿入してから再生が開始されるまで、時間がかかる場合があります。汚れや傷がひどいと、正常に再生できない場合もあります。汚れをふきとってから再生してください。
- 記録メディアにデータを書き込むとき、記録メディアの状態やデータの内容、またはパソコンの使用環境によって、実行速度は異なります。
- CD／DVDの特性やCD／DVDへの書き込み時の特性によって、読み出せない場合もあります。
- CD／DVDの種類によっては、取り出すときWindowsが自動的にセッションを閉じてしまう場合があります。このとき、確認のメッセージなどは表示されません。
  よく確認してからCD／DVDをセットしてください。
  このWindowsの機能を無効にするには、次のように操作してください。
  ① スタート画面の［デスクトップ］をクリックする
  　デスクトップ画面が表示されます。
  ② タスクバーの［エクスプローラー］アイコン（）をクリックする
  　「エクスプローラー」が起動します。
  ③［コンピューター］をクリックする
  ④ ドライブのアイコンを右クリックし、表示されたメニューから［プロパティ］をクリックする
  　ドライブのプロパティ画面が表示されます。
  ⑤［書き込み］タブで［共通の設定］ボタンをクリックする
  ⑥［共通の設定］画面で［シングル セッション ディスクを取り出すとき］と［マルチ セッション ディスクを取り出すとき］のチェックをはずし、［OK］ボタンをクリックする

ドライブに関する表示

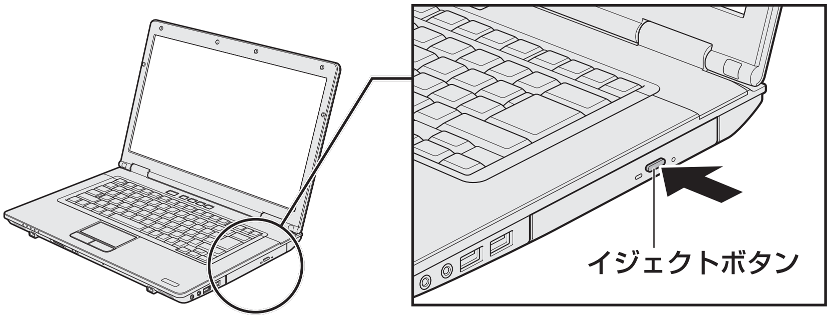
パソコンの電源が入っていて、ドライブが動作しているときは、ディスクトレイLED、Disk ⊖ LEDが点灯します。

1 セットする

1 パソコン本体の電源を入れる

Windowsが起動します。

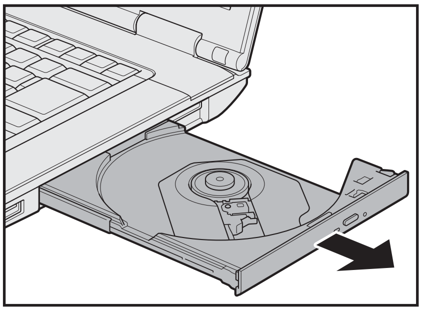
2 イジェクトボタンを押す



イジェクトボタンを押したら、ボタンから手をはなしてください。ディスクトレイが少し出てきます（数秒かかることがあります）。

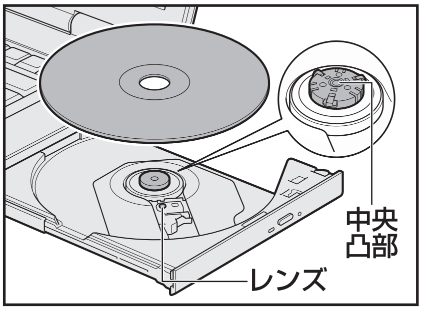
＊搭載されているドライブによってイジェクトボタンの位置は異なります。

3 ディスクトレイを引き出す



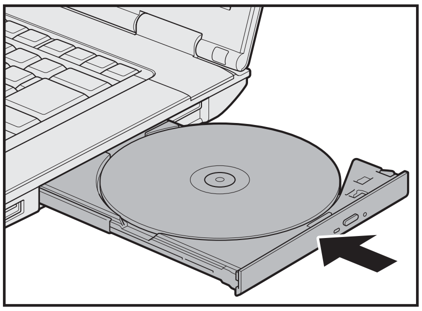
CD／DVDをのせるトレイがすべて出るまで、引き出します。

4 文字が書いてある面を上にして、CD／DVDの穴の部分をディスクトレイの中央凸部に合わせ、上から押さえてセットする



「カチッ」と音がして、セットされていることを確認してください。

5 「カチッ」と音がするまで、ディスクトレイを押し戻す



3 CD／DVDを使い終わったとき（取り出し）

＊ドライブ搭載モデルのみ

1 パソコン本体の電源が入っているか確認する

電源が入っていない場合は電源を入れてください。

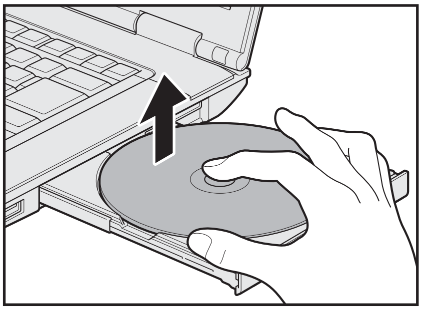
2 イジェクトボタンを押す

ディスクトレイが少し出てきます。

3 ディスクトレイを引き出す

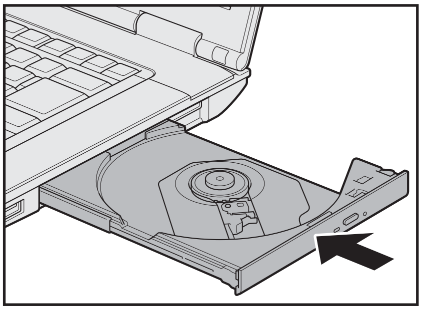
CD／DVDをのせるトレイがすべて出るまで、引き出します。

4 CD／DVDの両端をそっと持ち、上に持ち上げて取り出す



CD／DVDを取り出しにくいときは、中央凸部を少し押してください。簡単に取り出せるようになります。

5 「カチッ」と音がするまで、ディスクトレイを押し戻す



CD／DVDが出てこない場合

電源を切っているとき、または休止状態のときは、取り出しの操作をしてもCD／DVDは出てきません。電源を入れてから、CD／DVDを取り出してください。
次の場合は、電源が入っていても、すぐにCD／DVDは出てきません。

- 電源を入れた直後
- ディスクトレイを閉じた直後
- 再起動した直後
- ドライブ関係のLEDが点灯しているとき
- スリープ状態のとき

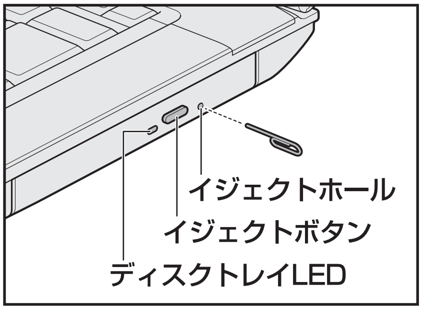
上記以外でCD／DVDが出てこない場合は、次のように操作してください。

- **Windows動作中の場合**
  CD／DVDを使用しているアプリケーションをすべて終了してから、イジェクトボタンを押してください。
- **パソコン本体の電源が入らない場合**

⚠注 意

- **クリップなどを使う場合は、取り扱いに十分注意する**
  先端のとがった部分でけがをするおそれがあります。

電源が入らない場合は、イジェクトホールを、先の細い丈夫なもの（クリップを伸ばしたものなど）で押してください。



＊搭載されているドライブによってイジェクトボタン、イジェクトホール、ディスクトレイLEDの位置は異なります。

4 DVD-RAMをフォーマットする

＊DVDスーパーマルチドライブ搭載モデルのみ

新品のDVD-RAMは、使用する目的に合わせて「フォーマット」という作業が必要です。
フォーマットとは、DVD-RAMにデータの管理情報（ファイルシステム）を記録し、DVD-RAMを使えるようにすることです。
フォーマットされていないDVD-RAMは、フォーマットしてから使用してください。

お願い DVD-RAMのフォーマットについて

- あらかじめ、次の説明を確認してください。

参照 「付録 1 - 4 - DVD-RAMのフォーマットについて」

ファイルシステム

DVD-RAMをフォーマットするときにファイルシステムを選択します。
ファイルシステムは、書き込むデータの種類や書き込み後の記録メディアを使用する機器に応じて選択します。また、映像データを書き込むときは、書き込み用のアプリケーションによって指定されている場合があります。
選択できるファイルシステムは「UDF2.50」「UDF2.01」「UDF2.00」「UDF1.50」「UDF1.02」です。

1 フォーマット方法

フォーマットは、Windows上で実行できます。
フォーマット方法については、『Windows ヘルプとサポート』を参照してください。

7 画面を調整する
−ディスプレイ−

本製品は表示装置としてTFTカラー液晶ディスプレイを搭載しています。
外部ディスプレイを接続して使用することもできます。

1 画面の明るさを調整する

本体液晶ディスプレイの明るさ（輝度）を調整します。

❑ 輝度の調整方法

FN＋F6 ：FNキーを押したまま、F6キーを押すたびに本体液晶ディスプレイの輝度が下がります。

FN＋F7 ：FNキーを押したまま、F7キーを押すたびに本体液晶ディスプレイの輝度が上がります。

2 着席／離席によって画面を自動的にON／OFFする

＊Webカメラ搭載モデルのみ

「TOSHIBA Active Display Off」は、パソコンの前に人がいるかどうかを本体のWebカメラで検出して判断し、本体液晶ディスプレイの画面を自動的にON／OFFする機能です。
画面をOFFすることにより、節電の効果があります（モデルによっては、効果が少ない場合があります）。
また、インターネットやメールなどを閲覧中に画面が自動的に消えることがあります。これは、一定時間マウスやキーボードなどの操作を行わなかったため、「電源オプション」の機能が働いたためですが、本機能を有効にしておくと、パソコンの前に人がいる間は画面が消えることがなくなります。

お願い 「TOSHIBA Active Display Off」を使用するにあたって

- あらかじめ、次の説明を確認してください。

参照 「付録 1 - 5 「TOSHIBA Active Display Off」について」

本機能は、購入時の状態では無効になっています。本機能を使用する場合は、「TOSHIBA Active Display Off」を起動して有効に設定してください。

1 起動して有効にする

1 スタート画面の［デスクトップ］をクリックする

デスクトップ画面が表示されます。

2 ［デスクトップアプリメニュー］アイコン（ ）をダブルクリックする

「東芝デスクトップアプリメニュー」が起動します。

3 ［ユーティリティ］→［Active Display Off ］をクリックする

初めて起動したときは［使用上の注意］画面が表示されるので、［同意する］ボタンをクリックしてください。
［TOSHIBA Active Display Off］画面が表示されます。

4 ［有効］がチェックされていることを確認し①、［OK］ボタンをクリックする②



①

Webカメラの撮影範囲
この範囲に人の顔を検出すると、本機能が動作します。

参照 Webカメラの位置
「本章 10 Webカメラを使う」

②

（表示例）

本機能を有効にすると、通知領域に［TOSHIBA Active Display Off］アイコン（ ）が常駐します。

＊通知領域にアイコンが表示されていない場合は、 をクリックしてください。

2 設定を変更する

本機能を無効に切り替えたり、詳細設定を行う場合は、次の方法で行います。

1 通知領域の［TOSHIBA Active Display Off］アイコン（）を右クリックして表示されるメニューから、［設定］をクリックする

［TOSHIBA Active Display Off］画面が表示されます。

2 設定を変更して［OK］ボタンをクリックする

メモ

- 購入時の状態では、パソコンの前に人がいなくなってから画面OFFとなるまでの時間は、約2～5分です（時間はモデルによって異なります）。
  画面が消えるまでの時間は、「電源オプション」の電源プランの各項目で設定している時間のうち、最少時間の約半分となります（ただし、約50秒～10分の範囲内）。
- 本機能が有効の場合、パソコン本体のWebカメラのLEDは、人を検出して画面ONの間は数分間隔で1回点灯し、人を検出できずに画面OFFの間は点灯し続けます。

8 サウンド

1 スピーカーの音量を調整する

スピーカーの音量は、次の方法で調整できます。

1 音量ボタンで調整する

メモ

- パソコンの起動時、または電源を切っているときは、音量ボタンを押しても音量調節はできません。

1 パソコン本体の音量ボタンを押す

音量ボタンの位置は、『取扱説明書』で確認してください。
音量ボタンの「+」を1回押すと音が大きくなります。
音量ボタンの「−」を1回押すと音が小さくなります。
音量を確認しながら、音量ボタンを何度か押して調整してください。

2 音量ミキサーから調整する

1 スタート画面の［デスクトップ］をクリックする

デスクトップ画面が表示されます。

2 ［デスクトップアプリメニュー］アイコン（　）をダブルクリックする

「東芝デスクトップアプリメニュー」が起動します。

3 ［コントロールパネル］をクリックする

4 ［　ハードウェアとサウンド］→［　システム音量の調整］をクリックする

［音量ミキサー］画面が表示されます。

5 各項目でつまみを上下にドラッグして調整する

［ミュート］ボタン（　）をクリックすると消音（ミュート）になります。



（表示例）

❏ 音量ミキサーの各項目

音量ミキサーの各項目では、次の音量が調整できます。

スピーカー	スピーカーの音量を調整します。
システム音	Windowsのプログラムイベント（メッセージの表示、システムエラーなどの動作）で再生されるサウンド設定の音量を調整します。

また、使用するアプリケーションにより異なる場合があります。

参照 詳細について『アプリケーションに付属の説明書』

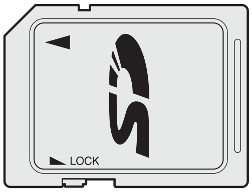
メモ

- インテル® ハイ・デフィニション・オーディオ準拠。
- キャプチャソフトなどを使用して、パソコンで再生中の音声を録音することはできません。

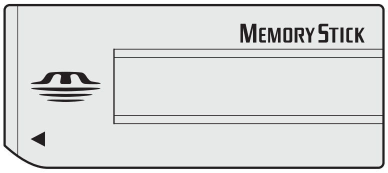
9 いろいろなメディアカードを使う
－ブリッジメディアスロット－

本製品では次のメディアカードをブリッジメディアスロットに差し込んで、データの読み出しや書き込みができます。
次のイラストは、実際のものとは多少異なる場合があります。

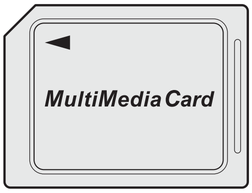
● SDメモリカード*[1]
（以降、SDHCメモリカード*[1]、SDXCメモリカード*[1]を含みます。）



● メモリースティック
● メモリースティックPRO



● マルチメディアカード

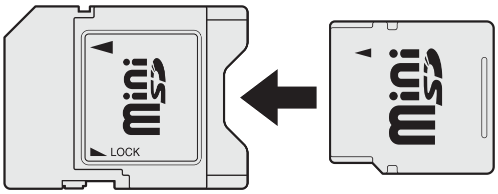


● xD-ピクチャーカード

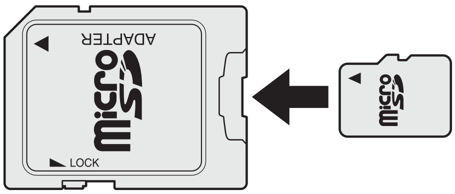


次のメディアカードは、市販のアダプターを装着すると、本製品のブリッジメディアスロットでも使用できます。必ずアダプターを装着した状態でご使用ください。

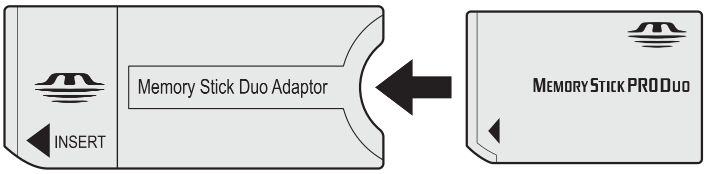
● miniSDメモリカード*[1]
（以降、miniSDHCメモリカード*[1]を含みます。）
SDメモリカードサイズのminiSDメモリカード用のアダプターを使用します。



● microSDメモリカード*[1]
（以降、microSDHCメモリカード*[1]を含みます。）
SDメモリカードサイズのmicroSDメモリカード用のアダプターを使用します。



● メモリースティックデュオ／メモリースティックPRO デュオ
メモリースティック デュオ アダプターを使用します。



＊1 著作権保護技術CPRMに対応しています。

アダプターの装着や使用方法は、『メディアカードに付属の説明書』を確認してください。

本書では、特に区別して説明する場合を除き、SDメモリカード、miniSDメモリカード、microSDメモリカードを「SDメモリカード」と呼びます。

すべてのメディアの動作を保証するものではありません。
高速データ転送には対応しておりません。

コンパクトフラッシュメモリカードなどは使用できません。使用する場合はUSB経由で周辺機器（デジタルカメラなど）を接続するか、専用のカードリーダーをご使用ください。

1 メディアカードを使う前に

お願い メディアカードの使用にあたって

- あらかじめ、次の説明を確認してください。

参照 「付録 2 - 3 メディアカードを使うにあたって」

新品のメディアカードは、メディアカードの規格に合わせてフォーマットされた状態で販売されています。
フォーマットとは、メディアカードを使えるようにすることです。
フォーマットされていないものを購入した場合や再フォーマットをする場合は、メディアカードを使用する機器（デジタルカメラやオーディオプレーヤーなど）で行ってください。

2 メディアカードのセットと取り出し

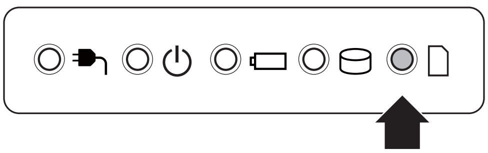
お願い 操作にあたって

- あらかじめ、次の説明を確認してください。

参照 「付録 2 - 3 - 1 メディアカードの操作にあたって」

ブリッジメディアスロットに関する表示

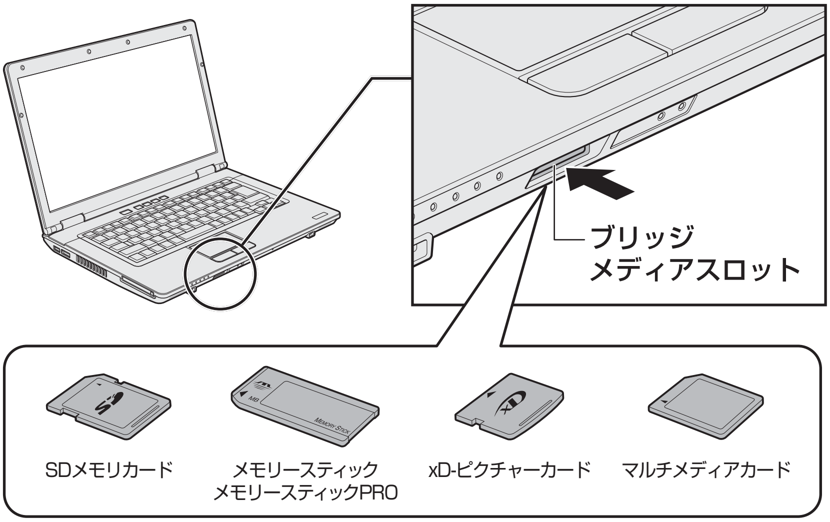
パソコン本体に電源が入っている場合、ブリッジメディアスロットに挿入したメディアカードとデータをやり取りしているときは、ブリッジメディア LEDが点灯します。



1 セットする

1 メディアカードの表裏を確認し、表を上にして、ブリッジメディアスロットに挿入する

奥まで挿入します。



お願い

- miniSDメモリカード、microSDメモリカードは、SDメモリカードサイズのアダプターが必要です。
  メモリースティックデュオ／メモリースティックPRO デュオは、メモリースティック デュオ アダプターが必要です。
  アダプターを使用しないで直接挿入すると、取り出せなくなります。

2 セットしたメディアカードの内容を見る

著作権保護*1を必要としない画像や音声、テキストなどの一般的なファイルは、次の手順で見ることができます。

著作権保護*1されたファイルについては見ることができない場合があります。

＊1 SDメモリカード、メモリースティックの場合

1 スタート画面の［デスクトップ］をクリックする

デスクトップ画面が表示されます。

2 タスクバーの［エクスプローラー］アイコン（）をクリックする

「エクスプローラー」が起動します。

2章 パソコンの基本操作を覚えよう

3 ［コンピューター］をクリックする

［コンピューター］画面が表示されます。

4 メディアカードのアイコンをダブルクリックする

以下の名称は表示の一例です。異なる名称が表示される場合があります。

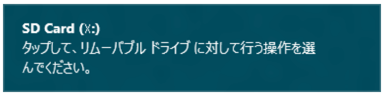
SDメモリカード	：リムーバブルディスク、セキュリティで保護された記憶域デバイス、SD
メモリースティック	：リムーバブルディスク、Memory Stick、MS/MSPro
メモリースティックPRO	：リムーバブルディスク、Memory Stick、MemoryStick PRO、MS/MSPro
xD-ピクチャーカード	：リムーバブルディスク、xD-Picture Card、xD
マルチメディアカード	：リムーバブルディスク、MMC記憶域デバイス、MMC

セットしたメディアカードの内容が表示されます。

メモ

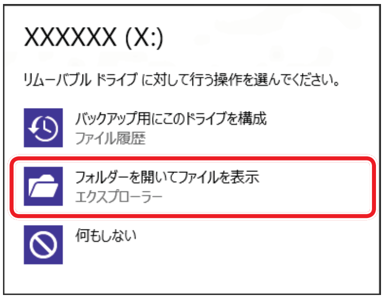
- メディアカードによっては、ブリッジメディアスロットにセットすると、自動的に内容が表示されたり、メディアカードに対する操作を選択する画面が表示される場合があります。
  次のように操作してください。

  ① メッセージをクリックする



（表示例）

  ② ［フォルダーを開いてファイルを表示］を選択する



（表示例）

3 取り出す

メディアカードに保存しているファイルを使用していたり、ウィンドウを開いたりしていると、取り出しができません。
ウィンドウやファイルを閉じてから、操作を行ってください。

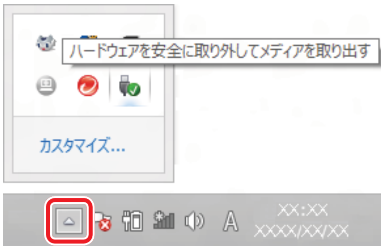
1 メディアカードの使用を停止する

①スタート画面の［デスクトップ］をクリックする

デスクトップ画面が表示されます。

②通知領域の［ハードウェアを安全に取り外してメディアを取り出す］アイコン（  または  ）をクリックする

＊ 通知領域にアイコンが表示されていない場合は、  をクリックしてください。



（表示例）

③表示されたメニューから［(取りはずすメディアカード) の取り出し］をクリックする

④「ハードウェアの取り外し」のメッセージが表示されたら、  をクリックする

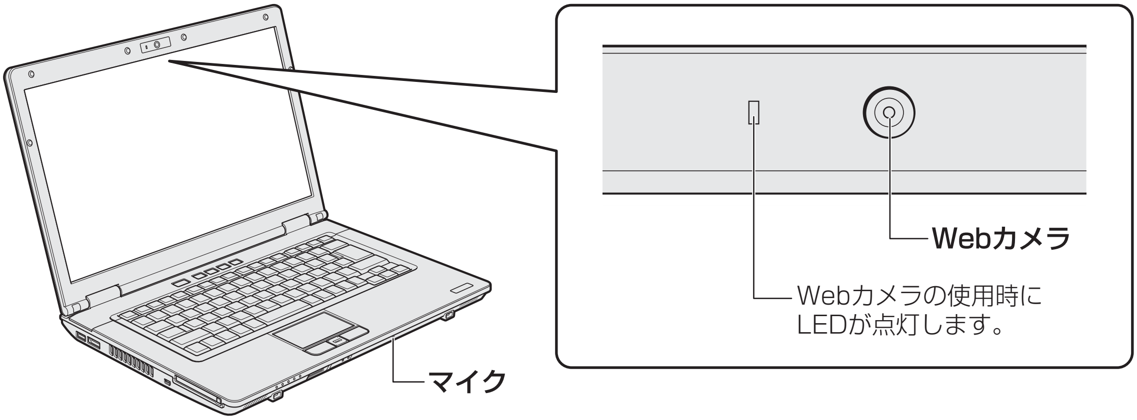
2 メディアカードを押す

カードが少し出てきます。そのまま手で取り出します。

10 Webカメラを使う

＊ Webカメラ搭載モデルのみ

Webカメラ搭載モデルには、「Webカメラ」が搭載されています。
写真や動画を撮影できます。
専用のアプリケーションを使うと、インターネット経由で映像を送ったり、ビデオチャットを行ったりできます。



お願い Webカメラについて

- Webカメラに保護シートが貼ってある場合には、Webカメラを使用する前に、必ず保護シートをはがしてください。
- あらかじめ、次の説明を確認してください。

参照 「付録 1 - 6 Webカメラについて」

1 Webカメラのアプリケーションについて

Webカメラで写真を撮ったり、ビデオを録画するには、「カメラ」アプリケーションを使用します。

1 起動方法

1 スタート画面の［カメラ］（ ）をクリックする

初回起動時はメッセージが表示されるので、［許可］をクリックしてください。
「カメラ」アプリケーションが起動します。

2 写真の撮影、ビデオ録画の開始／終了を行うには、撮影画面をクリックする

写真の撮影／ビデオ録画を切り替えるには、［ビデオ モード］をクリックしてください。

メモ

- 写真やビデオ録画のデータは、スタート画面の［フォト］→［ピクチャ ライブラリ］に保存されています。

3章

ネットワークの世界へ

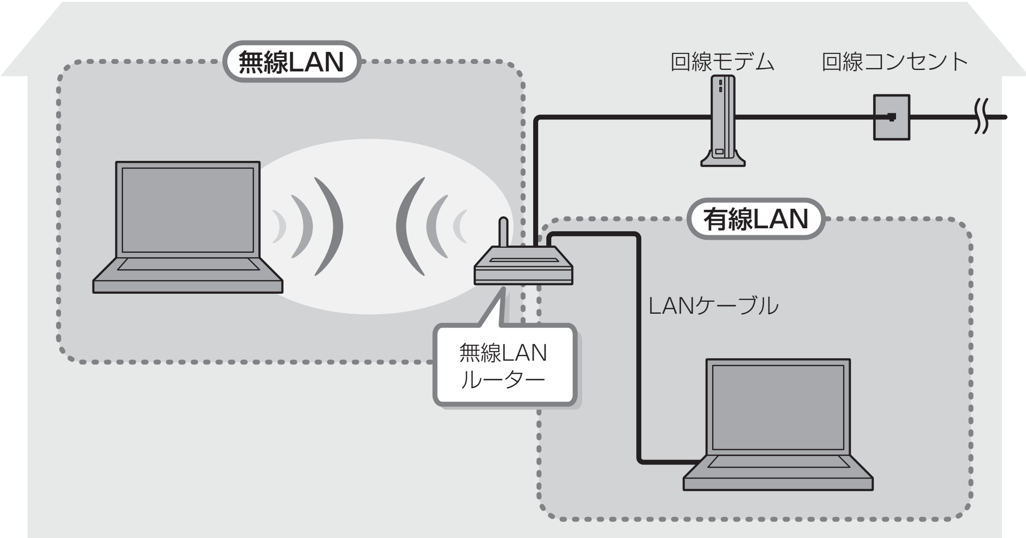
本製品に搭載されている通信に関する機能を説明しています。
ネットワークやほかのパソコンと通信する方法について紹介します。

1 ネットワークで広がる世界

会社や家庭でそれぞれ自分専用のパソコンを持っている場合、1つのプリンターを共有したいときや、インターネット接続を使いたいときは、ネットワークを使うと便利です。

1 LAN接続はこんなに便利

会社や家庭でそれぞれが自分専用のパソコンを持っている場合や、ひとりで複数のパソコンを持っている場合など、複数のパソコンがあるときは、LAN（ラン）（Local Area Network）を使うと便利です。
LAN機能にはケーブルを使った有線LANと、ケーブルを使わない無線LANがあります。



（接続例）

■有線LAN

有線LANの機能やLANケーブルの接続については、「本節 2 有線LANで接続する」を参照してください。

■無線LAN

無線LANとは、パソコンにLANケーブルを接続していない状態でもネットワークに接続できる、ワイヤレスのLAN機能のことです。モデムやルーターの位置とは関係なく、無線通信のエリア内であればあらゆる場所からコンピューターをLANシステムに接続できます。
無線LANルーターや無線LANアクセスポイント（市販）を使用することによって、パソコンからワイヤレスでネットワーク環境を実現できます。
ネットワークに接続したあとに、ファイルの共有の設定や、ネットワークに接続しているプリンターなどの機器の設定を行う必要があります。ネットワーク機器の接続先やネットワークの設定方法の詳細は、『Windows ヘルプとサポート』を参照してください。
ネットワークに接続している機器の設定は、各機器に付属の説明書を確認してください。
また、会社や学校で使用する場合は、ネットワーク管理者に確認してください。

2 有線LANで接続する

本製品には、ブロードバンド接続などに使用するLAN機能が搭載されています。
本製品のLANコネクタに光回線終端装置、ADSLモデムやブロードバンドルーターなどをLANケーブルで接続することができます。
また、本製品のLAN機能は、Gigabit Ethernet（ギガビット イーサネット）（1000BASE-T）、Fast Ethernet（ファスト イーサネット）（100BASE-TX）、Ethernet（イーサネット）（10BASE-T）に対応しています。LANコネクタにLANケーブルを接続し、ネットワークに接続することができます。Gigabit Ethernet、Fast Ethernet、Ethernetは、ご使用のネットワーク環境（接続機器、ケーブル、ノイズなど）により、自動で切り替わります。

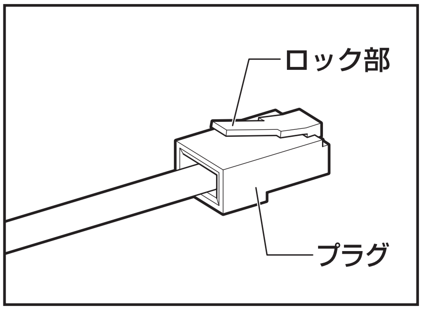
1 LANケーブルを接続する

お願い LANケーブルの使用にあたって

- あらかじめ、次の説明を確認してください。

参照 「付録 1 - 7 有線LANについて」

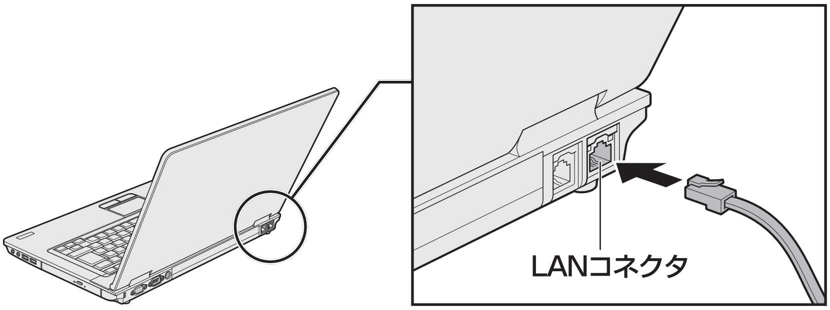
LANケーブルをはずしたり差し込むときは、プラグの部分を持って行ってください。また、はずすときは、プラグのロック部を押しながらはずしてください。ケーブルを引っ張らないでください。



1 パソコン本体に接続されているすべての周辺機器の電源を切る

2 LANケーブルのプラグをパソコン本体のLANコネクタに差し込む

ロック部を上にして、「カチッ」と音がするまで差し込んでください。



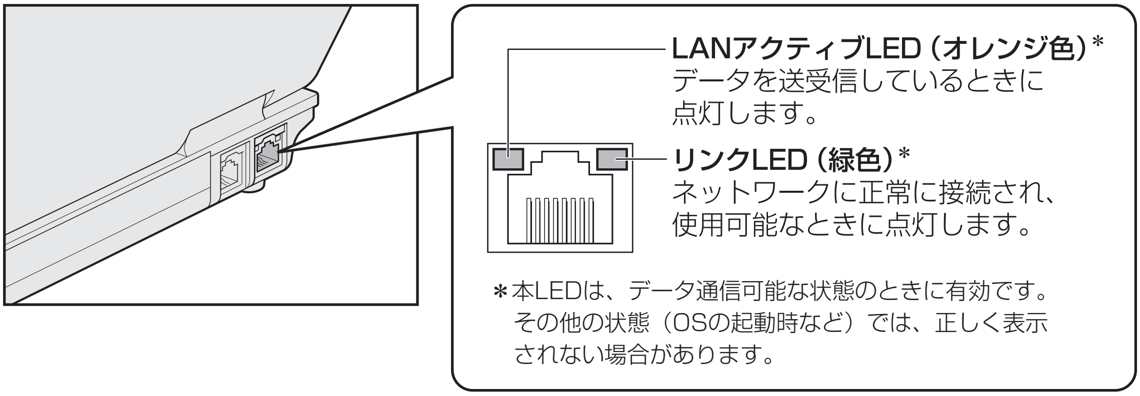
3 LANケーブルのもう一方のプラグを接続先のネットワーク機器のコネクタに差し込む

接続する機器により、以降の設定方法は異なります。

参照 光回線終端装置、ADSLモデムの設定について
『プロバイダーなどから送られてくる資料』
ブロードバンドルーターの設定について
『ブロードバンドルーターに付属の説明書』

動作状態を確認するには

LANコネクタの両脇には、LANインターフェースの動作状態を示す2つのLEDがあります。



3 ワイヤレス（無線）LANを使う

＊無線LAN機能搭載モデルのみ

1 無線LANモジュールの確認

使用しているパソコンに搭載された無線LANモジュールの種類は、「デバイス マネージャー」を使って確認できます。

1 スタート画面の［デスクトップ］をクリックする

デスクトップ画面が表示されます。

2 ［デスクトップアプリメニュー］アイコン（ ）をダブルクリックする

「東芝デスクトップアプリメニュー」が起動します。

3 ［コントロールパネル］をクリックする

4 ［ ハードウェアとサウンド］→［ デバイス マネージャー］をクリックする

［デバイス マネージャー］画面が表示されます。

5 ［ネットワーク アダプター］をダブルクリックする

アダプター名が表示されます。

6 アダプター名を確認する

アダプター名が示すモジュールは、それぞれ次のようになります。

- **「Intel(R) Centrino(R) Advanced-N 6235」の場合**
  IEEE802.11a（W52/W53/W56）、IEEE802.11b、IEEE802.11gおよびIEEE802.11nに対応したモジュールです。このモジュールを、「Intel 6235 a/b/g/nモジュール」と呼びます。
- **「Intel(R) Centrino(R) Advanced-N 6205」の場合**
  IEEE802.11a（W52/W53/W56）、IEEE802.11b、IEEE802.11g およびIEEE802.11nに対応したモジュールです。このモジュールを、「Intel 6205 a/b/g/nモジュール」と呼びます。
- **「Qualcomm Atheros AR946x Wireless Network Adapter」の場合**
  IEEE802.11a（W52/W53/W56）、IEEE802.11b、IEEE802.11gおよびIEEE802.11nに対応したモジュールです。このモジュールを、「Qualcomm Atheros 946x a/b/g/nモジュール」と呼びます。
- **「Qualcomm Atheros AR938x Wireless Network Adapter」の場合**
  IEEE802.11a（W52/W53/W56）、IEEE802.11b、IEEE802.11g および IEEE802.11nに対応したモジュールです。このモジュールを、「Qualcomm Atheros 938x a/b/g/nモジュール」と呼びます。
- **「Qualcomm Atheros AR9485WB-EG Wireless Network Adapter」の場合**
  IEEE802.11b、IEEE802.11g および IEEE802.11nに対応したモジュールです。このモジュールを、「Qualcomm Atheros 9485WB-EG b/g/nモジュール」と呼びます。

その他の本製品の無線LANモジュールの仕様については、『取扱説明書』を確認してください。

メモ

- Wi-Fi準拠、WPA/WPA2対応、128bit WEP対応、256bit AES対応、TKIP対応。

2 無線LANを使ってみよう

⚠警告

- **心臓ペースメーカーを装着しているかたは、心臓ペースメーカーの装着部位から22cm以上離す**
  電波によりペースメーカーの動作に影響を与えるおそれがあります。
- **電子機器の使用が制限されている場所ではパソコンの電源を切る**
  パソコン本体を航空機や電子機器の使用が制限されている場所（病院など）に持ち込む場合は、無線通信機能を無効に設定した上で、パソコンの電源を切ってください。ほかの機器に影響を与えることがあります。
  - 無線通信機能は、FN＋F8キーを押してOFFにすることができます。FN＋F8キーを押して［機内モード オン］に設定し、ワイヤレスコミュニケーションLEDが消灯しているのを確認してください。
  - スリープや休止状態では、パソコンが自動的に復帰することがあるため、飛行を妨げたり、ほかのシステムに影響を及ぼしたりすることがあります。
  - 電源を切った状態でも、パソコンが自動的に起動するような設定のソフトウェアの場合は、あらかじめ設定を無効（解除）にしてください。
  - ディスプレイを開くことで自動的に電源が入るパネルオープンパワーオン機能を設定している場合は、あらかじめ設定を無効（解除）にしてください。
  - Intel® Rapid Start Technologyで休止状態になっている場合がありますので、確実に電源を切るため、一度パソコンを起動し、その後電源を切って（シャットダウンして）ください。*1

＊1 Intel® Rapid Start Technology搭載モデルのみ

お願い

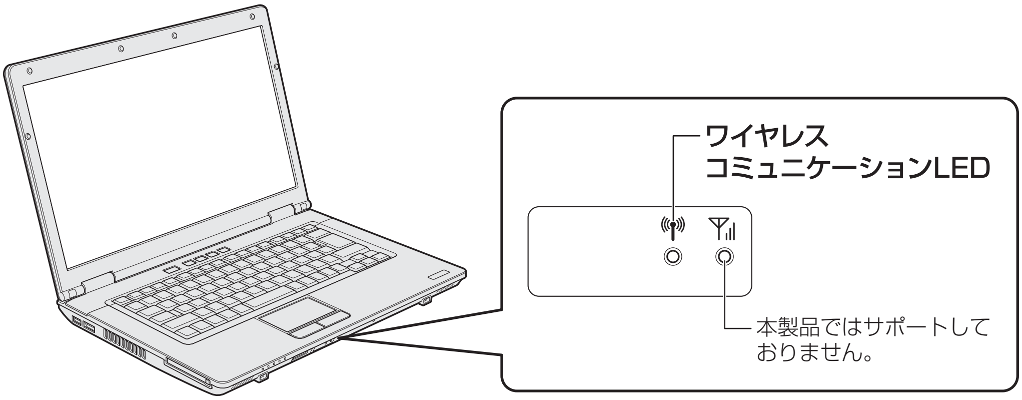
- あらかじめ、次の説明を確認してください。
  参照 「付録 1 - 8 無線LANについて」
- 『安心してお使いいただくために』に、セキュリティに関しての注意事項や使用上の注意事項を説明しています。
  無線LANを使用する場合は、その記述を読んで、セキュリティの設定を行ってください。

1 **FN + F8 キーを押す**

FN キーを押したまま F8 キーを押すたびに、画面左上にメッセージが表示されて無線通信機能のON／OFFが切り替わります。

機内モード オフ：無線通信機能ON
機内モード オン：無線通信機能OFF

無線通信機能をONにすると、ワイヤレスコミュニケーション LEDが点灯します。



以降の無線LANの設定は、Windows標準機能を使って設定します。

3 セキュリティの設定

無線LAN機能を使用する場合、セキュリティ設定を行うことをおすすめします。
セキュリティの設定を行っていない場合、さまざまな問題が発生する可能性があります。

参照 無線LAN製品ご使用時におけるセキュリティに関するご注意
『安心してお使いいただくために』

これらの問題に対応するためには、無線LANアクセスポイントとパソコンの双方で通信データの暗号化などのセキュリティが必要になります。
本製品には、無線LANを使用するにあたっての問題に対応するためのセキュリティ機能が用意されています。
次のセキュリティ設定を行い、セキュリティ機能を有効にして本製品を使用すれば、それらの問題が発生する可能性を低くすることができます。

1 **ポインターを画面の上または下の右隅に合わせる**

チャームが表示されます。

2 **［設定］をクリックする**

画面右側に［設定］画面が表示されます。

3 （）をクリックする

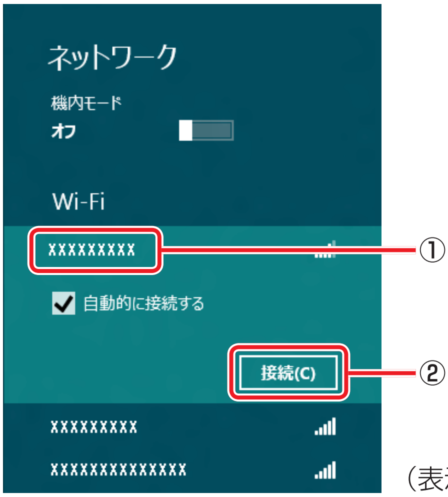
［ネットワーク］画面が表示されます。



（表示例）

パソコンの周囲にあるワイヤレス ネットワーク（無線LANアクセスポイント）のSSIDの一覧が表示されます。

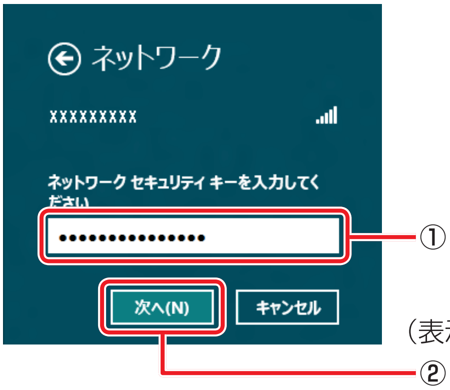
4 接続するワイヤレスネットワークをクリックし①、［自動的に接続する］をチェックした状態で［接続］ボタンをクリックする②



（表示例）

環境によっては、近隣で使用されているワイヤレスネットワークのSSIDが表示される場合もあるので、必ず目的のワイヤレスネットワークを選択してください。

5 ネットワークセキュリティ情報を入力して①、［次へ］ボタンをクリックする②



（表示例）

以降は、画面の指示に従って操作してください。
選択する項目、データ暗号化の方式、セキュリティ キーなどの詳細は、お使いになる無線LANアクセスポイントに付属の説明書を確認のうえ、正しく設定してください。正しく設定していない場合、無線LANアクセスポイントに接続できない場合があります。

4 ダイヤルアップで接続する

＊モデム搭載モデルのみ

本体のモデムを使って、ダイヤルアップ接続でインターネットに接続することができます。本体のモデムを使用する場合、モジュラーケーブルを２線式の電話回線に接続します。本体のモデムは、ITU-T V.90に準拠しています。通信先のプロバイダーがV.90以外の場合は、最大33.6kbpsで接続されます。

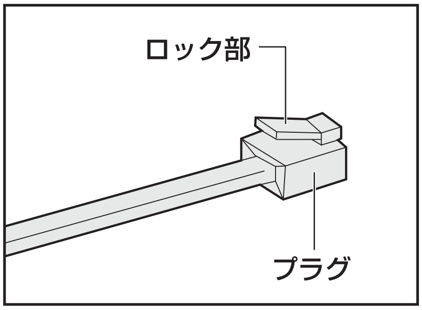
お願い 本体のモデムの操作にあたって

- あらかじめ、次の説明を確認してください。

参照 「付録 1 - 9 モデムについて」

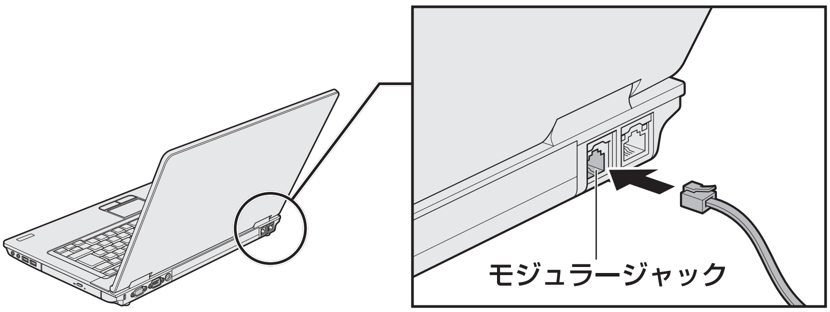
1 モジュラーケーブルを接続する

モジュラーケーブルをはずしたり差し込むときは、プラグの部分を持って行ってください。また、はずすときは、プラグのロック部を押しながらはずしてください。ケーブルを引っ張らないでください。



1 モジュラーケーブルのプラグの一方をパソコン本体のモジュラージャックに差し込む

ロック部を上にして、「カチッ」と音がするまで差し込んでください。
LANケーブルとモジュラーケーブルのプラグは形状が非常に似ていますが、プラグの部分の大きさは、モジュラーケーブルのほうが小さいです。ケーブルを接続するときは、モジュラージャックとプラグの大きさをよくご確認のうえ、接続してください。



2 もう一方のモジュラーケーブルのプラグを電話機用モジュラージャックに差し込む

2 ダイヤルアップ接続を設定する方法

ここでは、すでに契約しているプロバイダーにダイヤルアップ接続するための方法について説明します。
設定は管理者アカウントで行ってください。接続に必要な設定内容は、契約しているプロバイダーなどから送られてくる資料を確認してください。

1 スタート画面の［デスクトップ］をクリックする

デスクトップ画面が表示されます。

2 ［デスクトップアプリメニュー］アイコン（ ）をダブルクリックする

「東芝デスクトップアプリメニュー」が起動します。

3 ［コントロールパネル］をクリックする

4 ［ ネットワークの状態とタスクの表示］をクリックする

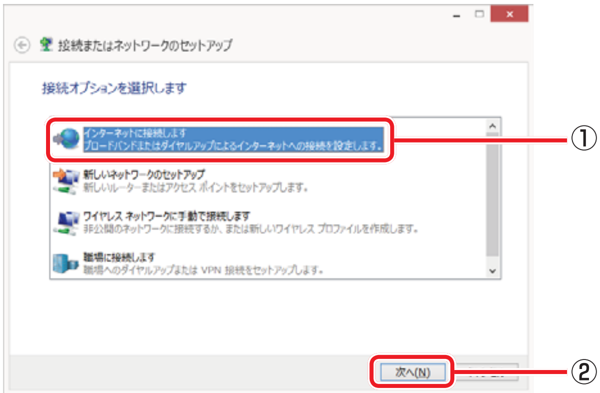
［ネットワークと共有センター］画面が表示されます。

5 ［新しい接続またはネットワークのセットアップ］をクリックする



［接続またはネットワークのセットアップ］画面が表示されます。

6 ［インターネットに接続します］を選択し①、［次へ］ボタンをクリックする②



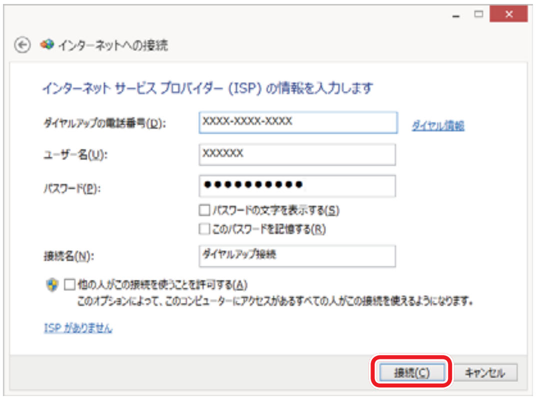
［インターネットへの接続］画面が表示されます。

7 ［ダイヤルアップ］をクリックする



8 各項目を設定し、［接続］ボタンをクリックする

［ダイヤルアップの電話番号］［ユーザー名］［パスワード］など、それぞれを入力してください。



ダイヤルアップ接続が実行されます。

接続が完了したあと［閉じる］ボタンをクリックすると、環境を設定する画面が表示されます。画面に従って、各項目を設定してください。

3 海外でインターネットに接続するには

本体のモデムで使用できる国／地域については、「付録 4 技術基準適合について」を参照してください。
海外でモデムを使用する場合、モデムの地域設定が必要です。

設定は管理者アカウントで行ってください。それ以外のユーザーアカウントで起動しようとすると、エラーメッセージが表示され、起動できません。

日本で使用する場合は、必ず日本モードで使用してください。他地域のモードで使用すると、電気通信事業法（技術基準）に違反する行為となります。
購入時は「日本」に設定されています。

設定方法

1 スタート画面の［デスクトップ］をクリックする

デスクトップ画面が表示されます。

2 ［デスクトップアプリメニュー］アイコン（ ）をダブルクリックする

「東芝デスクトップアプリメニュー」が起動します。

3 ［コントロールパネル］をクリックする

4 ［表示方法］から［大きいアイコン］または［小さいアイコン］をクリックする

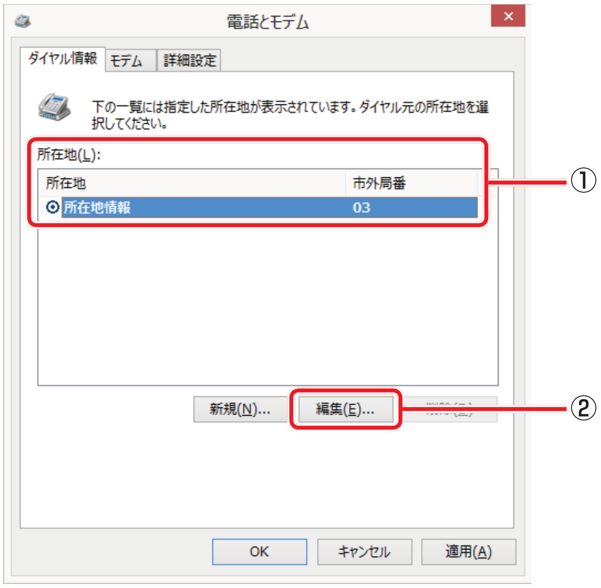
5 ［ 電話とモデム］をクリックする

［電話とモデム］画面が表示されます。

メモ

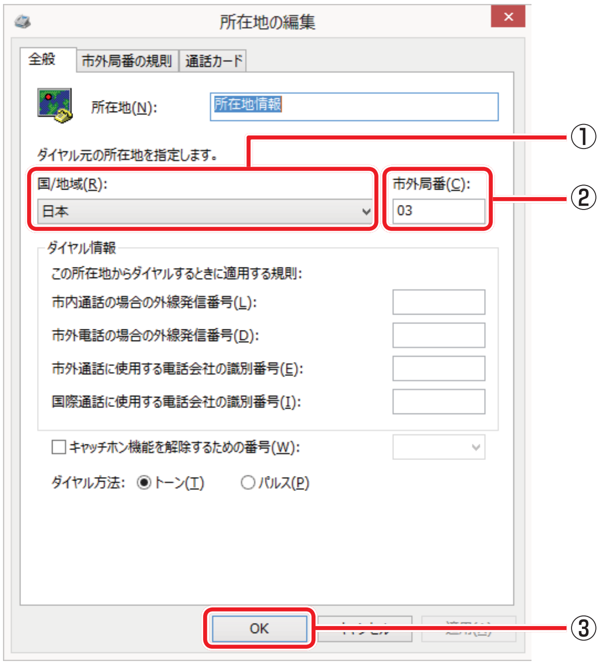
- 初めて起動したときは、［所在地情報］画面が表示されます。モデムを使用する地域を選択してください。

6 ［ダイヤル情報］タブで所在地を選択し①、［編集］ボタンをクリックする②



［所在地の編集］画面が表示されます。

7 ［全般］タブで［国／地域］リストからモデムを使用する国／地域を選択し①、市外局番を入力して②、［OK］ボタンをクリックする③



8 ［OK］ボタンをクリックする

4章

周辺機器を使って機能を広げよう

パソコンでできることをさらに広げたい。
そのためには周辺機器を接続して、機能を拡張しましょう。
本製品に取り付けられるさまざまな周辺機器の紹介と、よく使う周辺機器の取り付けかたや各種設定、取り扱いについて説明しています。

1 周辺機器を使う前に

周辺機器とは、パソコンに接続して使う機器のことで、デバイスともいいます。周辺機器を使うと、パソコンの性能を高めたり、パソコンが持っていない機能を追加することができます。
周辺機器は、パソコン本体の周囲にあるコネクタや端子、スロットにつなぎます。
本製品のインターフェースに合った周辺機器をご利用ください。
周辺機器によっては、インターフェースなどの規格が異なることがあります。インターフェースとは、機器を接続するときのケーブルやコネクタや端子、スロットの形状などの規格のことです。
購入される際には、目的に合った機能を持ち、本製品に対応している周辺機器をお選びください。
周辺機器が本製品に対応しているかどうかについては、その周辺機器のメーカーに確認してください。

参照 コネクタの仕様について「付録 5 各インターフェースの仕様」

お願い 周辺機器の取り付け／取りはずしにあたって

- あらかじめ、次の説明を確認してください。

参照 「付録 1 - 10 周辺機器について」

次の周辺機器が使用できます。使用できる周辺機器の種類は、モデルによって異なります。

- USB 対応機器（マウス、キーボードなど）
- eSATA 対応機器
- 外部ディスプレイ
- マイクロホン／ヘッドホン
- PC カード
- RS-232C 対応機器
- Bluetooth 対応機器（マウス、キーボードなど）

参照 「本章 2 」以降

2 USB対応機器を使う

USB(ユーエスビー)対応機器は、電源を入れたまま取り付け／取りはずしができます。
また、新しい周辺機器を接続すると、システムがドライバーの有無をチェックし、自動的にインストールを行うプラグアンドプレイに対応しています。
USB対応機器には次のようなものがあります。

- USB対応マウス
- USB対応プリンター
- USB対応スキャナー
- USBフラッシュメモリ　など

本製品のUSBコネクタにはUSB2.0対応機器とUSB1.1対応機器を取り付けることができます。
USB対応機器の詳細は、『USB対応機器に付属の説明書』を確認してください。

コネクタ内部が青色のUSBコネクタは、USB3.0規格に対応しています。
このコネクタには、他のUSBコネクタと同様、USB2.0対応機器、USB1.1対応機器も取り付けることができます。
使用しているUSB対応機器がUSB3.0規格に対応しているかどうかは、『USB対応機器に付属の説明書』を確認してください。

USB周辺機器すべての動作を保証するものではありません。

お願い USB対応機器の操作にあたって

- あらかじめ、次の説明を確認してください。

参照 「付録 1 - 10 - USB対応機器の操作にあたって」

1 USBの常時給電と高速充電

USBの常時給電

⚡アイコンが付いているUSBコネクタでは、パソコン本体の電源がOFFの状態（スリープ状態、休止状態、シャットダウン状態）でも、USBコネクタにUSBバスパワー（DC5V）を供給することができます。
本機能を利用して、USBに対応する携帯電話や携帯型デジタル音楽プレーヤーなどの外部機器の使用および充電ができます。
＊USBケーブルは本製品に含まれていません。別途ご使用の機器に対応したケーブルを準備してください。

なお、本機能はすべての外部機器の使用および充電を保証するものではありません。

お願い USBの常時給電について

- あらかじめ、次の説明を確認してください。

参照 「付録 1 - 10 - USBの常時給電について」

本機能はご購入時の設定では無効になっていますので、使用するには「東芝システムセッティング」で本機能を有効にする必要があります。

❏ 設定方法

1 スタート画面の［デスクトップ］をクリックする

デスクトップ画面が表示されます。

2 ［デスクトップアプリメニュー］アイコン（ ）をダブルクリックする

「東芝デスクトップアプリメニュー」が起動します。

3 ［ユーティリティ］→［システムセッティング ］をクリックする

「東芝システムセッティング」が起動します。

4 ［スリープアンドチャージ］で［スリープアンドチャージ］を有効にする

5 ［OK］ボタンをクリックする

❏「東芝スリープ情報」の表示方法

USBの常時給電について詳しくは、［東芝スリープ情報］画面を確認してください。

1 USB対応機器を、パソコン本体のUSBコネクタに接続する

画面右上に、「スリープアンドチャージ」のメッセージが表示されます。

2 メッセージをクリックする

［東芝スリープ情報］画面が表示されます。

USBの高速充電

アイコンが付いているUSBコネクタでは、高速充電を行うことができます。

＊ USBケーブルは本製品には含まれていません。別途ご使用の機器に付属の高速充電に対応したケーブルを準備してください。

なお、本機能はすべての外部機器の使用および充電を保証するものではありません。

■ 高速充電モードについて

- 接続するUSB対応機器およびUSBケーブルが2.0A充電に対応している場合は、「東芝システムセッティング」で本機能のモード設定を［高速充電モード］に設定すると、電源OFF時（スリープ状態、休止状態、シャットダウン状態）に、USB対応機器への高速充電（2.0A）ができます。
  USBコネクタにUSBバスパワー（DC5V）を最大2.0Aまで供給して短時間で充電することができます。

■システムON CDPチャージモードについて

- 本機能を「東芝システムセッティング」で有効にすると、電源ON時にUSBコネクタにUSBバスパワー（DC5V）を最大1.5Aまで供給して短時間で充電することができます。

お願い USBの高速充電について

- あらかじめ、次の説明を確認してください。

参照 「付録 1 - 10 - USBの高速充電について」

本機能はご購入時の設定では無効になっていますので、使用するには「東芝システムセッティング」で本機能を有効にする必要があります。

❏設定方法

1 スタート画面の［デスクトップ］をクリックする

デスクトップ画面が表示されます。

2 ［デスクトップアプリメニュー］アイコン（ ）をダブルクリックする

「東芝デスクトップアプリメニュー」が起動します。

3 ［ユーティリティ］→［システムセッティング ］をクリックする

「東芝システムセッティング」が起動します。

4 本機能を有効にする

高速充電モードの場合は、［スリープアンドチャージ］で［スリープアンドチャージ］を有効にし、［高速充電モード］を選択してください。
システムON CDPチャージモードの場合は、［USB］で［システムON CDPチャージモード］を有効にしてください。設定後、再起動が必要な場合があります。

5 ［OK］ボタンをクリックする

2 USB対応機器の取り付け／取りはずし

1 取り付け

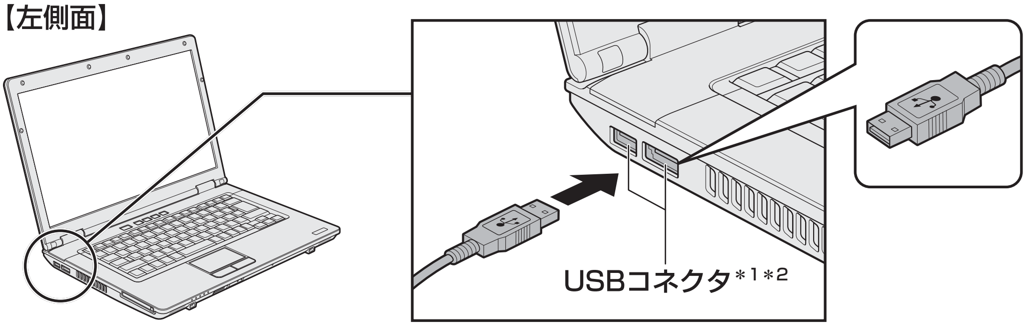
1 USBケーブルのプラグをUSB対応機器に差し込む

この手順が必要ない機器もあります。USB対応機器の詳細は、『USB対応機器に付属の説明書』を確認してください。

2 USBケーブルのもう一方のプラグをパソコン本体のUSBコネクタに差し込む

プラグの向きを確認して差し込んでください。

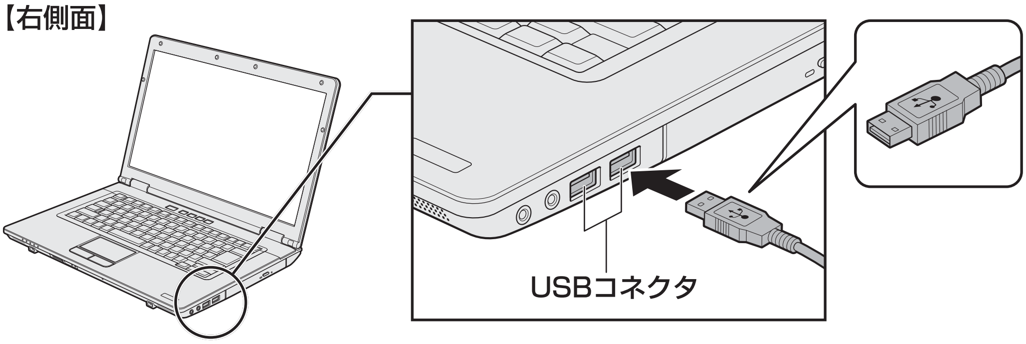
【左側面】



＊1 手前側のUSBコネクタはeSATAコネクタを兼ねています。

＊2 コネクタ内部が青色のUSBコネクタは、USB3.0規格に対応しています。

【右側面】



2 取りはずし

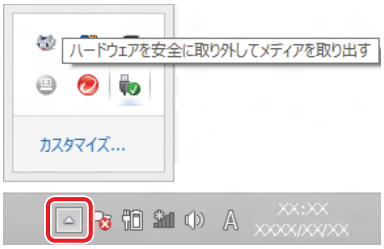
1 USB対応機器の使用を停止する

①**スタート画面の［デスクトップ］をクリックする**

デスクトップ画面が表示されます。

②**通知領域の［ハードウェアを安全に取り外してメディアを取り出す］アイコン（ または ）をクリックする**

＊ 通知領域にアイコンが表示されていない場合は、 をクリックしてください。
この操作を行ってもアイコンが表示されないUSB対応機器は、手順 2 に進んでください。



（表示例）

③**表示されたメニューから取りはずすUSB対応機器の項目をクリックする**

④**「ハードウェアの取り外し」のメッセージが表示されたら、 をクリックする**

2 パソコン本体とUSB対応機器に差し込んであるUSBケーブルを抜く

3 eSATA対応機器を使う

eSATA（イーエスエーティーエー）対応機器を接続して使用できます。

eSATA対応機器には次のようなものがあります。

- eSATA対応ハードディスクドライブ　など

eSATA対応機器の詳細は、『eSATA対応機器に付属の説明書』を確認してください。

本製品のeSATAコネクタは、USBコネクタを兼ねています。

参照 「本章 2 USB対応機器を使う」

eSATA周辺機器すべての動作を保証するものではありません。

お願い eSATA対応機器の操作にあたって

- あらかじめ、次の説明を確認してください。

参照 「付録 1 - 10 - eSATA対応機器の操作にあたって」

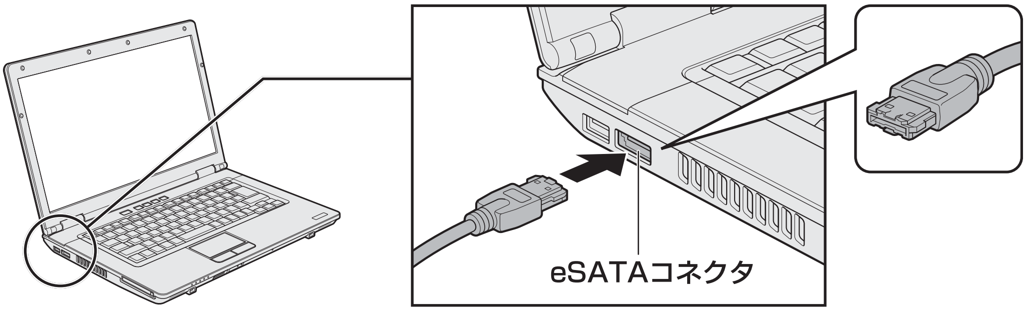
1 取り付け

1 eSATAケーブルのプラグをeSATA対応機器に差し込む

この手順が必要ない機器もあります。eSATA対応機器の詳細は、『eSATA対応機器に付属の説明書』を確認してください。

2 eSATAケーブルのもう一方のプラグをパソコン本体のeSATAコネクタに差し込む

プラグの向きを確認して差し込んでください。



2 取りはずし

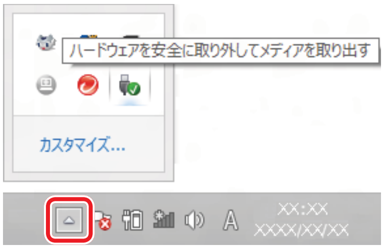
1 eSATA対応機器の使用を停止する

①スタート画面の［デスクトップ］をクリックする

デスクトップ画面が表示されます。

②通知領域の［ハードウェアを安全に取り外してメディアを取り出す］アイコン（ または ）をクリックする

＊通知領域にアイコンが表示されていない場合は、 をクリックしてください。
この操作を行ってもアイコンが表示されないeSATA対応機器は、手順 2 に進んでください。



（表示例）

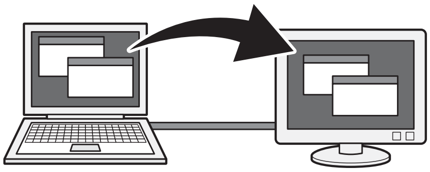
③表示されたメニューからeSATA対応機器の項目をクリックする

④「ハードウェアの取り外し」のメッセージが表示されたら、 をクリックする

2 パソコン本体とeSATA対応機器に差し込んであるeSATAケーブルを抜く

4 外部ディスプレイを接続する

本製品のRGB（アールジービー）コネクタと外部ディスプレイをケーブルで接続すると、接続した外部ディスプレイの画面にパソコンの画面を表示させることができます。



メモ

- 接続するケーブルは、市販のものを使用してください。
- 使用可能な外部ディスプレイは、本体液晶ディスプレイで設定している解像度により異なります。解像度にあった外部ディスプレイを接続してください。
- RGB端子を備えたテレビへは、外部ディスプレイのようにRGBケーブルを使って表示することもできます。詳しくは、本項目の説明と『テレビに付属の説明書』を参照してください。

1 パソコンに接続する

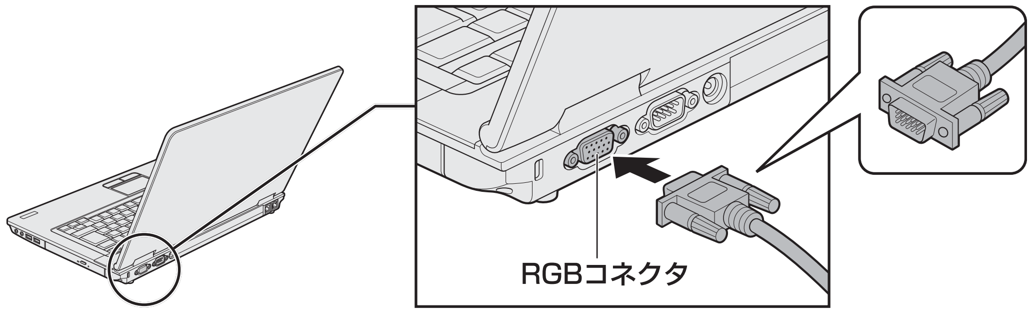
お願い 外部ディスプレイ接続の操作にあたって

- あらかじめ、次の説明を確認してください。

参照 「付録 1 - 10 - 外部ディスプレイ接続の操作にあたって」

外部ディスプレイとパソコン本体の電源を切った状態で接続してください。

1 外部ディスプレイのケーブルのプラグをRGBコネクタに差し込む



2 外部ディスプレイの電源を入れる

3 パソコン本体の電源を入れる

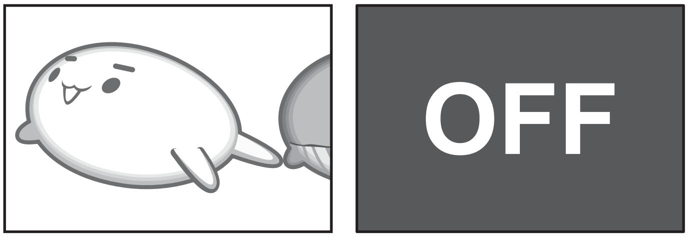
上記の手順で電源を入れると、パソコン本体は自動的にその外部ディスプレイを認識します。

2 表示を切り替える

外部ディスプレイを接続した場合には、次の表示方法があります。
表示方法は、表示装置の切り替えを行うことで変更できます。

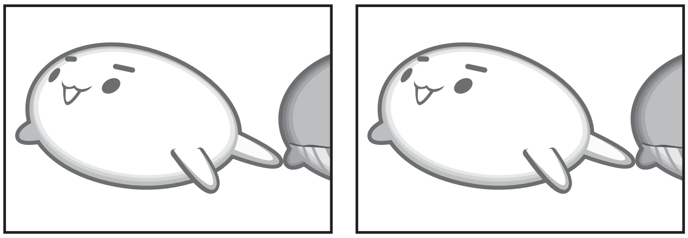
■本体液晶ディスプレイだけに表示／外部ディスプレイだけに表示

いずれかの表示装置にのみ、画面を表示します。

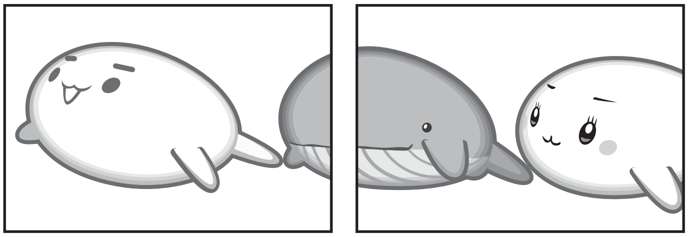


■本体液晶ディスプレイと外部ディスプレイの同時表示

● **クローン表示（複製）**
2つの表示装置それぞれに画面を表示します。



● **拡張表示**
2つの表示装置を1つの大きな画面として使用（拡張表示）します。



外部ディスプレイに表示するには表示装置の設定を行ってください。

メモ

- 外部ディスプレイと本体液晶ディスプレイを同時表示させる場合は、同時表示の種類や設定に合った色数／解像度で表示されます。
- 表示を切り替えたとき、システムによって自動的に解像度が変更される場合があります。
  本体液晶ディスプレイだけに表示を切り替えると、元の解像度に戻ります。
- 外部ディスプレイに表示する場合、表示位置や表示幅などが正常に表示されない場合があります。この場合は、外部ディスプレイ側で、表示位置や表示幅を設定してください。
- 拡張表示では、スタート画面はメインディスプレイに設定した表示装置にのみ表示されます。
- 映像を再生するアプリケーションで使用する表示装置を変更したい場合は、アプリケーションを起動する前に表示装置を切り替えてください。起動中は、表示装置を切り替えることができません。
  クローン表示、拡張表示での再生はサポートしていません。
- 「電源オプション」で省電力機能を設定して、外部ディスプレイの表示が消えた場合、キーあるいはタッチパッドの操作により表示が復帰します。また、スリープに設定してある場合は、電源スイッチを押してください。
  表示が復帰するまで10秒前後かかることがありますが、故障ではありません。

方法1 ー プロパティ画面で設定する

1 **スタート画面の［デスクトップ］をクリックする**

デスクトップ画面が表示されます。

2 **デスクトップ画面上のウィンドウやアイコンなどが表示されていない場所にポインターを移動し、右クリックする**

メニューが表示されます。

3 **［グラフィック プロパティ］をクリックする**

［次のアプリケーションモードのいずれかを選択してください］画面が表示された場合は、［基本モード］を選択し、［OK］ボタンをクリックしてください。

4 **［ディスプレイ］→［マルチディスプレイ］で表示装置を設定する**



（表示例）

■本体液晶ディスプレイ、または外部ディスプレイだけに表示

①［動作モード］で［シングル ディスプレイ］を選択する

②［メインディスプレイ］で次の項目を選択する

・本体液晶ディスプレイに表示する場合：［内蔵ディスプレイ］

・外部ディスプレイに表示する場合：［PCモニター］

③［適用］ボタンをクリックする

メッセージが表示されます。確認して［OK］ボタンをクリックしてください。

■本体液晶ディスプレイと外部ディスプレイの同時表示

①［動作モード］で次のいずれかを選択する

・［クローン ディスプレイ］：クローン表示

・［拡張デスクトップ］：拡張表示

②［メインディスプレイ］と［2番目のディスプレイ］を設定する

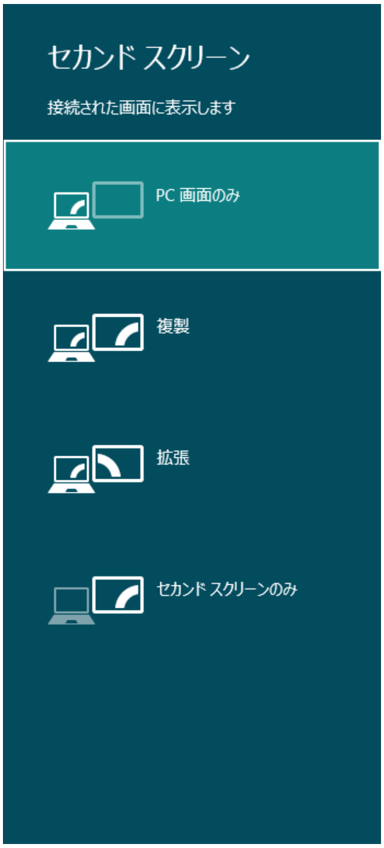
［内蔵ディスプレイ］は「本体液晶ディスプレイ」、［PCモニター］は「外部ディスプレイ」を示します。

③［適用］ボタンをクリックする

メッセージが表示されます。確認して［OK］ボタンをクリックしてください。

方法２ － FN ＋ F5 キーを使う

FN キーを押したまま F5 キーを押すと、［セカンド スクリーン］画面が表示されます。



（表示例）

FN キーを押したまま、 F5 キーを押すたびに、項目の選択状態が移動します。目的の項目を選択したところで、 FN キーから指をはなして、 ENTER キーを押すと、表示装置が切り替わります。

各項目について説明します。

項目	概要
PC画面のみ	本体液晶ディスプレイだけに表示します。
複製	本体液晶ディスプレイと、外部ディスプレイにクローン表示します。*1
拡張	本体液晶ディスプレイと、外部ディスプレイに拡張表示します。*1*2
セカンド スクリーンのみ	外部ディスプレイだけに表示します（本体液晶ディスプレイには何も表示されません）。*1

＊1 外部ディスプレイを2台以上接続している場合、FN＋F5キーで表示装置を指定することはできません。

参照 表示装置を指定したい場合「本項 - 方法1 - プロパティ画面で設定する」

＊2 拡張表示時に、FN＋F5キーでメインディスプレイを切り替えることはできません。

参照 メインディスプレイを切り替えたい場合「本項 - 方法1 - プロパティ画面で設定する」

3 パソコンから取りはずす

外部ディスプレイとパソコン本体の電源を切った状態で取りはずしてください。

1 Windowsを終了させてパソコン本体の電源を切る

参照 電源の切りかた『取扱説明書』

2 外部ディスプレイの電源を切る

3 RGBコネクタからケーブルを抜く

4 ワイヤレスでテレビに画面を表示する

＊インテル® ワイヤレス・ディスプレイに対応しているモデルのみ

「インテル® ワイヤレス・ディスプレイ（WiDi）」に対応しているモデルの場合、本製品と「インテル® ワイヤレス・ディスプレイ」に対応しているテレビアダプター（受信機）を使うと、パソコンの画面をワイヤレスで、テレビに表示することができます。

お願い　インテル® ワイヤレス・ディスプレイの使用にあたって

- あらかじめ、次の説明を確認してください。

参照 「付録 1 - 10 - インテル® ワイヤレス・ディスプレイの使用にあたって」

1 必要なもの

- テレビアダプター（市販品）
  本製品は、次のテレビアダプターに対応しています。
  - PC-TV1/HD（株式会社バッファロー）
  - WDA-X1（株式会社アイ・オー・データ機器）
  - Push2TV HD（ネットギアジャパン株式会社）
- テレビ（市販品）
  テレビアダプターが対応しているテレビを用意してください。

参照 『テレビアダプターに付属の説明書』

2 テレビとテレビアダプターを接続する

1 テレビとテレビアダプターを接続する

参照 テレビとテレビアダプターの接続方法
『テレビに付属の説明書』、『テレビアダプターに付属の説明書』

2 テレビとテレビアダプターの電源をONにする

電源をONにしたあと、テレビの画面をテレビアダプターの設定画面に切り替えてください。

3 パソコン本体の電源を入れ、Windowsを起動する

4 無線LAN機能をONにする

参照 無線LAN機能のON／OFF「3章 1 - 3 - 2 無線LANを使ってみよう」

5 無線LANアクセスポイントとの接続を切断する

次の手順で、無線LANアクセスポイントとの接続を切断します。

① ポインターを画面の上または下の右隅に合わせる
② [設定] をクリックする
③ ( ) をクリックする
④ 接続しているワイヤレスネットワーク（無線LANアクセスポイント）をクリックし、[切断] ボタンをクリックする

6 スタート画面のタイルのない部分で、右クリックする

7 [すべてのアプリ] をクリックする

8 [Intel(R) WiDi] をクリックする

初めて起動したときは、[INTEL® WiDi ソフトウェア使用許諾契約] 画面が表示されるので、[この使用許諾の条件に同意する] ボタンをクリックします。
[Intel® WiDi] 画面が表示され、周囲のテレビアダプターが検出されます。

9 [Intel® WiDi] 画面で、使用するテレビアダプターを選択し、[接続] ボタンをクリックする

セキュリティー・コードを入力する画面が表示された場合、引き続き、「 3 ファームウェアのアップデートを行う」を実行してください。

メモ

- 以降の操作に失敗した場合は、パソコンとテレビアダプターの再起動を行って、再度実行してください。

3 ファームウェアのアップデートを行う

1 「セキュリティー・コード」を入力し、［続行］ボタンをクリックする

パソコンにデバイスを追加する画面が表示されます。

2 「テレビ」を選択して［次へ］ボタンをクリックする

テレビのWPS PINを入力する画面が表示されます。表示されている数字がWPS PINです。

3 WPS PINが入力されているのを確認して、［次へ］ボタンをクリックする

アップデートが必要なファームウェアが表示されます。

4 ［アップデート］ボタンをクリックする

ファームウェアのアップデートが行われます。

5 ［Intel® WiDi］画面で、使用するテレビアダプターの項目を選択し、［接続］ボタンをクリックする

「接続しようとしているデバイスは、最初に追加する必要があります。」と表示された場合、引き続き「 4 デバイスのペアリングを行う」を実行してください。

メモ

- デバイスの追加に失敗するとエラーメッセージが表示されます。この場合、画面の指示に従って、デバイスを削除してください。

4 デバイスのペアリングを行う

1 ［続行］ボタンをクリックする

パソコンにデバイスを追加する画面が表示されます。

2 「テレビ」を選択して［次へ］ボタンをクリックする

テレビのWPS PINを入力する画面が表示されます。

3 テレビ画面に表示されたWPS PINを入力し、［次へ］ボタンをクリックする

テレビアダプターがデバイスとして登録されます。

4 ［閉じる］ボタンをクリックする

テレビアダプターの名前を変更する画面が表示されます。

5 必要に応じて、テレビアダプターの名前を変更し、［続行］ボタンをクリックする

「アダプターが正常に設定されました」とメッセージが表示されます。

6 ［完了］ボタンをクリックする

テレビに本製品の画面が表示されます。

これで設定は完了です。

メモ

- 設定が完了すると、次回以降は「ファームウェアのアップデート」、「デバイスのペアリング」の操作が必要なくなります。

「インテル® ワイヤレス・ディスプレイ」の詳細は、ヘルプを参照してください。

ヘルプの起動方法

1 ［Intel® WiDi］画面で、［ヘルプ］→［ヘルプ］をクリックする

5 マイクロホンやヘッドホンを使う

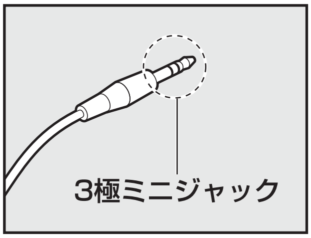
本製品には、マイクロホンやヘッドホンを接続できます。
マイクロホンやヘッドホンを使うと、音声ソフトや音声を使ったチャットを行うことができます。

1 マイクロホンを使う

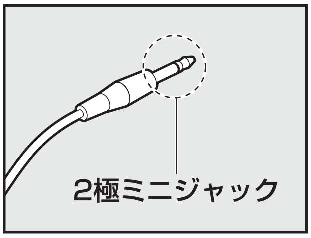
マイクロホンを使うときは、マイク入力端子に接続します。

1 使用できるマイクロホン

本製品で使用できるマイクロホンは次のとおりです。



- モノラルマイクのみ使用できます。
- プラグは直径3.5mm3極ミニジャックタイプが使用できます。

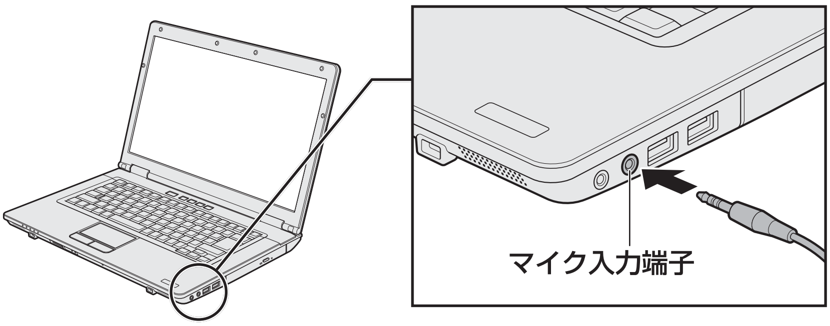


- 直径3.5mm2極ミニジャックタイプのマイクロホンでもマイクロホン本体にバッテリーなどを搭載し、電源供給を必要としないマイクロホンであれば使用できます。

音声認識ソフトとあわせて使用する場合は、各アプリケーションの取り扱い元が推奨するマイクロホンを使用してください。

2 接続する

1 マイクロホンのプラグをマイク入力端子に差し込む



取りはずすときは、マイク入力端子からマイクロホンのプラグを抜きます。

2 ヘッドホンを使う

ヘッドホン出力端子にヘッドホンを接続して、音楽や音声を聞くことができます。
ヘッドホンのプラグは、直径3.5mmステレオミニジャックタイプを使用してください。

お願い ヘッドホンの操作にあたって

- あらかじめ、次の説明を確認してください。

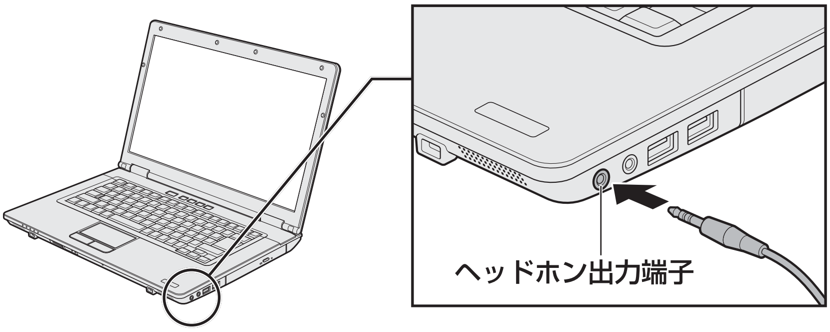
参照 「付録 1 - 10 - ヘッドホンの操作にあたって」

ヘッドホンの音量は音量ボタン、またはWindowsの音量ミキサーで調節してください。

参照 「2章 8 サウンド」

1 接続する

1 ヘッドホンのプラグをヘッドホン出力端子に差し込む



取りはずすときは、ヘッドホン出力端子からヘッドホンのプラグを抜きます。

6 PCカードを使う

目的に合わせたPCカードを使うことにより、パソコンの機能が大きく広がります。
PCカードには、次のようなものがあります。

- データ通信カード
- フラッシュメモリカード用アダプターカード
- 外付けハードディスクドライブ、CD／DVDドライブ用アダプターカード　など

1 PCカードを使う前に

本製品は、PC Card Standard準拠のTYPE Ⅱ対応のカード（CardBus対応カードを含む）を使用できます。
ほとんどのPCカードは電源を入れたままの取り付け／取りはずし（ホットインサーション）に対応しているので便利です。
使用しているPCカードがホットインサーションに対応しているかどうかなど、詳しくは、『PCカードに付属の説明書』を確認してください。

お願い PCカードの操作にあたって

- あらかじめ、次の説明を確認してください。

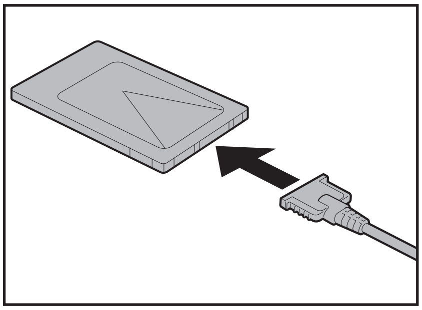
参照 「付録 1 - 10 - PCカードの操作にあたって」

2 PCカードを使う

PCカードを使う場合、パソコン本体のPCカードスロットにPCカードを取り付けてください。

1 取り付け

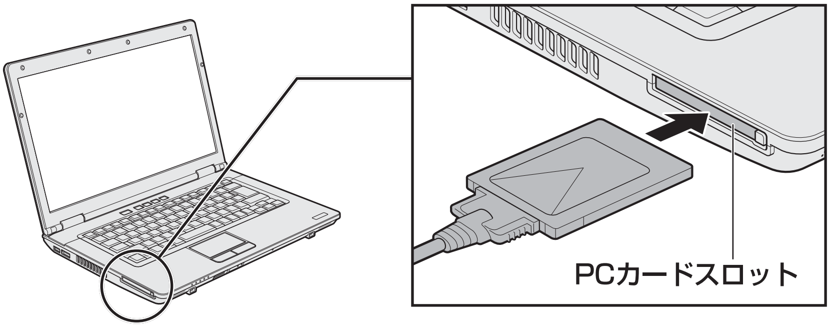
1 ケーブルの接続が必要な場合は、PCカードにケーブルを付ける



SCSIカードなど、ケーブルの接続が必要なときに行います。

4章 周辺機器を使って機能を広げよう

2 PCカードの表裏を確認し、表を上にして挿入する



カードは無理な力を加えず、静かにカードが奥に突き当たるまで押してください。きちんと奥まで差し込まれていない場合、PCカードを使用できない、またはPCカードが壊れる場合があります。
カードを接続したあとで、カードが使用できるように設定されているか確認してください。

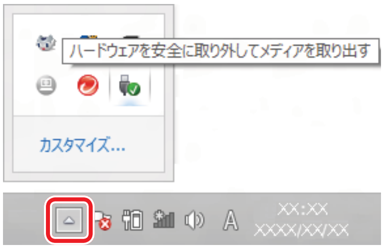
2 取りはずし

1 PCカードの使用を停止する

①スタート画面の［デスクトップ］をクリックする
デスクトップ画面が表示されます。

②通知領域の［ハードウェアを安全に取り外してメディアを取り出す］アイコン（ または ）をクリックする

＊通知領域にアイコンが表示されていない場合は、 をクリックしてください。
この操作を行ってもアイコンが表示されないPCカードは、手順 2 に進んでください。



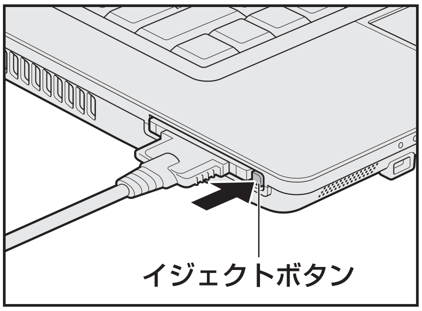
（表示例）

③表示されたメニューから取りはずすPCカードの項目をクリックする

④「ハードウェアの取り外し」のメッセージが表示されたら、 をクリックする

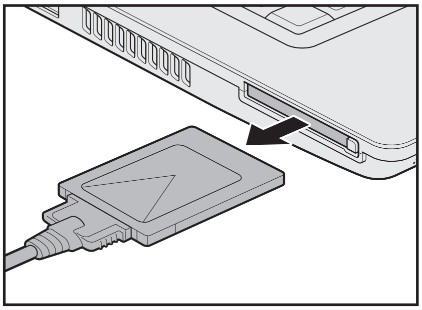
4章 周辺機器を使って機能を広げよう

2 イジェクトボタンを2回押す



1回押すとイジェクトボタンが出てくるので、もう一度カチッと音がするまで押してください。
カードが奥まで差し込まれていない場合、イジェクトボタンが出てこないことがあります。カードを奥まで押し込んでから、もう一度イジェクトボタンを押してください。
カードが少し出てきます。

3 カードをしっかりとつかみ、抜く



ケーブルを接続している場合は、カードを抜くときにケーブルを引っ張らないでください。故障するおそれがあります。
熱くないことを確認してから行ってください。

イジェクトボタンが収納されていない場合は、イジェクトボタンを押して収納します。

7 RS-232C対応機器を使う

＊シリアルコネクタ搭載モデルのみ

シリアルコネクタ搭載モデルでは、RS-232C対応機器をシリアルコネクタに接続できます。
RS-232C対応機器には次のようなものがあります。

- モデム
- マウス
- テンキーパッド
- スキャナー
- トラックボール

など

RS-232C対応機器の詳細は、『RS-232C対応機器に付属の説明書』を確認してください。

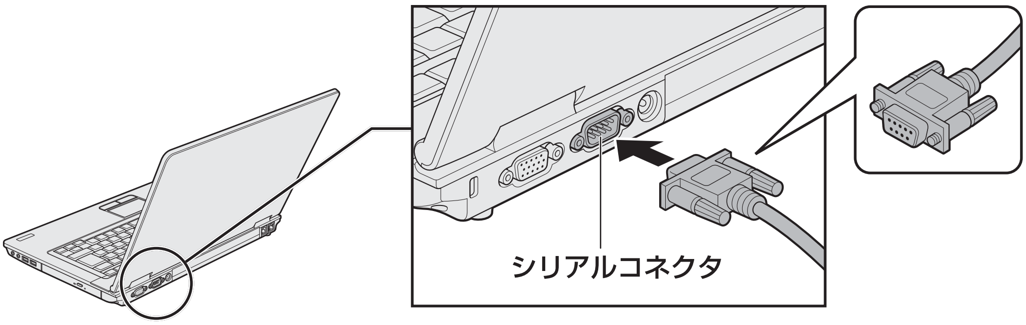
お願い RS-232C対応機器の操作にあたって

- あらかじめ、次の説明を確認してください。

参照 「付録 1 - 10 周辺機器について」

1 接続する

1 ケーブルのプラグをパソコン本体のシリアルコネクタに差し込む



プラグの向きを確認して差し込んでください。

2 ケーブルのもう一方のプラグをRS-232C対応機器に差し込む

8 Bluetooth機能を使う

＊ Bluetooth機能搭載モデルのみ

Bluetooth機能搭載モデルには、Bluetooth機能が搭載されています。
Bluetoothワイヤレステクノロジーは、パソコンや周辺機器、携帯電話などの機器同士で無線でデータをやりとりできる、世界標準の通信方式です。
Bluetoothワイヤレステクノロジーを搭載した機器であれば、お互いに通信相手を登録することで、簡単にデータのやりとりができます。

お願い Bluetooth機能の操作にあたって

- あらかじめ、次の説明を確認してください。

参照 「付録 1 - 10 - Bluetoothについて」

メモ

- Bluetoothのバージョンによっては本製品と通信できないBluetooth対応機器があります。
  本製品に搭載されているBluetooth機能のバージョンについては、『取扱説明書』を確認してください。
- 2.4GHz帯の無線LANまたはWiMAXが近距離で使用されていると通信速度の低下または通信エラーが発生する可能性があります。

1 Bluetooth通信が可能な状態にする

⚠警 告

- **心臓ペースメーカーを装着しているかたは、心臓ペースメーカーの装着部位から22cm以上離す**

  電波によりペースメーカーの動作に影響を与えるおそれがあります。
- **電子機器の使用が制限されている場所ではパソコンの電源を切る**

  パソコン本体を航空機や電子機器の使用が制限されている場所（病院など）に持ち込む場合は、無線通信機能を無効に設定した上で、パソコンの電源を切ってください。ほかの機器に影響を与えることがあります。
  - ・無線通信機能は、FN＋F8キーを押してOFFにすることができます。FN＋F8キーを押して［機内モード オン］に設定し、ワイヤレスコミュニケーションLEDが消灯しているのを確認してください。
  - ・スリープや休止状態では、パソコンが自動的に復帰することがあるため、飛行を妨げたり、ほかのシステムに影響を及ぼしたりすることがあります。
  - ・電源を切った状態でも、パソコンが自動的に起動するような設定のソフトウェアの場合は、あらかじめ設定を無効（解除）にしてください。
  - ・ディスプレイを開くことで自動的に電源が入るパネルオープンパワーオン機能を設定している場合は、あらかじめ設定を無効（解除）にしてください。

  ・Intel® Rapid Start Technologyで休止状態になっている場合がありますので、確実に電源を切るため、一度パソコンを起動し、その後パソコンの電源を切って（シャットダウンして）ください。＊[1]

＊1 Intel® Rapid Start Technology搭載モデルのみ

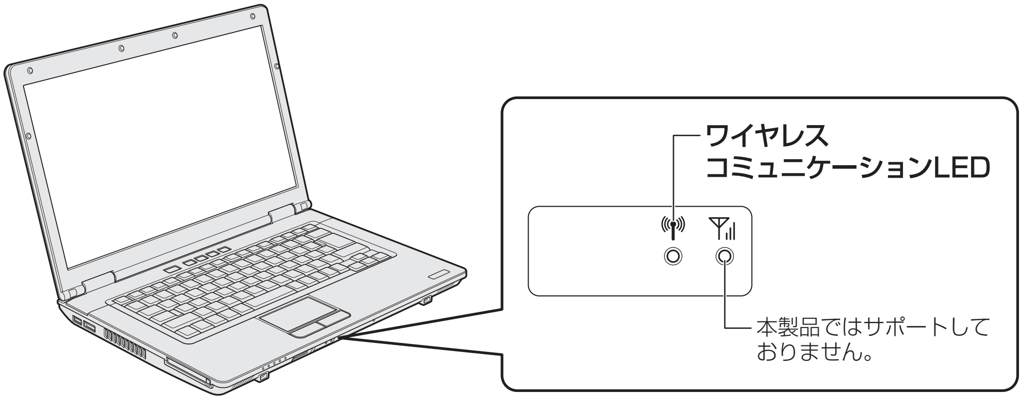
1 FN＋F8キーを押す

FNキーを押したままF8キーを押すたびに、画面左上にメッセージが表示されて無線通信機能のON／OFFが切り替わります。

機内モード オフ：無線通信機能ON

機内モード オン：無線通信機能OFF

無線通信機能をONにすると、ワイヤレスコミュニケーション LEDが点灯します。



2 ポインターを画面の上または下の右隅に合わせる

チャームが表示されます。

参照 チャームの操作方法『セットアップガイド』

3 ［設定］をクリックする

画面右側に［設定］画面が表示されます。

4 ［PC設定の変更］をクリックする

［PC設定］画面が表示されます。

5 ［ワイヤレス］をクリックする

6 ［機内モード］が［オフ］になっていることを確認する

［オン］になっている場合は、［オフ］にしてください。

［オフ］にすると、無線通信機能がONになります。

7 ［ワイヤレス デバイス］の［Bluetooth］が［オン］になっていることを確認する

［オフ］になっている場合は、［オン］にしてください。

［オン］にすると、Bluetooth機能がONになります。

8 Bluetooth対応機器との接続設定を行う

参照 設定方法について『Windows ヘルプとサポート』

5章

バッテリー駆動で使う

パソコンをモバイル使用する際に大事な存在であるバッテリーは、使いかたによっては長持ちさせることができます。
ここでは、充電や充電量の確認などについて説明しています。

1 バッテリーについて

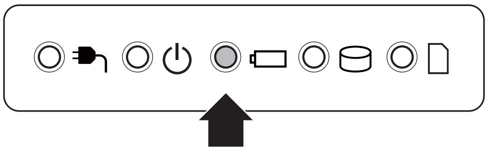
パソコンは、バッテリーパックを取り付けた状態で使用してください。
本製品を初めて使用するときは、電源コードとACアダプターを接続してバッテリーパックを充電してください。
バッテリーパックを充電すると、バッテリー駆動（電源コードとACアダプターを接続しない状態）で使うことができます。
バッテリー駆動で使う場合は、あらかじめバッテリーパックの充電を完了（フル充電）させるか、フル充電したバッテリーパックを取り付けてください。
指定する方法・環境以外でバッテリーパックを使用した場合には、発熱、発火、破裂するなどの可能性があり、人身事故につながりかねない場合がありますので、十分ご注意をお願いします。
『安心してお使いいただくために』や『取扱説明書』に、バッテリーパックを使用するときの重要事項が記述されています。バッテリー駆動で使う場合は、あらかじめその記述をよく読み、必ず指示を守ってください。

1 バッテリー充電量を確認する

バッテリー駆動で使う場合、バッテリーの充電量が減って作業を中断したりしないよう、バッテリーの充電量を確認しておく必要があります。

1 システムインジケーターで確認する

電源コードとACアダプターを使用している場合、Battery LEDが点灯します。



Battery LEDは次の状態を示しています。

緑色の点灯	充電完了
オレンジ色の点灯	充電中
オレンジ色の点滅	充電が必要 参照 バッテリーの充電について「本節 2 バッテリーを充電する」
消灯	・バッテリーが装着されていない ・電源コードとACアダプターが接続されていない 上記のいずれにも当てはまらない場合は、バッテリー異常の可能性があります。東芝PCあんしんサポートに連絡してください。

2 通知領域の［バッテリー］アイコンで確認する



通知領域の［バッテリー］アイコン（ または ）の上にポインターを置くと、バッテリー充電量が表示されます。
［バッテリー］アイコン（ または ）をクリックすると、電源プランなども表示されます。

参照 電源プランについて「本章 2 省電力の設定をする」

3 バッテリー充電量が減少したとき

電源が入っている状態でバッテリーの充電量が少なくなると、次のように警告します。

- Battery LEDがオレンジ色に点滅する（バッテリーの残量が少ないことを示しています）
- バッテリーのアラームが動作する
  「電源オプション」で［プラン設定の変更］→［詳細な電源設定の変更］をクリックして表示される［詳細設定］タブの［バッテリ］→［低残量バッテリの通知］や［低残量バッテリの動作］で設定すると、バッテリーの残量が少なくなったことを通知したり、自動的に対処する動作を行います。

  参照 省電力設定（電源オプション）について「本章 2 省電力の設定をする」

上記のような警告が起こった場合はただちに次のいずれかの方法で対処してください。

- パソコン本体に電源コードとACアダプターを接続し、充電する
- 電源を切ってから、フル充電のバッテリーパックと取り換える

購入時は休止状態が設定されています。バッテリー減少の警告が起こっても何も対処しなかった場合、パソコン本体は自動的に休止状態になり、電源が切れます。

メモ

- 1ヵ月以上の長期にわたり、電源コードとACアダプターを接続したままパソコンを使用してバッテリー駆動を行わないと、バッテリー充電量が少しずつ減少します。このような状態でバッテリー充電量が減少したときは、Battery LEDや［バッテリー］アイコンで充電量の減少が表示されないことがあります。1ヵ月に1度は再充電することを推奨します。
- 長時間使用しないでバッテリーが自然に放電しきってしまったときは、警告音も鳴らず、Battery LEDでも放電しきったことを知ることはできません。長時間使用しなかったときは、充電してから使用してください。

時計用バッテリー

本製品には、取りはずしができるバッテリーパックのほかに、内蔵時計を動かすための時計用バッテリーが内蔵されています。
時計用バッテリーの充電は、電源コードとACアダプターを接続し電源を入れているとき（電源ON時）に行われますので、普通に使用しているときは意識する必要はありません。ただし、充電量が少ない場合、時計が止まったり、遅れたりすることがあります。
時計用バッテリーが不足すると、メッセージが表示されます。

■充電完了までの時間

時計用バッテリーは、電源ON（Power LEDが緑色に点灯）の状態にしておくと、約24時間で充電が完了します。
時計用バッテリー充電中でもパソコンを使用できます。充電中に充電状態を知ることはできません。

2 バッテリーを充電する

充電方法とフル充電になるまでの充電時間について説明します。

お願い バッテリーを充電するにあたって

- あらかじめ、次の説明を確認してください。

参照 「付録 1 - 11 - バッテリーを充電するにあたって」

1 充電方法

1 パソコン本体にACアダプターを接続し、電源コードの電源プラグをコンセントに差し込む

DC IN LEDが緑色に点灯してBattery LEDがオレンジ色に点灯すると、充電が開始されます。
電源のON／OFFにかかわらずフル充電になるまで充電されます。

2 Battery LEDが緑色になるまで充電する

バッテリーの充電中はBattery LEDがオレンジ色に点灯します。
DC IN LEDが消灯している場合は、電源が供給されていません。電源コード、ACアダプターの接続を確認してください。

メモ

- パソコン本体を長時間ご使用にならないときは、電源コードの電源プラグをコンセントから抜いてください。

■充電完了までの時間

バッテリー充電時間は、パソコン本体の機器構成や動作状況、また使用環境によって異なります。周囲の温度が低いとき、バッテリーパックの温度が高くなっているとき、周辺機器を取り付けているとき、アプリケーションを使用しているときは、充電完了まで時間がかかることがあります。
詳しくは、『dynabook ＊＊＊＊（お使いの機種名）シリーズをお使いのかたへ』を参照してください。

■使用できる時間

バッテリー駆動での使用時間は、パソコン本体の機器構成や動作状況、また使用環境によって異なります。
詳しくは、『dynabook ＊＊＊＊（お使いの機種名）シリーズをお使いのかたへ』を参照してください。

■バッテリー駆動時の処理速度

高度な処理を要するソフトウェア（3Dグラフィックス使用など）を使用する場合は、十分な性能を発揮するために電源コードとACアダプターを接続してご使用ください。

■使っていないときの充電保持時間

パソコン本体を使わないで放置していても、バッテリー充電量は少しずつ減っていきます。バッテリーの保持時間は、放置環境などによって異なります。
スリープを実行した場合、放電しきるまでの時間が非常に短いため、バッテリー駆動時は休止状態、またはハイブリッド スリープにすることをおすすめします。

参照 ハイブリッド スリープについて「2章 2 - 1 - 2 スリープ機能を強化する」

2 バッテリーを長持ちさせる

本製品のバッテリーをより有効に使うための工夫を紹介します。

バッテリーの機能低下を遅くする方法

次の点に気をつけて使用すると、バッテリーの機能低下を遅くすることができます。

- パソコン本体を長時間使用しないときは、電源コードの電源プラグをコンセントから抜いてください。
- 1ヵ月以上の長期間バッテリーを使わない場合は、パソコン本体からバッテリーをはずして、風通しの良い涼しい場所に保管してください。
- おもに電源コードとACアダプターを接続してパソコンを使用し、バッテリーパックの電力をほとんど使用しないなど、100%の残量近辺で充放電をくり返すとバッテリーの機能低下を早める場合があります。
- 「TOSHIBA ecoユーティリティ」で「eco充電モード」を有効にすると、バッテリー充電完了時の容量をフル充電より少なめにおさえて、バッテリーの機能低下を遅らせることができます。

  参照 「本章 2 - 2 TOSHIBA ecoユーティリティ」
- 1ヵ月に1度は、電源コードとACアダプターをはずしてバッテリー駆動でパソコンを使用してください。

バッテリー消費をおさえる方法

バッテリーの消費をおさえて、本製品をバッテリー駆動で長時間使用するには、次の方法があります。

- こまめに休止状態にする

参照 「2章 2 - 2 休止状態」

- 入力しないときは、ディスプレイを閉じておく

参照 「2章 2 - 4 簡単に電源を切る／パソコンの使用を中断する」

- 省電力の電源プランを設定する

参照 「本章 2 省電力の設定をする」

バッテリーの充電能力を調べる

バッテリーパックは、消耗品です。「東芝PCヘルスモニタ」を使用すると、バッテリーパックを交換する目安を調べることができます。

参照 「東芝PCヘルスモニタ」について『取扱説明書』

3 バッテリーパックを保管する

バッテリーパックを保管するときは、次の説明をお読みください。
また、『安心してお使いいただくために』や『取扱説明書』にも、バッテリーパックを保管するときの重要事項が記述されています。あらかじめその記述をよく読み、必ず指示を守ってください。

- 充電状態のバッテリーパックを放置しておくとバッテリーが機能低下し、もう一度充電したときの容量が減少してしまいます。この機能低下は、保存温度が高いほど早く進みます。
- バッテリーパックの電極（金属部分）がショートしないように、金属製ネックレス、ヘアピンなどの金属類と混在しないようにしてください。
- 落下したり衝撃がかかったりしないよう安定した場所に保管してください。

2 省電力の設定をする

1 電源オプション

「電源オプション」ではパソコンの電源を管理して、電力の消費方法を状況に合わせて変更することができます。
バッテリー駆動でパソコンを使用しているときに、消費電力を減らして長い時間使用するように設定したり、電力を使ってパフォーマンスの精度を上げるように設定したりできます。
これらの電源設定を電源プランといいます。
「電源オプション」では、使用環境に合わせて設定された電源プランがあらかじめ用意されていますので、使用環境が変化したときに電源プランを切り替えるだけで、簡単にパソコンの電源設定を変更することができます。
購入時には、次の電源プランが用意されています。

- **バランス**
  必要なときは電力を使ってパフォーマンスを最大にし、動作させていないときは電力を節約します。
- **eco**
  東芝の推奨する設定により、消費電力をおさえます。
  参照 「本節 2 TOSHIBA ecoユーティリティ」
- **省電力**
  パソコンの動作速度などのパフォーマンスを低下させ、消費電力をおさえます。
  バッテリー駆動のときにこのプランを使用すると、バッテリーが通常より長くもちます。
- **高パフォーマンス**
  パフォーマンスと応答速度を最大にします。消費電力が増える可能性があります。
  バッテリー駆動のときにこのプランを使用すると、バッテリーが通常よりも早く消費されます。

＊「省電力」、「高パフォーマンス」は［追加プランの表示］の ⌄ をクリックすると表示されます。

各電源プランの設定を変更したり、新しく電源プランを追加することもできます。

参照 電源プランの設定を変更、新規追加『「電源オプション」のヘルプ』

起動方法

1 スタート画面の［デスクトップ］をクリックする

デスクトップ画面が表示されます。

2 ［デスクトップアプリメニュー］アイコン（ ）をダブルクリックする

「東芝デスクトップアプリメニュー」が起動します。

3 ［コントロールパネル］をクリックする

4 ［ システムとセキュリティ］→［ 電源オプション］をクリックする

「電源オプション」が起動します。

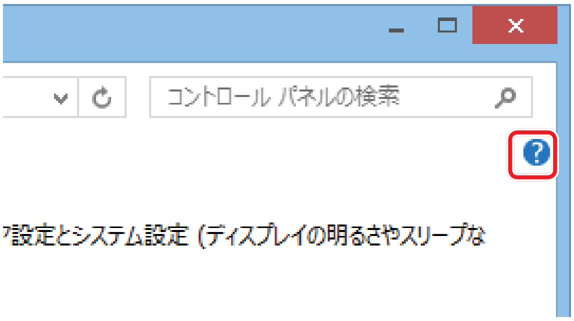
メモ

- 「電源オプション」は、「TOSHIBA ecoユーティリティ」からも起動できます。

参照 「本節 2 TOSHIBA ecoユーティリティ」

ヘルプの起動方法

1 「電源オプション」を起動後、画面右上の ボタンをクリックする



（表示例）

2 表示された一覧から知りたい項目をクリックする

該当するページが表示されます。

2 TOSHIBA ecoユーティリティ

「TOSHIBA ecoユーティリティ」では、パソコンの消費電力をおさえるためのさまざまな設定が行えます。

■ecoモード

「ecoモード」を有効にすると、東芝の推奨する設定によって、電源プランやディスプレイの明るさなどを自動的に調節して、消費電力をおさえます。

■貢献履歴

消費電力の低減によって、どれだけ環境の保護に貢献できたかが、イメージやグラフなどで表示されます。
一日ごと、または月ごとに確認できます。

■ピークシフト

昼間の電力消費の一部を夜間に移行させて電力を効果的に活用し、電力需要の平準化を実現します。たとえば夏期の日中など電力使用のピーク時間帯には自動的にAC電源からの電力供給を止め、電力需要の少ない時間帯（夜間など）に充電したバッテリーでパソコンを動作させる電源管理機能を備えています。
ピークシフト機能は、パソコン単体でも使用できますが、複数台数で同じ時間帯に制御することによってその効果を発揮します。制御するパソコンの台数は多ければ多いほど効果が大きくなります。

■バッテリーライフサイクル

バッテリーの充電方法で「eco充電モード」を有効にすると、バッテリーフル充電時の容量をおさえて、バッテリーの機能低下を遅くできます。パソコンの電源コードとACアダプターをコンセントに接続したまま使用される方におすすめです。ただし、バッテリーのフル充電の容量が少なくなるため、バッテリーでの駆動時間は短くなります。

メモ

- 表示されるメニューは、モデルにより異なります。

TOSHIBA ecoユーティリティの設定は、次の手順で行います。

1 スタート画面の［デスクトップ］をクリックする

デスクトップ画面が表示されます。

2 ［デスクトップアプリメニュー］アイコン（ ）をダブルクリックする

「東芝デスクトップアプリメニュー」が起動します。

3 ［ユーティリティ］→［eco ユーティリティ ］をクリックする

［TOSHIBA ecoユーティリティ］画面が表示されます。



（表示例）

初回起動時は、［はじめにお読みください］画面が表示されますので、［同意する］をチェックし、［OK］ボタンをクリックしてください。

4 画面左側から設定するメニューをクリックする

「TOSHIBA ecoユーティリティ」の詳細は、ヘルプを参照してください。

ヘルプの起動方法

1 ［TOSHIBA ecoユーティリティ］画面で［ヘルプ］をクリックする

「TOSHIBA ecoユーティリティ」のヘルプが表示されます。

6章

システム環境の変更

本製品を使用するときの、システム上のさまざまな環境を設定する方法について説明しています。

1 東芝システムセッティング

「東芝システムセッティング」を使い、Windows 上でシステムの設定を変更できます。
複数のユーザーで使用する場合も、設定内容は全ユーザーで共通になります。

設定方法

1 スタート画面の［デスクトップ］をクリックする

デスクトップ画面が表示されます。

2 ［デスクトップアプリメニュー］アイコン（）をダブルクリックする

「東芝デスクトップアプリメニュー」が起動します。

3 ［ユーティリティ］→［システムセッティング ］をクリックする

「東芝システムセッティング」が起動します。

4 各機能を設定し、［OK］ボタンをクリックする

［キャンセル］ボタンをクリックした場合は、設定が変更されません。

再起動が必要な項目の設定を変更すると、パソコンの再起動を行うようメッセージが表示されます。
この場合、すぐに再起動を行って設定を有効にしてください。

2 BIOSセットアップ

＊この操作は、本マニュアルを参照しながら実行することはできません。
印刷した本項目のページと『取扱説明書』を参照して実行してください。

BIOS（バイオス）セットアップとは、パソコンのシステム構成をパソコン本体から設定するプログラムのことです。起動と終了方法や基本操作は『取扱説明書』を参照してください。
ここでは、BIOSセットアップの設定項目について説明します。

1 設定項目

1 Main

■System Time（システム時刻）

時刻の設定は F6 キーまたは F7 キーで行います。
時と分と秒の切り替えは、 TAB キーで行います。

■System Date（システム日付）

日付の設定は F6 キーまたは F7 キーで行います。
年と月と日の切り替えは、 TAB キーで行います。

■CPU Type

本体に搭載されているCPUのタイプが表示されます。

■CPU Speed

本体に搭載されているCPUのスピードが表示されます。

■HDD/SSD

本体に搭載されているハードディスクのタイプと容量が表示されます。

■ODD

本体に搭載されているドライブのタイプが表示されます。

■Total Memory Size

本体に取り付けられているメモリのメモリ総容量が表示されます。

■System BIOS Version

搭載されているBIOSのバージョンが表示されます。

■EC Version

ECのバージョンが表示されます。

■Language

BIOSで使用する言語を選択します。

- English（標準値）...................英語
- Français.................................フランス語

2 Security

■BIOS Password

ユーザーパスワードやスーパーバイザーパスワードを登録／削除／変更します。

● User

ユーザーパスワードを登録すると、起動時のシステムへのアクセスを制限できます。
ユーザーパスワードの登録／削除／変更は「東芝パスワードユーティリティ」で行うことを推奨します。

参照 詳細について「本章 3 - 1 ユーザーパスワード」

・Not Registered（標準値）...ユーザーパスワードが登録されていないときに表示される
・Registered............................ユーザーパスワードが登録されているときに表示される

〈ユーザーパスワードを忘れてしまったとき〉

ユーザーパスワードを忘れてしまった場合は、東芝PCあんしんサポートに相談してください。ユーザーパスワードの解除を東芝PCあんしんサポートに依頼する場合は、有料です。またそのとき、身分証明書（お客様自身を確認できる物）の提示が必要となります。

● Supervisor

スーパーバイザーパスワードを登録すると、セットアップへのアクセスを制限できます。
スーパーバイザーパスワードの登録／削除／変更は「東芝パスワードユーティリティ」で行うことを推奨します。スーパーバイザーパスワードをBIOSセットアップで登録すると、操作が一部制限されます。

参照 詳細について「本章 3 - 2 スーパーバイザーパスワード」

・Not Registered（標準値）...スーパーバイザーパスワードが登録されていないときに表示される
・Registered............................スーパーバイザーパスワードが登録されているときに表示される

■HDD/SSD Password

HDD/SSDのHDDユーザーパスワードやHDDマスターパスワードを登録／削除／変更します。

● Mode

HDD/SSDのHDDパスワードモードを設定します。
・User Only（標準値）..............HDD/SSDのHDD ユーザーパスワードのみを登録する
・Master+User.........................HDD/SSDのHDDマスターパスワードとHDDユーザーパスワードを登録する

● User

HDD/SSDのHDDユーザーパスワードを登録／削除／変更します。

参照 詳細について「本章 3 - 4 HDDパスワード」

・Not Registered（標準値）...HDDユーザーパスワードが登録されていないときに表示される
・Registered............................HDDユーザーパスワードが登録されているときに表示される

- Master

HDD/SSDのHDDマスターパスワードを登録／削除／変更します。
「Mode」が「Master＋User」の場合のみ表示されます。

参照 HDDパスワードの設定方法「本章 3 - 4 HDDパスワード」

・Not Registered（標準値）...HDDマスターパスワードが登録されていないときに表示される
・Registered............................HDDマスターパスワードが登録されているときに表示される

■Secure Boot

Secure Boot機能を設定します。
「Advanced」メニューの「System Configuration」で、「Boot Mode」を「UEFI Boot」に設定した場合のみ表示されます。

・Disabled ....Secure Boot機能を無効にする
・Enabled（標準値）.................Secure Boot機能を有効にする

- Clear Secure Boot keys

スーパーバイザーパスワードを登録すると、設定できるようになります。また、「Secure Boot」を「Disabled」に設定した場合のみ設定できます。
Secure Boot機能に関するキー情報を削除し、Secure Boot機能をセットアップモードにします。

メモ

- 「Boot Mode」を「CSM Boot」に設定している場合、「Secure Boot」は表示されません。
- 「Boot Mode」を「UEFI Boot」に設定している場合、「Secure Boot」を「Enabled」に設定すると、「Boot Mode」を変更できなくなります。
- 「Secure Boot」を「Enabled」に設定している場合、「Clear Secure Boot keys」は設定できません。

■TPM

＊TPM搭載モデルのみ表示されます。

TPM（Trusted Platform Module）を設定します。

・Disabled（標準値）...............TPMを無効にする
・Enabled ....TPMを有効にする

設定を変更するには、次のように操作してください。
「TPM」を「Enabled」に設定するには、先に「Hide TPM」を「No」に設定してください。

①カーソルを「TPM」の「Disabled」または「Enabled」に合わせ、ENTERキーを押す

②カーソルを「Disabled」または「Enabled」に合わせ、ENTERキーを押す

設定が変更されます。

6章 システム環境の変更

● Clear TPM Owner

＊TPM搭載モデルのみ表示されます。

「TPM」で「Enabled」に設定し、再起動してから、設定できます。

所有者登録とユーザー登録を削除します。

本製品を廃棄するときや、譲渡などにより使用者（管理者）を変更するというように、TPMの使用を中止する場合に行ってください。

①カーソルを「Clear TPM Owner」に合わせ、ENTER キーを押す

再起動後、「TPM」の設定が「Enabled」から「Disabled」に変更されます。

お願い　操作にあたって

- 所有者登録とユーザー登録を削除すると、TPMに関係するセキュリティ機能が使用できなくなります。このため、管理者の権限を持たないユーザーが「TPM」を操作できないように設定することをおすすめします。

参照 管理者以外のユーザーの制限について
「本章 5 - 3 東芝パスワードユーティリティでTPMの設定をする」

- 所有者登録とユーザー登録を削除したあとに、TPMの使用を再開する場合は、もう一度TPMへ所有者登録やユーザー登録を行う必要があります。

● Hide TPM

＊TPM搭載モデルのみ表示されます。

「TPM」で「Disabled」に設定し、再起動してから、設定を変更できます。

TPMの表示をシステム上で確認できないようにするときに使用します。

・No（標準値）............................TPMをシステム上で確認できるようにする
・Yes..TPMをシステム上で確認できないようにする

「TPM」を「Enabled」に設定するには、先に「Hide TPM」を「No」に設定してください。

また、「Yes」に設定すると、TPMをシステム上で確認することはできません。

■Boot Menu

スーパーバイザーパスワードを登録すると、設定できるようになります。

ユーザーパスワードでパソコンを使用するユーザー（ユーザー権限）に対し、F12 キーを使ったドライブの起動を制限することができます。

・Disabled（標準値）................無効にする
・Enabled..................................有効にする

■Device Access Control／Device Boot Control

スーパーバイザーパスワードを登録すると、設定できるようになります。
ユーザーパスワードでパソコンを起動したユーザー（ユーザー権限）に、デバイスの使用やデバイスからの起動を制限することができます。

ENTER キーを押すと、画面が切り替わります。元の画面に戻るには ESC キーを押します。
設定後はパソコンの電源を切る必要があります。また、設定後にスーパーバイザー認証が必要になることがあります。
「東芝デバイスアクセスコントロール」でデバイスの使用やデバイスからの起動の制限を設定している場合、設定を変更するときも「東芝デバイスアクセスコントロール」で行ってください。

【Device Access Control】画面

デバイスごとに、使用制限を設定します。
- Enabled（標準値）................デバイスを使用可能にする
- Disabled................................デバイスを使用禁止にする

【Device Boot Control】画面

デバイスごとに、デバイスからの起動制限を設定します。
すべてのデバイスからの起動を禁止にすることはできません。また、「Device Access Control」で「Disabled」に設定しているデバイスからの起動を可能にすることはできません。
- Enabled（標準値）................デバイスからの起動を可能にする
- Disabled................................デバイスからの起動を禁止にする

〈スーパーバイザーパスワードを忘れてしまったとき〉

スーパーバイザーパスワードを忘れてしまった場合は、東芝PCあんしんサポートに相談してください。スーパーバイザーパスワードの解除を東芝PCあんしんサポートに依頼する場合は、有料です。またそのとき、身分証明書（お客様自身を確認できる物）の提示が必要となります。

3 PowerManagement

■Wake-up on LAN

電源OFF状態からのLANによるWake-up機能を設定します。
ネットワークで接続された管理者のパソコンからの呼び出しにより、自動的に電源を入れます。
Wake-up on LAN機能を使用する場合は、必ず電源コードとACアダプターを接続してください。電源を切っている状態でも、バッテリーを使っていないときの充電保持時間が『dynabook ＊＊＊＊（お使いの機種名）シリーズをお使いのかたへ』の表記よりも短くなります。
- Enabled..................................有効にする
- Disabled（標準値）................無効にする

スリープ状態、および休止状態からのWake-up on LAN機能を有効にするためには、「デバイスマネージャー」の［ネットワークアダプター］でネットワークアダプター名をダブルクリックし、表示されたプロパティ画面の［電源の管理］タブで［このデバイスで、コンピューターのスタンバイ状態を解除できるようにする］および［Magic Packetでのみ、コンピューターのスタンバイ状態を解除できるようにする］の項目にチェックをつける必要があります。

■Wake-up on LAN on Battery

バッテリー駆動の際のWake-up on LAN機能を設定します。

- ・Enabled……………………………バッテリー駆動の際にWake-up on LAN機能を有効にする
- ・Disabled（標準値）……………バッテリー駆動の際にWake-up on LAN機能を無効にする

■Wake on Keyboard

キーボードによるWake-up機能を設定します。

- ・Enabled……………………………有効にする
- ・Disabled（標準値）……………無効にする

■Critical Battery Wake-up

「Critical Battery Wake-up機能」を設定します。「Critical Battery Wake-up機能」とは、スリープ状態の間にバッテリーの残量が少なくなった場合、自動的に休止状態になり、データをハードディスクに保存します。

- ・Enabled（標準値）………………Critical Battery Wake-up機能を有効にする
- ・Disabled ……………………………Critical Battery Wake-up機能を無効にする

「Critical Battery Wake-up機能」を有効にするには、Windows上でも設定が必要です。
次の操作を行って、設定してください。

①［コントロールパネル］を開き、［システムとセキュリティ］の［電源オプション］をクリックする

②利用するプランを選択し、［プラン設定の変更］をクリックする

③［詳細な電源設定の変更］をクリックする

④［電源オプション］画面の［詳細設定］タブで、［バッテリ］をダブルクリックする

⑤［バッテリ切れの動作］をダブルクリックし、表示された項目で「バッテリ駆動」を［休止状態］に設定する

⑥［OK］ボタンをクリックする

■Panel Open - Power On

パネルオープンパワーオン機能を設定します。
パソコンの電源が切れている状態でディスプレイを開くとパソコンの電源が入り、OSが起動します。

- ・Enabled……………………………有効にする
- ・Disabled（標準値）……………無効にする

■Dynamic CPU Frequency Mode

- ・Dynamic Switch（標準値）…CPUの消費電力・周波数自動切り替え機能を有効にし、使用状況に応じてCPU周波数を自動的に切り替える
- ・Always High………………………CPUの消費電力・周波数自動切り替え機能を無効にし、CPU周波数を高周波数にしてパソコンの処理能力を優先する
- ・Always Low ………………………CPUの消費電力・周波数自動切り替え機能を無効にし、CPU周波数を低い周波数にしてパソコンのバッテリー駆動時間を優先する

■Core Multi-Processing

CPUの動作モードを設定します。

・Enabled（標準値）.................Dual Coreモードに設定する
・Disabled ....Single Coreモードに設定する

■Intel Turbo Boost Technology

＊対応しているCPUのみで表示されます。

インテル® ターボ・ブーストを設定します。

・Enabled（標準値）.................有効にする
・Disabled ....無効にする

■Intel Display Power Management

＊対応しているCPUのみで表示されます。

Intel Display Power Managementを設定します。

・Enabled（標準値）.................有効にする
・Disabled ....無効にする

■eSATA

eSATAデバイスを設定します。

・Enabled（標準値）.................有効にする
・Disabled ....無効にする

■SATA Interface setting

SATAデバイスの性能とバッテリー駆動時間の優先度を設定します。

・Performance（標準値）........SATAデバイスの性能／eSATAポート転送速度＊1を優先する
・Battery life............................バッテリー駆動時間を優先する

＊1 eSATAポートに接続する機器によって、転送速度は異なります。

■BIOS Power Management

OS以外の省電力機能を設定します。ENTERキーを押すと、画面が切り替わります。元の画面に戻るにはESCキーを押します。

【BIOS Power Management画面】

■Battery Save Mode

バッテリーセーブモードを設定します。
「Battery Save Mode」の設定項目は次のように表示されます。

	Full Power	Low Power	User Setting
Processing Speed	High	Low	項目ごとに設定を変更できます。
CPU Sleep Mode	Enabled	Enabled	
LCD Brightness＊1	Super-Bright＊2	Bright＊2	
Cooling Method	Maximum Performance	Battery Optimized	

＊1「Advanced」メニューの「System Configuration」で、「Boot Mode」を「CSM Boot」に設定した場合のみ表示されます。
＊2 電源コードとACアダプターを接続している場合の表示内容です。

「Battery Save Mode」の項目について説明します。

● **Processing Speed**

処理速度を設定します。使用するアプリケーションソフトによっては設定を変更する必要があります。

・High..処理速度を高速に設定する
・Low...処理速度を低速に設定する

● **CPU Sleep Mode**

CPUが処理待ち状態のとき、電力消費を低減します。
一部のアプリケーションソフトでは「Enabled」に設定すると処理速度が遅くなることがあります。その場合は「Disabled」に設定してください。

・Enabled.................................電力消費を低減する
・Disabled ....電力消費を低減しない

● **LCD Brightness（LCD輝度）**

画面の明るさを設定します。

・Super-Bright..........................最高輝度に設定する
・Bright.....................................高輝度に設定する
・Semi-Bright ....低輝度に設定する

● **Cooling Method（CPU熱制御方式）**

CPUの熱を冷ます方式を設定します。CPUが高熱を帯びると故障の原因になります。

・Cooling Optimized..............パソコン本体内部の温度が上昇したときに、主にファンを使用して冷却する
・Maximum Performance.....パソコン本体内部の温度が上昇したときに、主にファンを使用して冷却し、「Cooling Optimized」よりもファン音が静かな状態を保ち温度を下げる
・Battery Optimized...............パソコン本体内部の温度が上昇したときに、主にCPUの処理速度を落として冷却する

■PCI Express Link ASPM

PCI Expressの省電力機能を設定します。

・Enabled（標準値）.................PCI Expressデバイスが使用されていないときに、消費電力をおさえる
・Disabled ....省電力機能を無効にし、パフォーマンスを優先する
・Auto ....バッテリー動作中かつPCI Expressデバイスが使用されていないときに、消費電力をおさえる

4 Advanced

■Execute-Disable Bit Capability

Execute-Disable Bit Capability（エグゼキュート・ディスエーブル・ビット機能）を設定します。

・Available（標準値)................使用する
・Not Available ....使用しない

■Virtualization Technology

インテル® バーチャライゼーション・テクノロジーを設定します。

・Disabled ....使用しない
・VT-x & VT-d..........................VT-x & VT-d機能を有効にする
・VT-x Only（標準値）..............VT-xを有効にする
・VT-d Only...............................VT-d機能を有効にする
（CPUによっては表示されない項目があります）

■Trusted Execution Technology

＊Trusted Execution Technology対応CPU搭載モデルのみ表示されます。

Trusted Execution Technologyを設定します。
Trusted Execution Technologyとは、Virtualization Technologyを使ってTPMと連携させるセキュリティ技術です。

・Enabled..................................Trusted Execution Technologyを許可に設定する
・Disabled（標準値）................Trusted Execution Technologyを禁止に設定する

Trusted Execution Technologyを許可に設定する場合、事前に「Advanced」メニューの「Virtualization Technology」を「VT-x & VT-d」に設定し､「Security」メニューの「TPM」を「Enabled」に設定し、「PowerManagement」メニューの「Core Multi-Processing」を「Enabled」に設定してください。

■Intel(R) AT

インテル® アンチセフト・テクノロジー（パソコンの紛失や盗難時に、パソコンを無効化するセキュリティ機能）を利用可能にする設定です。

・Enabled...................................使用する
・Disabled（標準値）................使用しない

■Intel(R) AT Suspend

インテル® アンチセフト・テクノロジーを一時的に無効にするための設定です。

- ・Enabled..................................使用する
- ・Disabled（標準値）................使用しない

インテル® アンチセフト・テクノロジーを利用しているときのみ設定できます。
Intel(R) AT Suspendを使用する場合、事前に「Intel(R) AT」を「Enabled」に設定してください。

■Intel(R) Rapid Start Technology

＊Intel® Rapid Start Technology搭載モデルのみ表示されます。
スリープから一定時間後に休止状態に変わる、Intel® Rapid Start Technologyを設定します。

参照 詳細について「2章 2 - 3 スリープから一定時間後に休止状態にする」

- ・Enabled（標準値）................使用する
- ・Disabled ....使用しない

■Rapid Start Entry after

＊Intel® Rapid Start Technology搭載モデルのみ表示されます。
Intel® Rapid Start Technologyでスリープから休止状態に変わるまでの時間を設定します。
「Intel(R) Rapid Start Technology」で「Enabled」に設定している場合のみ、設定を変更できます。

- ・Immediately..........................スリープに入るとすぐに休止状態になります。
- ・10 minutes ....スリープから10分後に休止状態になります。
- ・2 hours（標準値）.................スリープから2時間後に休止状態になります。
- ・5 hours ....スリープから5時間後に休止状態になります。
- ・24 hours ....スリープから24時間後に休止状態になります。

■Beep Sound

Windows OS以外でのビープ音を設定します。
OFF、Low、Medium（標準値）、Highのいずれかを選択できます。

■Sleep and Charge

USBの常時給電を設定します。

- ・Disabled（標準値）................使用しない
- ・Auto Mode............................USBの常時給電を有効にし、Auto Modeで使用する
- ・2.0A Mode............................USBの常時給電を有効にし、2.0A Modeで使用する

■System ON CDP Charge Mode

⚡アイコンが付いているUSBコネクタへ電源ON状態のときにUSBバスパワー（DC5V）を最大1.5Aまで供給します。

- ・Enabled..................................有効にする
- ・Disabled（標準値）................無効にする

■USB Power in Sleep Mode

スリープ中でも、USBコネクタにUSBバスパワー（DC5V）を供給します。

- ・Enabled……………………………有効にする
- ・Disabled（標準値）……………無効にする

■USB Legacy Emulation

USBキーボード、マウスなどのレガシーサポートを設定します。

- ・Enabled（標準値）………………レガシーサポートを行う
  ドライバーなしでUSBキーボード／USBマウスなどが使用できます。
- ・Disabled …………………………レガシーサポートを行わない

「USB Legacy Emulation」が「Enabled」に設定されていても、「Change Boot Order」が「HDD/SSD → USB Memory → eSATA HDD → ODD → USB ODD → FDD → LAN」の場合は、本体のハードディスクから起動します。

■USB Memory BIOS Support Type

コンピューターの起動に使用するUSBフラッシュメモリを設定します。
「Advanced」メニューの「System Configuration」で、「Boot Mode」を「CSM Boot」に設定した場合のみ表示されます。

- ・HDD（標準値）……………………USBフラッシュメモリをHDDとして扱う
  起動するドライブとしての優先順位は、「Change Boot Order」での「HDD/SSD」の順位です。
- ・FDD…………………………………USBフラッシュメモリをFDDとして扱う
  起動するドライブとしての優先順位は、「Change Boot Order」での「FDD」の順位です。

■Change Boot Order

システムを起動するディスクドライブの順番を F6 キーまたは F7 キーで設定します。
通常は次の順番（標準値）に設定してください。

1 HDD/SSD
2 USB Memory
3 eSATA HDD＊1
4 ODD＊2
5 USB ODD
6 FDD
7 LAN

＊1「Advanced」メニューの「System Configuration」で、「Boot Mode」を「CSM Boot」に設定した場合のみ、再起動してから表示されます。

＊2 ドライブ搭載モデルのみ

■System Configuration

ENTER キーを押すと、画面が切り替わります。元の画面に戻るには ESC キーを押します。

【System Configuration画面】

■Built-in LAN

LANコネクタを設定します。

- Enabled（標準値）..................使用する
- Disabled ....使用しない

■Wireless LAN

＊無線LAN機能搭載モデルのみ表示されます。

無線LANを設定します。

- Enabled（標準値）..................使用する
- Disabled ....使用しない＊1

＊1「Disabled」を設定した場合、FN＋F8キー（無線通信機能のON/OFF）は使用できなくなります。

■Auto Wireless LAN RF Switching

＊無線LAN機能搭載モデルのみ表示されます。

LANケーブルの接続によって、自動的に無線LAN機能の有効／無効を切り替えます。
有効の場合、LANケーブルが接続されているときは無線LAN機能が無効に、接続されていないときは無線LAN機能が有効に切り替わります。

- Enabled..................................有効にする
- Disabled（標準値）................無効にする

■Bluetooth

＊Bluetooth機能搭載モデルのみ表示されます。

Bluetoothを設定します。

- Enabled（標準値）.................使用する
- Disabled ....使用しない＊1

＊1「Disabled」を設定した場合、FN＋F8キー（無線通信機能のON/OFF）は使用できなくなります。

■Internal Pointing Device

タッチパッドを設定します。

- Enabled（標準値）..................使用する
- Disabled ....使用しない

■Web Camera

＊Webカメラ搭載モデルのみ表示されます。

Webカメラを設定します。

- Enabled（標準値）.................使用する
- Disabled ....使用しない

■SD Host Controller

ブリッジメディアスロットを設定します。

- Enabled（標準値）..................使用する
- Disabled ....使用しない

■Fingerprint Sensor

＊指紋センサー搭載モデルのみ表示されます。

指紋センサーを設定します。

・Enabled（標準値）................使用する
・Disabled ....使用しない

■Internal USB3.0 Controller

USB3.0ポートの動作を設定します。

・Enabled（標準値）.................USB3.0ポートとして使用する
・Disabled USB2.0ポートとして使用する

■Memory Performance Mode

メモリの使用方法を設定します。

・Enabled（標準値）.................バッテリー駆動時間よりシステム処理能力を優先させる
・Disabled ....システム処理能力よりバッテリー駆動時間を優先させる

■SATA Controller Mode

SATAコントローラーモードを設定します。

「Advanced」メニューの「System Configuration」で、「Boot Mode」を「CSM Boot」に設定した場合のみ表示されます。

・Compatibility＊1 ....レガシーOS用でAHCI対応のドライバーを使わない場合に使用するモード
ただし、すべてのレガシーOSでの動作を保証するものではありません。
・AHCI（標準値）.......................Windows 8とWindows 7用のモード（AHCI）

＊1 Intel® Rapid Start Technology搭載モデルでは表示されません。

■Boot Mode

Boot Modeを設定します。

・UEFI Boot（標準値）.............GPT（GUID Partition Table）で初期化されたHDD/SSDからの起動に対応する
・CSM Boot ....MBR（Master Boot Record）で初期化されたHDD/SSDからの起動に対応する

メモ

- 「Boot Mode」を「UEFI Boot」に設定している場合、「Security」メニューの「Secure Boot」を「Enabled」に設定すると、「Boot Mode」を変更できなくなります。

■Power On Display

起動時のWindowsロゴを表示する表示装置を設定します。

・Auto-Selected（標準値）.....本体液晶ディスプレイを閉じているときは、接続している外部ディスプレイを自動的に検出し、外部ディスプレイにのみ画面を表示する

・System LCD only ....本体液晶ディスプレイにのみ表示する

■Boot Up NumLock Status

テンキー搭載モデルまたは外付けUSBキーボードなどを使用している場合、起動時のテンキーの入力状態を設定します。

・ON（標準値）..........................テンキーをNumeric Mode（ニューメリックモード）で起動し、テンキーの数字などの文字を入力できる状態にする（数字ロックモード）

・OFF..テンキーをArrow Mode（アローモード）で起動し、テンキーをカーソル制御キーとして使用できる状態にする（アローモード）

起動後は、OSの設定に従って入力状態が設定されます。
また、テンキー搭載モデルまたは外付けUSBキーボードの *NUM LOCK* キーを押すことで、Numeric ModeとArrow Modeを切り替えます。

メモ

- 本設定は、外付けUSBキーボードにも反映されます。ただし、すべての外付けUSBキーボードに対する動作を保証するものではありません。

5 Exit

■Exit Saving Changes

変更を保存してBIOSセットアップを終了します。

■Exit Discarding Changes

変更を保存しないでBIOSセットアップを終了します。
各種パスワード、TPM、「Main」メニューの「System Time」と「System Date」の各設定については、変更前の状態に戻りません。

■Load Setup Defaults

すべての設定項目を標準値にします。
各種パスワードなど一部の設定については、標準値に戻りません。

■Save Changes and Power Off

変更を保存してパソコンの電源を切ります。

3 パスワードセキュリティ

パスワードとは、パソコンやWindowsの起動時などに入力する、認証用の文字列のことです。パスワードが設定されている場合、あらかじめ決めた文字列を正しく入力しないと起動できません。
このため、自分にしかわからないパスワードを設定しておけば、ほかの人がパソコンやWindowsを起動できなくなるため、データを見られたり、誤って消されてしまう心配が少なくなります。
一度設定したパスワードは、後から変更したり、削除したりすることができます。

パスワードにはいろいろな種類があります。

- **Windowsパスワード**
  Windowsの起動やスクリーンセーバーからの復帰のときに、パスワードを入力しなければ起動できなくなります。
  使用者として登録しているユーザーが、それぞれ別々に設定できます。
- **ユーザーパスワード（BIOSパスワード）**
  電源を入れるときや休止状態から復帰するときに、パスワードを入力しなければ起動できなくなります。
- **スーパーバイザーパスワード（BIOSパスワード）**
  BIOSセットアップの設定を変更できないようにするなど、いくつかのパソコン本体の設定について制限をかけられます。管理者ユーザーが使用します。
- **HDDパスワード**
  本体のハードディスクドライブを保護します。電源を入れるときにHDDパスワードを入力しなければ起動できなくなります。万が一パスワードを忘れた場合、永久にハードディスクドライブを使用できなくなる、非常に強固なセキュリティです。

メモ

- スーパーバイザーパスワードとユーザーパスワードでは、違う文字列を使用してください。
- パスワードを登録した場合は、忘れたときのために必ずパスワードを控えてください。
- パスワードを入力するときは、コード入力や貼り付け（ペースト）などの操作は行わず、キーボードの文字キーを押して直接入力してください。

お願い

- パスワードを忘れてしまって、パスワードを解除できなくなった場合は、使用している機種を確認後、東芝PCあんしんサポートに連絡してください。
  パスワードの解除を東芝PCあんしんサポートに依頼する場合は有料です。HDDパスワードを忘れてしまった場合は、ハードディスクドライブは永久に使用できなくなり、交換対応となります。この場合も有料です。またどちらの場合も、身分証明書（お客様自身を確認できる物）の提示が必要となります。

パスワードに使用できる文字

ユーザーパスワード、スーパーバイザーパスワード、HDDパスワードに使用できる文字は次のとおりです。
アルファベットの大文字と小文字は区別されません。

使用できる文字	アルファベット（半角）	a b c d e f g h i j k l m n o p q r s t u v w x y z
	数字（半角）	0 1 2 3 4 5 6 7 8 9
	記号の一部（半角）	; : , . （スペース）など
使用できない文字	・全角文字（2バイト文字） ・日本語入力システムの起動が必要な文字 【例】漢字、カタカナ（全角／半角）、ひらがな、日本語入力システムが供給する記号　など ・記号の一部（半角） 【例】¦（バーチカルライン） _（アンダーバー） ¥（エン）など ・ほかのキー（SHIFTキーやCAPSLOCK英数キーなど）と同時に使用しないと入力できない文字	

パスワード登録時に警告メッセージが表示された場合は、登録しようとした文字列に使用できない文字が含まれています。この場合、もう一度別の文字列を入力し直してください。警告が表示されない場合も、上記「使用できない文字」に該当する文字は使用しないでください。また文字列は必ずキーボードから1文字ずつ直接入力してください。

1 ユーザーパスワード

「ユーザーパスワード」は、電源を入れるときや休止状態から復帰するときに、決まった文字を入力しなければ起動できなくする機能です。
ユーザーパスワードの登録は、「東芝パスワードユーティリティ」を使用することをおすすめします。また、登録した文字列は、パスワードファイルを作成して確認することをおすすめします。

1 東芝パスワードユーティリティでの設定

登録

ユーザーパスワードを登録する手順を説明します。HDDパスワードもあわせて登録できます。

1 スタート画面の［デスクトップ］をクリックする

デスクトップ画面が表示されます。

2 ［デスクトップアプリメニュー］アイコン（ ）をダブルクリックする

「東芝デスクトップアプリメニュー」が起動します。

3 ［ユーティリティ］→［ユーザーパスワード ］をクリックする

「東芝パスワードユーティリティ」が起動します。

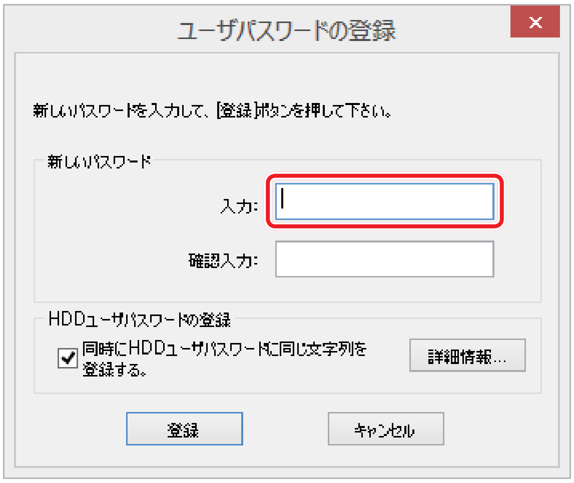
4 ［登録］ボタンをクリックする



［ユーザーパスワードの登録］画面が表示されます。

5 ［入力：］にパスワードを入力する

パスワードは50文字以内で入力します。



参照 パスワードに使用できる文字「本節-パスワードに使用できる文字」

パスワードは1文字ごとに「＊」（アスタリスク）で表示されますので、画面で確認できません。間違えないよう、気をつけて入力してください。
パスワードを入力するときは、コード入力や貼り付け（ペースト）などの操作を行わず、キーボードの文字キーを押して直接入力してください。

6 ［確認入力：］にもう一度パスワードを入力する

7 ［同時にHDDユーザーパスワードに同じ文字列を登録する。］にチェックがついているか確認する

チェックがついている場合、ここで設定したユーザーパスワードがHDDパスワードとしても登録されます。

参照 HDDパスワードについて「本節 4 HDDパスワード」

ユーザーパスワードのみ登録する場合は、チェックをはずしてください。

8 ［登録］ボタンをクリックする

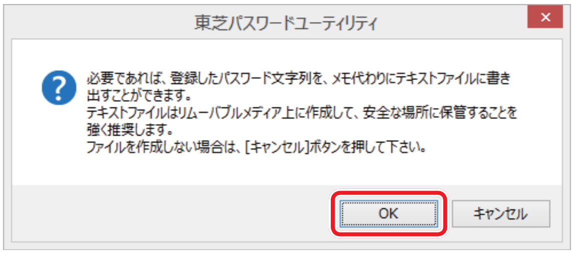
入力エラーのメッセージが表示された場合は、［OK］ボタンをクリックして画面を閉じ、手順 5 から操作をやり直してください。

手順 7 で［同時にHDDユーザーパスワードに同じ文字列を登録する。］にチェックをしていない場合は、手順 10 に進んでください。
チェックをしている場合は、「HDDユーザーパスワードを登録しようとしています。」という画面が表示されます。

9 メッセージの内容を確認し、［登録］ボタンをクリックする

10 パスワードファイルを作成する場合は［OK］ボタンをクリックする

パスワードの文字列をファイルとして保存しておくことを推奨するメッセージが表示されます。
このファイルをパスワードファイルと呼びます。
パスワードファイルを保管しておけば、パスワードを忘れた場合、本機または本機以外の機器でパスワードを確認することができます。

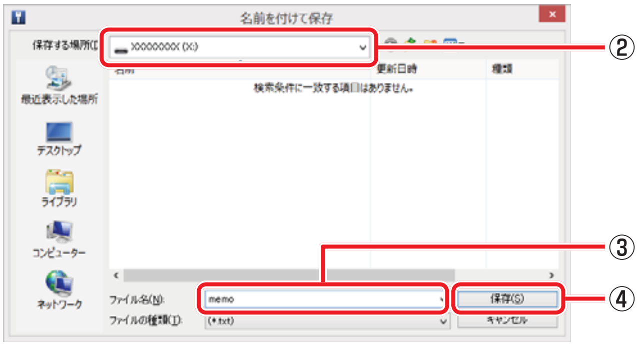


パスワードファイルを作成しない場合は［キャンセル］ボタンをクリックしてください。
［OK］ボタンをクリックすると、［名前を付けて保存］画面が表示されます。

11 パスワードファイルを作成する

パスワードファイルの保存先は、USBフラッシュメモリなどの記録メディアを推奨します。あらかじめ用意しておいてください。

①記録メディアをセットする
②［保存する場所］で保存先を選択する
③［ファイル名］にファイル名を入力する
④［保存］ボタンをクリックする



（表示例）

パスワードファイルが選択した保存先に作成されます。

手順 **7** で［同時にHDDユーザーパスワードに同じ文字列を登録する。］をチェックしている場合、「今すぐコンピューターを再起動しますか？」という画面が表示されるので、［いいえ］ボタンをクリックします。

［東芝パスワードユーティリティ］画面が表示されます。

6章 システム環境の変更

12 必要に応じて、［パスワードの注釈：］を入力する



［パスワードの注釈］にはパスワードのヒントとなる文字列を登録できます。登録すると、パスワードの入力が必要なときに、登録した文字列が表示されます。
使用できる文字列はユーザーパスワードと同様です。

参照 パスワードに使用できる文字について「本節-パスワードに使用できる文字」

パスワード文字列そのものを登録しないでください。

13 ［OK］ボタンをクリックする

ユーザーパスワードが登録されます。
手順 7 で［同時にHDDユーザーパスワードに同じ文字列を登録する。］にチェックをした場合は、必ず電源を切る、または再起動してください。

お願い

- パスワードファイルを保存した記録メディアは、安全な場所に保管してください。

メモ

- パスワードを忘れてしまったときのために、必ずパスワードを控えてください。

削除

ユーザーパスワードを削除するには、次の手順を実行してください。

1 スタート画面の［デスクトップ］をクリックする

デスクトップ画面が表示されます。

2 ［デスクトップアプリメニュー］アイコン（ ）をダブルクリックする

「東芝デスクトップアプリメニュー」が起動します。

3 ［ユーティリティ］→［ユーザーパスワード ］をクリックする

「東芝パスワードユーティリティ」が起動します。
認証画面が表示されるので、パスワードで認証を行ってください。

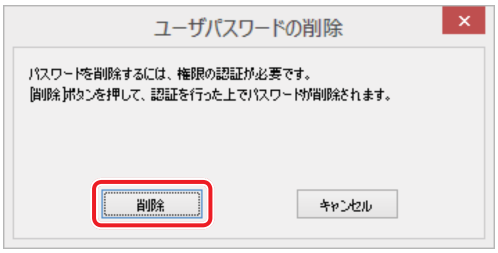
参照 認証について「本節 3 パスワードの入力」

4 ［削除］ボタンをクリックする



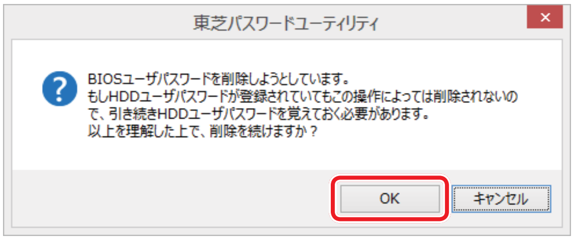
［ユーザーパスワードの削除］画面が表示されます。

5 ［削除］ボタンをクリックする



確認のメッセージが表示されます。

6 メッセージの内容を確認し、［OK］ボタンをクリックする

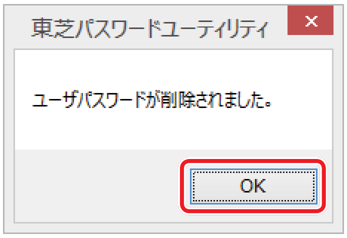


［ユーザーパスワードの削除認証］画面が表示されます。
パスワードで認証を行ってください。

参照 認証について「本節 3 パスワードの入力」

認証は、「東芝パスワードユーティリティ」を起動したときと同じユーザー権限で行ってください。
確認のメッセージが表示されます。

7 メッセージの内容を確認し、［OK］ボタンをクリックする



パスワードが削除されます。

変更

ユーザーパスワードを変更するには、次の手順を実行してください。

1 スタート画面の［デスクトップ］をクリックする

デスクトップ画面が表示されます。

2 ［デスクトップアプリメニュー］アイコン（ ）をダブルクリックする

「東芝デスクトップアプリメニュー」が起動します。

3 ［ユーティリティ］→［ユーザーパスワード ］をクリックする

「東芝パスワードユーティリティ」が起動します。
認証画面が表示されるので、パスワードで認証を行ってください。

参照 認証について「本節 3 パスワードの入力」

4 ［変更］ボタンをクリックする

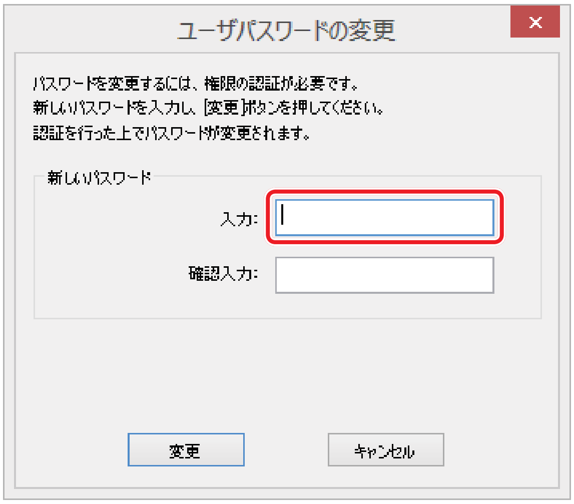


［ユーザーパスワードの変更］画面が表示されます。

5 [入力：]に新しいパスワードを入力する

パスワードは50文字以内で入力します。

参照 パスワードに使用できる文字「本節-パスワードに使用できる文字」



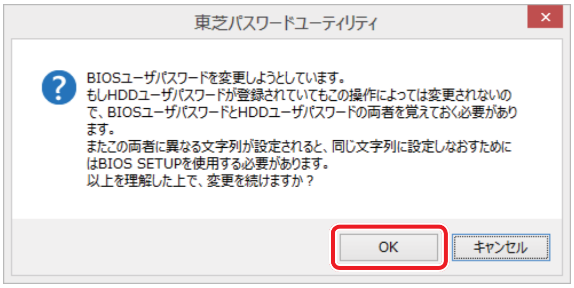
パスワードは1文字ごとに「＊」（アスタリスク）で表示されますので、画面で確認できません。間違えないよう、気をつけて入力してください。
パスワードを入力するときは、コード入力や貼り付け（ペースト）などの操作を行わず、キーボードの文字キーを押して直接入力してください。

6 [確認入力：]にもう一度パスワードを入力する

7 [変更]ボタンをクリックする

確認のメッセージが表示されます。

8 メッセージの内容を確認し、［OK］ボタンをクリックする



［ユーザーパスワードの変更認証］画面が表示されます。
パスワードで認証を行ってください。
ここでは、まだパスワードは変更されていないので、本手順 5 、6 で入力したものではなく、その前に登録しておいたパスワードを入力してください。

参照 認証について「本節 3 パスワードの入力」

認証は、「東芝パスワードユーティリティ」を起動したときと同じユーザー権限で行ってください。

パスワードが変更されます。
変更したパスワードの文字列をファイルとして保存しておくことを推奨するメッセージが表示されます。

9 パスワードファイルを作成する場合は［OK］ボタンをクリックする

パスワードファイルを作成しない場合は［キャンセル］ボタンをクリックしてください。

参照 パスワードファイルの作成方法「本項 1 - 登録」の手順 11

2 BIOSセットアップでの設定

BIOSセットアップでの設定は、「Security」メニューにある「BIOS Password」の「User」で行います。

登録

＊ **この操作は、本マニュアルを参照しながら実行することはできません。**
必ず本項目のページを印刷してから実行してください。

1 データを保存し、SHIFTキーを押しながら［シャットダウン］をクリックして電源を切る

参照 電源の切りかた『取扱説明書』

2 電源スイッチを押し、すぐにF2キーを数回押して、BIOSセットアップを起動する

各種パスワードを設定している場合は、パスワードの入力をうながすメッセージが表示されます。パスワードを入力してENTERキーを押してください。

3 「Security」メニューでカーソルを「BIOS Password」の「User」に合わせ、ENTERキーを押す

パスワードが入力できる状態になります。

4 パスワードを入力する

パスワードは50文字以内で入力します。パスワードに使用できる文字は、「東芝パスワードユーティリティ」の場合と同様です。
パスワードは1文字ごとに「＊」（アスタリスク）で表示されますので、画面で確認できません。間違えないよう、気をつけて入力してください。

5 ENTERキーを押す

確認入力の画面が表示されます。

6 もう一度パスワードを入力する

確認のため、手順 4 と同じパスワードをもう一度入力してください。

7 ENTERキーを押す

パスワードが登録されます。
2回目のパスワードが1回目のパスワードと異なる場合は、エラーメッセージが表示されます。ENTERキーを押し、手順 3 からやり直してください。

BIOSセットアップの終了方法は、『取扱説明書』を確認してください。

削除

＊この操作は、本マニュアルを参照しながら実行することはできません。
必ず本項目のページを印刷してから実行してください。

1 データを保存し、SHIFT キーを押しながら［シャットダウン］をクリックして電源を切る

参照 電源の切りかた『取扱説明書』

2 電源スイッチを押し、すぐに F2 キーを数回押して、BIOS セットアップを起動する

各種パスワードを設定している場合は、パスワードの入力をうながすメッセージが表示されます。パスワードを入力して ENTER キーを押してください。

3 「Security」メニューでカーソルを「BIOS Password」の「User」に合わせ、ENTER キーを押す

パスワードが入力できる状態になります。

4 登録してあるパスワードを入力する

入力すると１文字ごとに「＊」（アスタリスク）が表示されます。

5 ENTER キーを押す

新しいパスワードを入力する画面が表示されます。
入力したパスワードが登録したパスワードと異なる場合は、エラーメッセージが表示されます。ENTER キーを押し、手順 3 からやり直してください。

6 ENTER キーを押す

ここでは何も入力しません。
確認入力の画面が表示されます。

7 ENTER キーを押す

ここでは何も入力しません。
パスワードが削除されます。

購入時の設定では、入力エラーが３回続いた場合は、以後パスワードの項目にカーソルが移動できなくなります。この場合は、パソコン本体の電源を入れ直し、もう一度設定を行ってください。
BIOS セットアップの終了方法は、『取扱説明書』を確認してください。

変更

＊この操作は、本マニュアルを参照しながら実行することはできません。
必ず本項目のページを印刷してから実行してください。

1 データを保存し、SHIFTキーを押しながら［シャットダウン］をクリックして電源を切る

参照 電源の切りかた『取扱説明書』

2 電源スイッチを押し、すぐにF2キーを数回押して、BIOSセットアップを起動する

各種パスワードを設定している場合は、パスワードの入力をうながすメッセージが表示されます。パスワードを入力してENTERキーを押してください。

3 「Security」メニューでカーソルを「BIOS Password」の「User」に合わせ、ENTERキーを押す

パスワードが入力できる状態になります。

4 登録してあるパスワードを入力する

入力すると1文字ごとに「＊」（アスタリスク）が表示されます。

5 ENTERキーを押す

新しいパスワードを入力する画面が表示されます。
入力したパスワードが登録したパスワードと異なる場合は、エラーメッセージが表示されます。ENTERキーを押し、手順 3 からやり直してください。

6 新しいパスワードを入力し、ENTERキーを押す

パスワードは1文字ごとに「＊」（アスタリスク）で表示されますので、画面で確認できません。間違えないよう、気をつけて入力してください。
確認入力の画面が表示されます。

7 手順 6 で入力したパスワードをもう一度入力し、ENTERキーを押す

パスワードが変更されます。
2回目のパスワードが1回目のパスワードと異なる場合は、エラーメッセージが表示されます。ENTERキーを押し、手順 3 からやり直してください。

購入時の設定では、入力エラーが3回続いた場合は、以後パスワードの項目にカーソルが移動できなくなります。この場合は、パソコン本体の電源を入れ直し、もう一度設定を行ってください。
BIOSセットアップの終了方法は、『取扱説明書』を確認してください。

2 スーパーバイザーパスワード

「スーパーバイザーパスワード」は、BIOSセットアップの設定を変更できないようにするなど、いくつかのパソコン本体の設定について制限をかける機能です。
スーパーバイザーパスワード設定用の「東芝パスワードユーティリティ」で、Windows上からスーパーバイザーパスワードの設定や設定の変更ができます。
BIOSセットアップでも登録することができます。

メモ

- 先にユーザーパスワードが登録されている場合は、スーパーバイザーパスワードの登録はできません。
  スーパーバイザーパスワードとユーザーパスワードを両方登録する場合は、一度ユーザーパスワードを削除し、スーパーバイザーパスワードを登録してからもう一度ユーザーパスワードを登録してください。
- スーパーバイザーパスワードを登録すると、ユーザーポリシーを設定できます。ユーザーポリシーとは、複数のユーザーでパソコンを使用している場合の、各ユーザーの権限を設定する機能です。
- スーパーバイザーパスワードとユーザーパスワードでは、違うパスワードを使用してください。
- パスワードを登録した場合は、忘れたときのために必ずパスワードを控えておいてください。

1 東芝パスワードユーティリティでの設定

起動方法

1 スタート画面の［デスクトップ］をクリックする

デスクトップ画面が表示されます。

2 ［デスクトップアプリメニュー］アイコン（ ）をダブルクリックする

「東芝デスクトップアプリメニュー」が起動します。

3 ［ユーティリティ］→［スーパーバイザーパスワード ］をクリックする

「東芝パスワードユーティリティ」が起動します。
パスワードを登録している場合は、スーパーバイザーパスワードで認証を行ってください。

参照 認証について「本節 3 - 東芝パスワードユーティリティを起動したとき」

4 ［スーパーバイザーパスワード］タブで設定する

操作方法

■登録、削除、変更

スーパーバイザーパスワードの登録、削除、変更などの設定方法は、「東芝パスワードユーティリティ」でのユーザーパスワードの設定方法と同様です。
ユーザーパスワードの設定を確認してください。

参照 ユーザーパスワード「本節 1 - 1 東芝パスワードユーティリティでの設定」

なお、スーパーバイザーパスワードを削除すると、ユーザーパスワードも同時に削除されます。

■一般ユーザーの操作を制限する

スーパーバイザーパスワードを登録すると、スーパーバイザーパスワードを知らないユーザーは「東芝システムセッティング」の設定を変更できないようにする、などいくつかの制限を加えることができます。
スーパーバイザーパスワードを登録した状態で、次の手順を実行してください。

1. **スーパーバイザーパスワード設定用の「東芝パスワードユーティリティ」を起動する**

   認証画面が表示されるので、スーパーバイザーパスワードで認証を行ってください。

   参照 認証について「本節 3 - 東芝パスワードユーティリティを起動したとき」

2. **[スーパーバイザーパスワード] タブで [ユーザーポリシー] の [変更] ボタンをクリックする**

3. **必要に応じて項目をチェックする**

4. **[設定] ボタンをクリックする**

5. **表示されたメッセージの内容を確認し、[OK] ボタンをクリックする**

   認証画面が表示されます。
   スーパーバイザーパスワードで認証を行ってください。

   参照 認証について「本節 3 - 東芝パスワードユーティリティを起動したとき」

6. **表示されたメッセージの内容を確認し、[OK] ボタンをクリックする**

2 BIOSセットアップでの設定

＊この操作は、本マニュアルを参照しながら実行することはできません。
必ず本項目のページを印刷してから実行してください。

BIOSセットアップでも、スーパーバイザーパスワードを登録することができます。

操作方法

■登録

BIOSセットアップの「Security」メニューで、「BIOS Password」の「Supervisor」を選択して登録できます。
登録方法は、BIOSセットアップでのユーザーパスワードの登録方法と同様です。
ユーザーパスワードの登録を確認してください。

参照 「本節 1 - 2 - 登録」

■削除、変更

BIOSセットアップで、いったんスーパーバイザーパスワードを登録してからBIOSセットアップを終了してしまうと、BIOSセットアップではスーパーバイザーパスワードの削除と変更ができません。
その場合は、「東芝パスワードユーティリティ」でスーパーバイザーパスワードの削除や変更を行ってください。

参照 「本項 1 東芝パスワードユーティリティでの設定」

また、BIOSセットアップで、いったんスーパーバイザーパスワードを登録してしまうと、次の操作も制限され、設定ができなくなります。

- BIOSセットアップ画面での設定変更
- 東芝システムセッティングでの設定変更
- F12キーを使って起動ドライブを選択する

その場合は、「東芝パスワードユーティリティ」でスーパーバイザーパスワードの削除をしてから、操作を行ってください。

3 パスワードの入力

お願い

- パスワード入力画面で自動的に電源が切れると、LAN、USB、スリープ解除タイマーからの許可によるWake-upができませんので、電源を入れ直してください。

電源を入れたとき／休止状態から復帰するとき

パスワードを登録している場合、パソコンまたはBIOSセットアップ起動時にパスワードの入力をうながすメッセージが表示されます。
この場合は、次の手順を行ってパソコンまたはBIOSセットアップを起動します。

■パスワードを入力する

1 登録したとおりにパスワードを入力し、ENTERキーを押す

Arrow Mode LED、Numeric Mode LEDは、パスワードを登録したときと同じ状態にしてください。
パスワードの入力ミスを3回繰り返した場合は、自動的に電源が切れます。
パスワードを入力せずに約1分経過した場合も、自動的に電源が切れます。
その場合は電源を入れ直してください。

■指紋認証を使う

＊指紋センサー搭載モデルのみ

1 指紋センサーに指をのせ、手前側にすべらせる

参照 指紋認証「本章 4 指紋認証を使う」

東芝パスワードユーティリティを起動したとき

ユーザーパスワードを登録している場合、「東芝パスワードユーティリティ」を起動すると、認証を求める画面が表示されます。次の方法で認証を行います。

■パスワードを入力する

1 認証を求める画面が表示されたら、パスワードを入力する

2 ［確認］ボタンをクリックする

1 パスワードを忘れてしまった場合

ユーザーパスワード／スーパーバイザーパスワードを忘れてしまった場合は、次の方法で確認または解除してください。

- **パスワードファイルを確認する**
  電源を入れるときにパスワードが必要になった場合は、本機以外の機器でパスワードファイルを確認してください。

上記の方法でパスワードの確認ができなかった場合は、東芝PCあんしんサポートに相談してください。パスワードの解除を東芝PCあんしんサポートに依頼する場合は、有料です。またそのとき、身分証明書（お客様自身を確認できる物）の提示が必要となります。

4 HDDパスワード

HDDパスワードは、ハードディスクを保護するセキュリティ機能です。
HDDパスワードの登録、削除、変更などの設定は、BIOSセットアップで行います。

1 注意事項

登録したパスワードの内容は、メモをとるなどして、安全な場所に保管しておくことを強くおすすめします。

お願い

- 万が一、登録したパスワードを忘れた場合、修理・保守対応ではパスワードを解除できません。
  この場合、ハードディスクドライブは永久に使用できなくなり、ハードディスクドライブの交換対応となります。この場合、有料での交換となります。
  ハードディスクドライブが使用できなくなったことによる、お客様またはその他の個人や組織に対して生じた、いかなる損失に対しても、当社はいっさい責任を負いません。
  HDDパスワードの設定については、この点を十分にご注意いただいた上でご使用ください。

2 HDDパスワードの種類

HDDパスワードは、HDDユーザーパスワードとHDDマスターパスワードの2つを設定することが可能です。

■HDDユーザーパスワード

各パソコンの使用者自身が設定することを想定したパスワードです。
HDDマスターパスワードを削除すると、同時にHDDユーザーパスワードも削除されます。

■HDDマスターパスワード

管理者などがパソコン本体の環境設定を管理／保守するために設定することを想定したパスワードです。
HDDマスターパスワードはHDDユーザーパスワードの代わりに使えます。HDDユーザーパスワードを忘れた場合でも、HDDマスターパスワードを入力してハードディスクドライブにアクセスできます。HDDマスターパスワードを使用してHDDユーザーパスワードを変更することもできます。
なお、HDDマスターパスワードのみを登録することはできません。
組織などでHDDマスターパスワードを用いた運用を検討した場合、各パソコンのユーザーに対してパソコン本体を配付する前に、あらかじめ管理者がBIOSセットアップでHDDマスターパスワードと仮のHDDユーザーパスワードを設定しておく必要があります。
HDDユーザーパスワードとHDDマスターパスワードの登録、削除方法は同じです。以降は、HDDユーザーパスワードの設定を例に説明しています。

3 HDDパスワードの登録

＊この操作は、本マニュアルを参照しながら実行することはできません。
必ず本項目のページを印刷してから実行してください。

1 データを保存し、SHIFTキーを押しながら［シャットダウン］をクリックして電源を切る

参照 電源の切りかた『取扱説明書』

2 電源スイッチを押し、すぐにF2キーを数回押して、BIOSセットアップを起動する

各種パスワードを設定している場合は、パスワードの入力をうながすメッセージが表示されます。パスワードを入力してENTERキーを押してください。

3 「Security」メニューでカーソルを「HDD/SSD Password」の「User」に合わせ、ENTERキーを押す

HDDマスターパスワードの場合は、「Master」にカーソルを合わせてENTERキーを押してください。
パスワードが入力できる状態になります。

4 パスワードを入力する

パスワードは50文字以内で入力します。

参照 パスワードに使用できる文字「本節 - パスワードに使用できる文字」

パスワードは1文字ごとに「＊」（アスタリスク）で表示されますので、画面で確認できません。間違えないよう、気をつけて入力してください。

5 ENTERキーを押す

確認入力の画面が表示されます。

6 もう一度パスワードを入力する

7 ENTERキーを押す

パスワードが登録されます。
2回目のパスワードが1回目のパスワードと異なる場合は、エラーメッセージが表示されます。ENTERキーを押し、手順 3 からやり直してください。

HDDマスターパスワードを登録する場合は、BIOSセットアップの「HDD/SSD Password」の「Mode」で「Master＋User」を選択します。表示された「Master」にHDDマスターパスワードを設定し、続けてHDDユーザーパスワードの設定を行います。
BIOSセットアップの終了方法は、『取扱説明書』を確認してください。

4 HDDパスワードの削除

＊この操作は、本マニュアルを参照しながら実行することはできません。
必ず本項目のページを印刷してから実行してください。

1 データを保存し、SHIFTキーを押しながら［シャットダウン］をクリックして電源を切る

参照 電源の切りかた『取扱説明書』

2 電源スイッチを押し、すぐにF2キーを数回押して、BIOSセットアップを起動する

各種パスワードを設定している場合は、パスワードの入力をうながすメッセージが表示されます。パスワードを入力してENTERキーを押してください。

3 「Security」メニューでカーソルを「HDD/SSD Password」の「User」に合わせ、ENTERキーを押す

HDDマスターパスワードの場合は、「Master」にカーソルを合わせてENTERキーを押してください。
パスワードが入力できる状態になります。

4 登録してあるパスワードを入力する

入力すると1文字ごとに「＊」（アスタリスク）が表示されます。

5 ENTERキーを押す

新しいパスワードを入力する画面が表示されます。
入力したパスワードが登録したパスワードと異なる場合は、エラーメッセージが表示されます。ENTERキーを押し、手順 3 からやり直してください。

6 ENTERキーを押す

ここでは何も入力しません。
確認入力の画面が表示されます。

7 ENTERキーを押す

ここでは何も入力しません。
パスワードが削除されます。

HDDマスターパスワードを削除する場合は、HDDマスターパスワードの削除を行うと、同時にHDDユーザーパスワードも削除されます。
HDDユーザーパスワードのみを削除することはできません。
BIOSセットアップの終了方法は、『取扱説明書』を確認してください。

5 HDDパスワードの変更

＊この操作は、本マニュアルを参照しながら実行することはできません。
必ず本項目のページを印刷してから実行してください。

1 データを保存し、SHIFTキーを押しながら［シャットダウン］をクリックして電源を切る

参照 電源の切りかた『取扱説明書』

2 電源スイッチを押し、すぐにF2キーを数回押して、BIOSセットアップを起動する

各種パスワードを設定している場合は、パスワードの入力をうながすメッセージが表示されます。パスワードを入力してENTERキーを押してください。

3 「Security」メニューでカーソルを「HDD/SSD Password」の「User」に合わせ、ENTERキーを押す

HDDマスターパスワードの場合は、「Master」にカーソルを合わせてENTERキーを押してください。
パスワードが入力できる状態になります。

4 登録してあるパスワードを入力する

入力すると1文字ごとに「＊」（アスタリスク）が表示されます。

5 ENTERキーを押す

新しいパスワードを入力する画面が表示されます。
入力したパスワードが登録したパスワードと異なる場合は、エラーメッセージが表示されます。ENTERキーを押し、手順 3 からやり直してください。

6 新しいパスワードを入力し、ENTERキーを押す

パスワードは1文字ごとに「＊」（アスタリスク）で表示されますので、画面で確認できません。間違えないよう、気をつけて入力してください。
確認入力の画面が表示されます。

7 もう一度新しいパスワードを入力し、ENTERキーを押す

パスワードが変更されます。
2回目のパスワードが1回目のパスワードと異なる場合は、エラーメッセージが表示されます。ENTERキーを押し、手順 3 からやり直してください。

BIOSセットアップの終了方法は、『取扱説明書』を確認してください。

6 HDDパスワードの入力

HDDパスワードが設定されている場合、電源を入れるとHDDパスワードの入力をうながすメッセージが表示されます。
この場合は、次の方法でパソコン本体が起動します。

お願い

- パスワード入力画面で自動的に電源が切れると、LAN、USB、スリープ解除タイマーからの許可によるWake-upができませんので、電源を入れ直してください。

1 登録したとおりにHDDパスワードを入力し、ENTERキーを押す

Arrow Mode LED、Numeric Mode LEDは、パスワードを登録したときと同じ状態にしてください。
HDDパスワードの入力ミスを３回繰り返した場合は、自動的に電源が切れます。
パスワードを入力せずに約１分経過した場合も、自動的に電源が切れます。
その場合は、電源を入れ直してください。

4 指紋認証を使う

＊指紋センサー搭載モデルのみ

「指紋センサー」が搭載されているモデルの場合、「指紋認証ユーティリティ（TOSHIBA Fingerprint Utility）」が用意されています。ここでは、指紋を登録し、指紋認証を行う方法について説明します。
指紋認証の操作にあたっては、次の項目に書かれている注意事項を確認してください。

お願い 指紋認証の操作にあたって

- あらかじめ、次の説明を確認してください。

参照 「付録 1 - 13 指紋認証について」

1 指紋認証とは

指紋認証とは、手の指紋の情報をパソコンに登録することにより、パスワードなどの入力に代えて本人であることを証明する機能です。指紋認証を使用するには、使用するユーザーにWindowsパスワードを設定したうえで、「指紋認証ユーティリティ」で指紋の登録が必要です。

参照 指紋の登録「本節 3 指紋を登録する」

指紋を登録すると、キーボードからパスワードを入力する代わりに、登録した指を指紋センサー上にすべらせるだけで、Windowsサインインを実行できます。

参照 認証方法「本節 4 指紋認証を行う」

また、次のようなときにも指紋認証を使用することができます。
指紋を登録したうえで、それぞれの設定が必要です。

- パソコン本体起動時のユーザーパスワードの入力
- スクリーンセーバーの解除
- スリープからの復帰

参照 指紋認証のいろいろな使いかた「本節 4 - 2 その他の使いかた」

- インターネットのホームページで、パスワードの入力
- ファイルやフォルダーの暗号化

詳しくは、「指紋認証ユーティリティ」のヘルプを参照してください。
ヘルプの起動方法は、本節の最後で説明しています。

2 Windowsパスワードを設定する

「指紋認証ユーティリティ」の設定や登録をするためには、「Windowsパスワード」を設定する必要があります。
Windowsパスワードを設定していない場合は、設定してください。

参照 Windowsパスワードの設定方法『Windows ヘルプとサポート』

すでにWindowsパスワードを設定してある場合は、「本節 3 指紋を登録する」に進んでください。

3 指紋を登録する

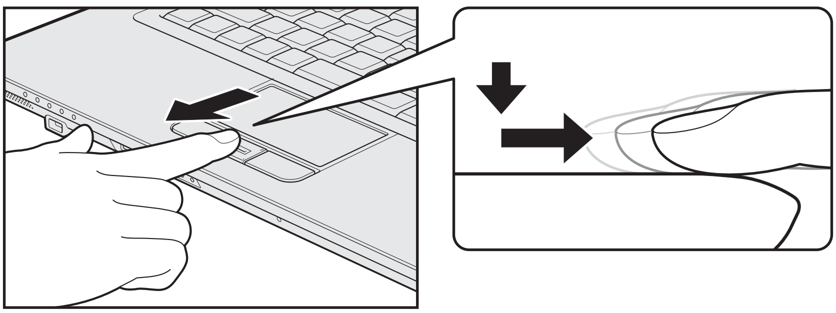
「指紋認証ユーティリティ」で、指紋を登録します。次の手順を実行してください。指をけがしたときなどのために、2本以上の指を登録してください。
指紋センサーには、最大20パターンの指紋を登録することができます。複数のユーザーでパソコンを使用している場合は、全ユーザー合わせて20パターンまで登録できます。たとえば、1人で10パターンの指紋を登録した場合、ほかのユーザーが登録できるのは残り10パターンです。

指紋センサーに指紋をうまく読み取らせるには

1 指紋センサーに対して指をまっすぐ出し、指を寝かせた状態で、第1関節を軽く指紋センサー中央の上におく

2 第1関節から先端にかけて、指のはら部分が指紋センサーに触れるように手前に水平に引く

指先だけ指紋センサーにのせると、指紋が認識されない場合があります。第1関節から先端にかけて指のはらの部分が指紋センサーに触れるように、ゆっくりとすべらせてください。



1 登録方法

「指紋認証ユーティリティ」でユーザー登録を行います。ユーザー登録では、Windowsのユーザーアカウントとそのパスワードを登録したあと、そのユーザーアカウントでサインインし、認証で使用する指（指紋）を登録します。

1 指紋を登録するユーザーアカウントでサインインする

2 スタート画面の［デスクトップ］をクリックする

デスクトップ画面が表示されます。

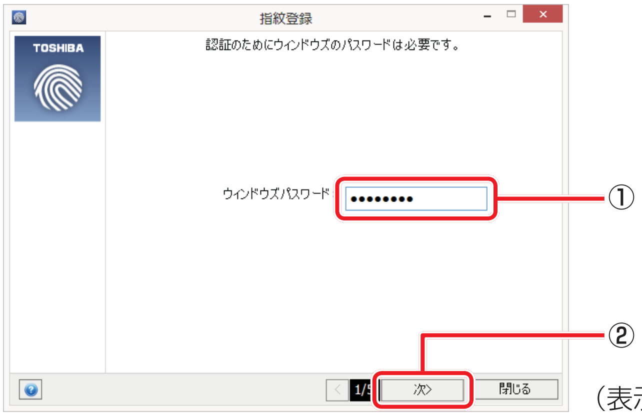
3 ［デスクトップアプリメニュー］アイコン（ ）をダブルクリックする

「東芝デスクトップアプリメニュー」が起動します。

4 ［ユーティリティ］→［Fingerprint Utility ］をクリックする

［指紋登録］画面が表示されます。

5 ［ウィンドウズパスワード］にWindowsパスワードを入力し①、［次］ボタンをクリックする②



（表示例）

6 指紋を登録する指の上の○印をクリックし①、［次］ボタンをクリックする②

体勢によっては親指での認証は難しいので、親指以外の指を登録することおすすめします。



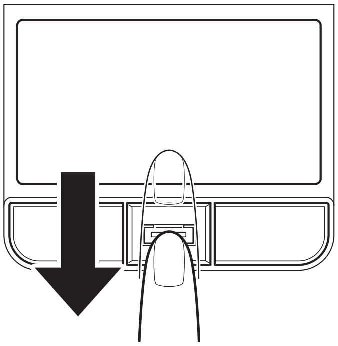
（表示例）

7 画面に表示される説明をよく読んで、［次］ボタンをクリックする



8 指紋登録の練習のために、指紋センサーに指を軽く乗せ、手前側にすべらせる

第１関節を指紋センサーの上に置き、手前に引くようにすべらせてください。
このとき、タッチパッドに触れないように気をつけてください。



同じ指を３回認識させてください。指紋センサーに指をすべらせると、画面の３つのボックスに、１回ごとの指紋データの読み取り結果が表示されます。
読み取りに成功すると、ボックスの下に「良いイメージ」と表示されます。



３回成功するまで繰り返し認識させてください。

＊［スキップ］ボタンをクリックすると、指紋登録の練習をスキップすることができます。

6章 システム環境の変更

9 3回成功したら、［次］ボタンをクリックする



10 指紋登録のために、指紋センサーに指を軽く乗せ、手前側にすべらせる

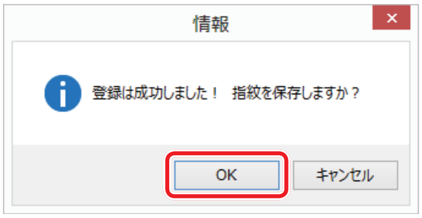
手順 8 で練習した要領で、第１関節を指紋センサーの上に置き、手前に引くようにすべらせてください。
ここで指紋をできるだけ精細に読み取らせることで、認証率を向上させることができます。
同じ指を３回読み取らせます。読み取りに成功すると、ボックスの下に「良いイメージ」と表示されます。



指紋の読み取り操作を３回繰り返してください。成功すると、手順 11 の画面が表示されます。
認証に必要な読み取りが３回でできなかった場合、４回以上の読み取り要求が表示されることがあります。最終的に、読み取りが失敗と判断された場合には、手順 6 から再度行ってください。

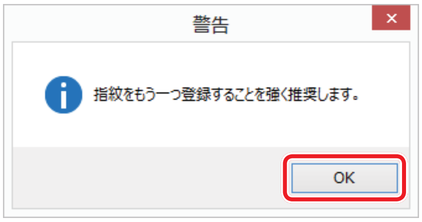
6章 システム環境の変更

11 指紋データを保存するために［OK］ボタンをクリックする



12 メッセージを確認し、［OK］ボタンをクリックする

指をけがしたときなどのために、1ユーザーあたり、2本以上の指紋登録をおすすめします。

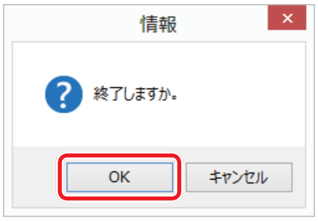


13 違う指で手順 6 → 7 → 8 → 9 → 10 → 11 を繰り返す

14 指紋登録を終了する場合は、［閉じる］ボタンをクリックする



15 メッセージを確認し、［OK］ボタンをクリックする



16 ［閉じる］ボタンをクリックする



17 メッセージを確認し、［OK］ボタンをクリックする

4 指紋認証を行う

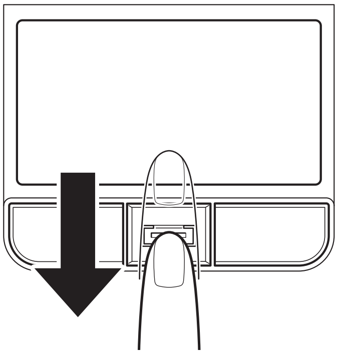
指紋を登録すると、指紋センサーに指をすべらせることで、Windowsへサインインできます。
また、パソコンを複数のユーザーで使用している場合、ユーザーの選択も省略できます。

1 認証方法

1 パソコン本体の電源を入れる

Windowsにサインインする画面が表示されます。

2 指紋登録した指の第1関節を指紋センサーの上にのせ、手前側にすべらせる



指紋が認証されるとWindowsにサインインします。

2 その他の使いかた

パソコンの起動や復帰時に指紋で認証させる

指紋を登録すると、次のようなときにも指紋認証を使用することができます。
ここでは、その設定方法を説明します。

■パソコンの起動時（起動認証）

パソコンの起動時に、ユーザーパスワードの代わりに、指紋認証を使用することができます。

①ユーザーパスワードを登録する

参照 ユーザーパスワードの登録方法「本章 3 パスワードセキュリティ」

②「指紋認証ユーティリティ」の［設定］で、［起動認証］を設定する
［設定］メニューが無効な場合は、［管理者として実行］ボタンをクリックして管理者権限に昇格してください。

参照 詳細について『指紋認証ユーティリティのヘルプ』

ユーザーパスワードの指紋認証に続けて５回失敗すると、指紋認証ができなくなります。その場合は、キーボードからパスワードを入力してパソコンを起動してください。また、指紋認証画面が表示されているときに、キーボードからパスワード入力をしたい場合は BACKSPACE キーを押してください。キーボードからのパスワード入力が可能になります。
モデルによっては、設定後２回目以降の起動から、起動認証が動作します。

お願い　指紋認証の操作にあたって

- あらかじめ、次の説明を確認してください。

参照「付録 1 - 13 - 指紋認証のパスワード入力について」

■スクリーンセーバーの解除

次のように設定すると、スクリーンセーバーを解除するときにWindowsにサインインする画面が表示されます。指紋を登録していると、Windowsパスワードの代わりに、指紋認証を使用することができます。

①スタート画面の［デスクトップ］をクリックする
デスクトップ画面が表示されます。
②［デスクトップアプリメニュー］アイコン（）をダブルクリックする
「東芝デスクトップアプリメニュー」が起動します。
③［コントロールパネル］をクリックする
④［ デスクトップのカスタマイズ］→［ スクリーンセーバーの変更］をクリックする
⑤［再開時にログオン画面に戻る］をチェックする
⑥［OK］ボタンをクリックする

6章 システム環境の変更

■スリープからの復帰

次のように設定すると、スリープから復帰するときにWindowsにサインインする画面が表示されます。指紋を登録していると、Windowsパスワードの代わりに、指紋認証を使用することができます。

①スタート画面の［デスクトップ］をクリックする
　デスクトップ画面が表示されます。
②［デスクトップアプリメニュー］アイコン（ ）をダブルクリックする
　「東芝デスクトップアプリメニュー」が起動します。
③［コントロールパネル］をクリックする
④［ システムとセキュリティ］→［ 電源オプション］をクリックする
⑤選択されているプランの［プラン設定の変更］をクリックする
⑥［詳細な電源設定の変更］をクリックする
⑦［バランス］＊1の［復帰時のパスワードを必要とする］で、［バッテリ駆動］および［電源に接続］を［はい］に設定する
⑧［OK］ボタンをクリックする

＊1 選択されている電源プランによって、［バランス］、［eco］、［省電力］、［高パフォーマンス］のいずれかが表示されます。

指紋データのバックアップをとる

登録してある指紋データをバックアップすることができます。バックアップしておくと、リカバリーしたときなどに指紋を再登録しなくてもすみます。また、別のパソコンで指紋認証を使用したいときに、指紋データを登録しなくてもすみます。

参照 詳細について『指紋認証ユーティリティのヘルプ』

パソコンを捨てるまたは人に譲る場合

パソコンを捨てたり人に譲ったりする前に、登録した指紋データを消去することをおすすめします。
指紋の消去は、「指紋認証ユーティリティ」の［指紋の管理］で行ってください。

ヘルプの起動方法

1 **スタート画面の［デスクトップ］をクリックする**

デスクトップ画面が表示されます。

2 **［デスクトップアプリメニュー］アイコン（ ）をダブルクリックする**

「東芝デスクトップアプリメニュー」が起動します。

3 **［ユーティリティ］→［Fingerprint Utility ］をクリックする**

指紋認証画面が表示された場合は、指紋認証を行ってください。

参照 詳細について「本項 1 認証方法」の手順 2

4 **画面左下の をクリックする**



6章 システム環境の変更

5 TPMを使う

＊TPM搭載モデルのみ

TPM搭載モデルには、TPM（Trusted Platform Module）が用意されています。

1 TPMとは

TPMは、TCG（Trusted Computing Group）が策定した仕様に準拠したセキュリティコントローラーチップです。
一般的に、電子データの保護は暗号処理方式（暗号アルゴリズム）によるものなので、ハードディスクや、SSD、メモリなどに保存されている暗号鍵が、暗号解読の攻撃対象になる可能性があります。
TPMではこれらの暗号鍵を、メイン基板に組み込まれたセキュリティチップに保存するので、より安全にデータが保護されます。
また、TPMは公開されている標準化された仕様のため、それに対応したセキュリティソリューションを使用することにより、より強固なPC環境を構築できます。
本製品では、TPMの設定は、BIOSセットアップと「Infineon TPM Software Professional Package」で行います。
TPMを使用するための設定や使用方法は、『TPMのヘルプ』を参照してください。

お願い TPMの操作にあたって

- あらかじめ、次の説明を確認してください。

参照 「付録 1 - 14 TPMについて」

2 TPMを有効にする方法

＊この操作は、本マニュアルを参照しながら実行することはできません。
必ず本項目のページを印刷してから実行してください。

TPMを使用するには、まずBIOSセットアップでTPMを有効に設定する必要があります。

1 データを保存し、SHIFTキーを押しながら［シャットダウン］をクリックして電源を切る

参照 電源の切りかた『取扱説明書』

2 電源スイッチを押し、すぐにF2キーを数回押して、BIOSセットアップを起動する

各種パスワードを設定している場合は、パスワードの入力をうながすメッセージが表示されます。パスワードを入力してENTERキーを押してください。

3 TPMをシステム上で確認できるように設定する

「Security」メニューの「Hide TPM」が「No」に設定されている場合は、手順 **4** に進んでください。

「Security」メニューの「Hide TPM」が「Yes」に設定されている場合、TPMをシステム上で確認することはできません。
次の操作を行い、「Hide TPM」を「No」に変更してください。

① カーソルを「Hide TPM」に合わせ、ENTER キーを押す

② サブメニューでカーソルを「No」に合わせ、ENTER キーを押す

メモ

- 「Hide TPM」は、「TPM」を「Disabled」に設定し、再起動してから、設定を変更できます。

4 TPMを有効にする

①「Security」メニューでカーソルを「TPM」に合わせ、ENTER キーを押す

② サブメニューでカーソルを「Enabled」に合わせ、ENTER キーを押す

5 F10 キーを押す

確認のメッセージが表示されます。

6 Y キーを押す

設定内容が有効になり、BIOSセットアップが終了します。
パソコンが再起動します。

お願い

- パソコンを修理や保守に出した場合、TPMは無効になっている可能性があります。BIOSセットアップの「Security」メニューの「TPM」が「Enabled」と設定されているか確認してください。「Enabled」に設定されていない場合は、本項の手順でもう一度設定してください。
- BIOSセットアップでのTPMに関する設定を、管理者の権限を持たないユーザーが変更できないようにすることができます。TPMの設定を守るために、管理者の権限を持たないユーザーに操作制限を加えることをおすすめします。この設定は、管理者権限を持つユーザー(スーパーバイザー)が「東芝パスワードユーティリティ」を使って行います。

参照 「本節- 3 東芝パスワードユーティリティでTPMの設定をする」

3 東芝パスワードユーティリティでTPMの設定をする

スーパーバイザーパスワード設定用の「東芝パスワードユーティリティ」では、管理者権限を持たないユーザーがBIOSセットアップでTPMに関する設定項目（「Security」メニューの「TPM」）を変更できないように設定できます。
この設定は、管理者権限を持つユーザー（スーパーバイザー）が行います。

1 スタート画面の［デスクトップ］をクリックする

デスクトップ画面が表示されます。

2 ［デスクトップアプリメニュー］アイコン（ ）をダブルクリックする

「東芝デスクトップアプリメニュー」が起動します。

3 ［ユーティリティ］→［スーパーバイザーパスワード ］をクリックする

「東芝パスワードユーティリティ」が起動します。
パスワードを登録している場合は、スーパーバイザーパスワードで認証を行ってください。

参照 認証について「本章 3 - 3 - 東芝パスワードユーティリティを起動したとき」

4 ［スーパーバイザーパスワード］タブをクリックする

5 スーパーバイザーパスワードを登録していない場合は、［登録］ボタンをクリックしてスーパーバイザーパスワードを登録する

参照 登録方法について「本章 3 - 2 スーパーバイザーパスワード」

すでにスーパーバイザーパスワードを登録している場合は手順 6 に進んでください。

6 ［ユーザーポリシー］の［変更］ボタンをクリックする

［ユーザーポリシーの設定］画面が表示されます。

7 管理者権限を持たないユーザーに操作させたくない項目のチェックをはずす

8 ［設定］ボタンをクリックする

9 表示されたメッセージの内容を確認し、［OK］ボタンをクリックする

［ユーザーポリシーの設定認証］画面が表示されます。
スーパーバイザーパスワードで認証を行ってください。

参照 認証について「本章 3 - 3 - 東芝パスワードユーティリティを起動したとき」

10 表示されたメッセージの内容を確認し、［OK］ボタンをクリックする

4 TPMのインストール方法

TPMを有効にしたあと、「Infineon TPM Software Professional Package」をインストールします。

1 スタート画面のタイルのない部分で、右クリックする

2 ［すべてのアプリ］をクリックする

3 ［ アプリケーションの再インストール］をクリックする

4 ［セットアップ画面へ］をクリックする

5 ［アプリケーション］タブをクリックする

6 画面左側の［Infineon TPM Software Professional Package］をクリックし、［「Infineon TPM Software Professional Package」のセットアップ］をクリックする

7 画面の指示に従ってインストールする

「XXXX（ファイル名）を実行または保存しますか？」というメッセージが表示された場合は、［実行］ボタンをクリックしてください。

5 Security Platformの初期化

Security Platformの機能を有効にするためには、初期化を実行する必要があります。
「Security Platform クイック初期化ウィザード」を使うと、簡単にSecurity Platformの初期化ができます。
詳細な設定をしながら初期化したい場合は、「Security Platform 初期化ウィザード」と「Security Platform ユーザー初期化ウィザード」を実行してください。

参照 初期化ウィザードの詳細『TPMのヘルプ』

TPMの設定は、Windowsの管理者権限を持つユーザーでサインインして行ってください。

6 ヘルプの起動方法

1 スタート画面のタイルのない部分で、右クリックする

2 ［すべてのアプリ］をクリックする

3 ［Infineon Security Platform ソリューション］の［ Security Platform ヘルプ］をクリックする

デスクトップ画面の通知領域の［Security Platform］アイコン（ ）を右クリックし、表示されるメニューから［ヘルプ］をクリックして起動することもできます。

＊ 通知領域にアイコンが表示されていない場合は、 をクリックしてください。

7 パソコンを捨てるとき／人に譲るとき

パソコンを廃棄する場合、秘密の漏えいを防ぐために、次の2つの処理を必ず実行してください。パソコンの所有者が変わる場合も同様です。

❑「Infineon TPM Software Professional Package」をアンインストールし、TPMのバックアップを消去する または ハードディスクドライブ上の全データを消去する

詳しくは、『TPMのヘルプ』を起動して、画面の［目次］から［よく聞かれる質問（FAQ）とトラブルシューティング］→［よく聞かれる質問（FAQ）］をクリックし、「アンインストールした後はどんな情報がシステムに残りますか。」を参照してください。

参照 『TPMのヘルプ』

参照 ハードディスクドライブ上の全データを消去する方法『セットアップガイド』

❑BIOSセットアップでTPMの所有者登録とユーザー登録を削除する

＊ この操作は、本マニュアルを参照しながら実行することはできません。
必ず本項目のページを印刷してから実行してください。

1 データを保存し、SHIFTキーを押しながら［シャットダウン］をクリックして電源を切る

参照 電源の切りかた『取扱説明書』

2 電源スイッチを押し、すぐにF2キーを数回押して、BIOSセットアップを起動する

各種パスワードを設定している場合は、パスワードの入力をうながすメッセージが表示されます。パスワードを入力してENTERキーを押してください。

3 「Security」メニューでカーソルを「Clear TPM Owner」に合わせ、ENTERキーを押す

「TPM」と「Clear TPM Owner」がグレー表示に変わります（「TPM」の表示は「Enabled」のままです）。

メモ

- 「Clear TPM Owner」は、「TPM」を「Enabled」に設定し、再起動してから、設定できます。

4 F10キーを押す

確認のメッセージが表示されます。

5 Yキーを押す

設定内容が有効になり、BIOSセットアップが終了します。
パソコンが再起動します。
再起動を行うと、「TPM」の設定が、「Enabled」から「Disabled」に変更されます。

TPMの設定は消去されるため、暗号化されているデータは復号できなくなり、ファイルを読むことはできなくなります。
また、以前と同じデジタル証明書も使用できなくなります。

7章

パソコンの動作がおかしいときは

パソコンの操作をしていて困ったときに、どうしたら良いかを説明しています。
「dynabook.com」で情報を調べる方法なども紹介しています。
トラブルが起こったときは、あわてずに、この章を読んで、解消方法を探してみてください。

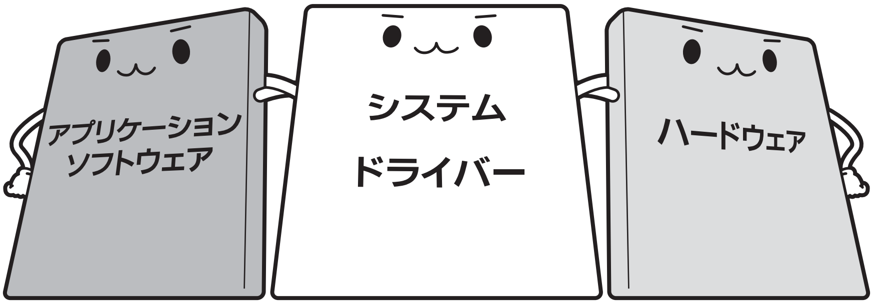
1 トラブルを解消するまでの流れ

お使いのパソコンに起こったトラブルについて、解決方法を見つけていきましょう。

1 トラブルの原因をつき止めよう

パソコンに起こるトラブルは、その原因がどこにあるかによって解決策が異なります。
そのために、パソコンの構造をある程度知っておくことが必要です。
ここでは、パソコンの構成とトラブル対処法を紹介します。

■パソコンを構成する３つの部分



- **アプリケーションソフトウェアとは**
  メールやインターネットは、アプリケーションソフトウェアの機能です。Word（文書作成ソフト）や Excel（表計算ソフト）、ウイルスチェックソフトもアプリケーションソフトウェアの代表的なものです。それぞれ製造元が異なります。
- **システム、ドライバーとは**
  システムは、オペレーティングシステム、OSともいい、パソコンを動かすための基本的な働きをします。本製品のシステムはWindows 8です。
  ドライバーは、周辺機器とシステムを連携する役割をします。ドライバーがないと、周辺機器は使用できません。代表的なドライバーに、ディスプレイドライバーやサウンドドライバーなどがあります。基本的なドライバーはシステムが標準装備していますが、周辺機器製品に専用のドライバーが付属している場合もあります。
- **ハードウェアとは**
  バッテリー、ACアダプター、ディスプレイ、キーボード、ハードディスク、CPUなどの、パソコン本体や接続する機器を指します。

パソコンはこれらの高度な技術の集合体です。トラブルの原因がそれぞれの製造元にしかわからない場合も多くあります。トラブルの症状に合わせた対処をすることが解決への早道です。
トラブルの解決には、最初に原因の切り分けを行います。一般的にはアプリケーションソフトウェア→システム（OS）、ドライバー→ハードウェア（パソコン本体）の順にチェックします。

2 トラブル対処法

トラブルが発生したときの解決手順を紹介します。

STEP1 Q&Aを読む

本書では、トラブルの解決方法をQ&A形式で説明しています。
また、『セットアップガイド』などにもQ&Aが記載されているので、あわせて読んでください。

STEP2 付属のマニュアルを読む

本製品には目的別に複数のマニュアルがあります。
本書以外のマニュアルも読んでください。

STEP3 サポートのサイトで調べる

東芝PC総合情報サイト「dynabook.com」へ接続すると、各種サポート情報から解決方法を探すことができます。
「dynabook.com」では、ご利用のパソコンの「よくある質問 FAQ」、デバイスドライバーや修正モジュールのダウンロード、ウイルス・セキュリティ情報などをご覧になれます。
サポート窓口や修理についても案内しています。

参照 dynabook.comの詳細について『東芝PCサポートのご案内』

それでもトラブルが解消しない場合は、お問い合わせください。
本製品に用意されているOSやアプリケーションのお問い合わせ先は『取扱説明書 付録 2 お問い合わせ先』で確認してください。

2 Q&A集

ここに掲載しているQ&A集のほかに、『セットアップガイド』にもQ&A集があります。
目的の項目が見つからないときは、『セットアップガイド』も参照してください。

1 画面／表示

Q しばらく放置したら、画面が真っ暗になった

A 省電力機能が働いた可能性があります。

しばらくタッチパッドやキーボードを操作しないと、画面に表示される内容が見えなくなる場合があります。これは省電力機能が動作したためで、故障ではありません。実際には電源が入っていますので、電源スイッチを押さないでください。

SHIFT キーを押す、またはタッチパッドを操作すると表示が復帰します。

外部ディスプレイを接続している場合、表示が復帰するまでに10秒前後かかることがあります。

Q 外部ディスプレイを接続した状態で、パソコンをスリープや休止状態から復帰したとき、本体液晶ディスプレイに何も表示されない

A 外部ディスプレイに、画面表示が切り替わっている可能性があります。

外部ディスプレイの電源を入れて確認してください。パソコン画面が表示されていた場合は、本体液晶ディスプレイに表示を切り替えてください。

参照 詳細について「4章 4 - 2 表示を切り替える」

Q 外部ディスプレイを取りはずしたときに、画面が表示されなくなった

A 外部ディスプレイを接続してください。

外部ディスプレイをメインディスプレイに指定して拡張表示の設定をした場合、スリープや休止状態のときに外部ディスプレイを取りはずすと、スリープや休止状態から復帰したときに画面が表示されないことがあります。

外部ディスプレイの取りはずしは、スリープや休止状態のときに行わないでください。

Q 画面が薄暗く、よく見えない

A FN ＋ F7 キーを押して、本体液晶ディスプレイ（画面）を明るくしてください＊1。

FN ＋ F6 キーを押すと、逆に、本体液晶ディスプレイは暗くなります。

＊1 この設定は、外部ディスプレイには反映されません。

7章 パソコンの動作がおかしいときは

本体液晶ディスプレイの輝度が低く設定されている可能性があります。

「電源オプション」には、本体液晶ディスプレイの輝度を落として消費電力を節約する機能があります。この機能で画面の明るさレベルを下げると、画面が暗くなります。
詳しくは、「電源オプション」のヘルプを参照してください。
次の手順で設定を変更してください。*1

①スタート画面の［デスクトップ］をクリックする
　デスクトップ画面が表示されます。
②［デスクトップアプリメニュー］アイコン（　）をダブルクリックする
　「東芝デスクトップアプリメニュー」が起動します。
③［コントロールパネル］をクリックする
④［　システムとセキュリティ］→［　電源オプション］をクリックする
⑤利用する電源プランを選択し、［プラン設定の変更］をクリックする
⑥［プランの明るさを調整］を設定する
　［バッテリ駆動］と［電源に接続］をそれぞれ設定してください。
⑦［変更の保存］ボタンをクリックする

＊1 この設定は、外部ディスプレイには反映されません。

Q 画面表示が回転してしまった

画面の設定が変更されている可能性があります。

次の手順で元に戻すことができます。

①スタート画面の［デスクトップ］をクリックする
　デスクトップ画面が表示されます。
②デスクトップ画面上のウィンドウやアイコンなどが表示されていない場所にポインターを移動し、右クリックする
③表示されたメニューから［画面の解像度］をクリックする
④［向き］で表示したい方向を選択する
⑤［OK］ボタンをクリックする
⑥［変更を維持する］ボタンをクリックする

2 キーボード

Q ポインターが輪の形をしている間にキーを押しても反応がない

システムが処理中の可能性があります。

ポインターが輪の形（　）をしている間は、システムが処理をしている状態のため、キーボードやタッチパッドなどの操作を受け付けないときがあります。システムの処理が終わるまで待ってから操作してください。

Q キーボードから文字を入力しているときにカーソルがとんでしまう

A 文字を入力しているときに誤ってタッチパッドに触れると、カーソルがとんだり、アクティブウィンドウが切り替わってしまうことがあります。

FN ＋ F9 キーを押してタッチパッドを無効に切り替えてください。

Q キーボードに飲み物をこぼしてしまった

A 飲み物など液体がこぼれて内部に入ると、感電、本体の故障、作成データの消失などのおそれがあります。

もし、液体がパソコン内部に入ったときは、ただちに電源を切り、電源コードとACアダプターとバッテリーパックを取りはずして、東芝PCあんしんサポートにご相談ください。

3 タッチパッド／マウス

＊マウスは、別売りです。

Q クリックしても反応がない

A システムが処理中の可能性があります。

ポインターが輪の形（）をしている間は、システムが処理をしている状態のため、タッチパッド、マウス、キーボードなどの操作を受け付けないときがあります。システムの処理が終わるまで待ってから操作してください。

A マウスが正しく接続されていない可能性があります。

マウスとパソコン本体が正しく接続されていないと、マウスの操作はできません。マウスのプラグを正しく接続してください。

A タッチパッドのみ操作を受け付けない場合、タッチパッドが無効に設定されている可能性があります。

FN ＋ F9 キーを押してタッチパッドを有効に切り替えてください。

Q ダブルクリックがうまくいかないので、速度を変更したい

A 次の手順で、ダブルクリックの速度を調節してください。

①スタート画面の［デスクトップ］をクリックする
デスクトップ画面が表示されます。
②［デスクトップアプリメニュー］アイコン（ ）をダブルクリックする
「東芝デスクトップアプリメニュー」が起動します。
③［コントロールパネル］をクリックする
④［ ハードウェアとサウンド］→［マウス］をクリックする
［マウスのプロパティ］画面が表示されます。
⑤［ボタン］タブで［ダブルクリックの速度］のスライダーバーを左右にドラッグする
⑥［OK］ボタンをクリックする

Q ポインターの速度を調節したい

A 次の手順でポインターの速度を変更してください。

①スタート画面の［デスクトップ］をクリックする
デスクトップ画面が表示されます。
②［デスクトップアプリメニュー］アイコン（ ）をダブルクリックする
「東芝デスクトップアプリメニュー」が起動します。
③［コントロールパネル］をクリックする
④［ ハードウェアとサウンド］→［マウス］をクリックする
［マウスのプロパティ］画面が表示されます。
⑤［ポインター オプション］タブで［速度］のスライダーバーを左右にドラッグする
⑥［OK］ボタンをクリックする

Q レーザーマウスの反応がおかしい

A 光の反射が正しく認識されていない可能性があります。

反射しにくい素材の上で使うと正しくセンサーが働かず、ポインターがうまく動きません。次のような場所では動作が不安定になる場合があります。

- 光沢のある表面（ガラス、鏡など）

A 平らな場所でマウスを操作しているか確認してください。

マウスは、平らな場所で操作してください。マウスの下にゴミなどがある場合は取り除いてください。

Q 光学式マウスの反応がおかしい

A 光の反射が正しく認識されていない可能性があります。

反射しにくい素材の上で使うと正しくセンサーが働かず、ポインターがうまく動きません。次のような場所では動作が不安定になる場合があります。

- 光沢のある表面（ガラス、研磨した金属、ラミネート、光沢紙、プラスチックなど）
- 画像パターンの変化が非常に少ない表面（人工大理石、新品のオフィスデスクなど）
- 画像パターンの方向性が強い表面（正目の木材、立体映像の入ったマウスパッドなど）

明るめの色のマウスパッドや紙など、光の反射を認識しやすい素材を使ったものの上で使用してください。
光学式マウスに対応したマウスパッドの使用を推奨します。
光学式マウスに対応していないものやマウスパッドの模様によっては、正常に動作しない場合があります。

A 平らな場所でマウスを操作しているか確認してください。

マウスは、平らな場所で操作してください。マウスの下にゴミなどがある場合は取り除いてください。

4 その他

Q パソコンの近くにあるテレビやラジオの調子がおかしい

A 次の操作を行ってください。

- テレビ、ラジオの室内アンテナの方向を変える
- テレビ、ラジオに対するパソコン本体の方向を変える
- パソコン本体をテレビ、ラジオから離す
- テレビ、ラジオのコンセントとは別のコンセントを使う
- 受信機に屋外アンテナを使う
- 平行フィーダを同軸ケーブルに変える

付録

本製品の機能を使用するにあたってのお願いや技術基準適合などについて記しています。

1 ご使用にあたってのお願い

本書で説明している機能のご使用にあたって、知っておいていただきたいことや守っていただきたいことがあります。次のお願い事項を、本書の各機能の説明とあわせて必ずお読みください。

1 「PC引越ナビ」について

前のパソコンの動作環境について

- すべてのパソコンでの動作確認は行っておりません。したがって、すべてのパソコンでの動作は保証できません。

操作にあたって

- 「PC引越ナビ」のヘルプで、注意制限事項を確認してください。
- 「PC引越ナビ」をご利用の際は、前のパソコンおよび新しいパソコンで、電源コードとACアダプターを接続した状態で、ご利用ください。
  また、「PC引越ナビ」の実行中は、スリープまたは休止状態にしないでください。
- こん包プログラムが作成するこん包ファイルを分割する場合、分割するこん包ファイルの大きさは、最大2GBとなります。
- 「PC引越ナビ」がこん包ファイルで同時に移行できるファイル数は、最大2,147,483,647ファイルです。
- こん包プログラムからこん包ファイルを作成するには、作成される予定のこん包ファイルの大きさ以上の空き容量が、保存先の装置に必要です。

2 パソコン本体について

タッチパッドの操作にあたって

- タッチパッドを強く押さえたり、ボールペンなどの先の鋭いものを使ったりしないでください。タッチパッドが故障するおそれがあります。

3 ハードディスクドライブについて

操作にあたって

- パソコンを激しく揺らしたり、強い衝撃を与えると、故障の原因となる場合があります。
- Disk LEDが点灯中は、パソコン本体を動かしたりしないでください。ハードディスクドライブが故障したり、データが消失するおそれがあります。
- ハードディスクに保存しているデータや重要な文書などは、万が一故障が起こったり、変化／消失した場合に備えて、定期的にCD／DVDやUSBフラッシュメモリなどに保存しておいてください。記憶内容の変化／消失など、ハードディスク、CD／DVD、USBフラッシュメモリなどに保存した内容の損害については、当社はいっさいその責任を負いませんので、あらかじめご了承ください。

- 磁石、スピーカー、テレビ、磁気ブレスレットなど磁気を発するものの近くに置かないでください。記憶内容が変化／消失するおそれがあります。
- パソコン本体を落とす、ぶつけるなど強い衝撃を与えないでください。ハードディスクの磁性面に傷が付いて、使えなくなることがあります。磁性面に付いた傷の修理はできません。

東芝HDDプロテクションの使用にあたって

- 東芝HDDプロテクションは、落下・振動・衝撃およびその前兆を検出するとHDDのヘッドを退避させ、ヘッドとメディアの接触によってHDDが損傷する危険性を軽減するものです。ただし、その効果を保証するものではありません。故障などの際は当社保証規定に従って修理いたします。また、故障などによりHDDの記憶内容が変化・消失する場合がありますが、これによる損害、および本製品の使用不能から生じた損害については当社はその責任をいっさい負いません。大切なデータは必ずお客様の責任のもと普段からこまめにバックアップされるようお願いします。

4 CDやDVDについて

CD／DVDの操作にあたって

- ディスクトレイ内のレンズおよびその周辺に触れないでください。ドライブの故障の原因になります。
- ディスクトレイLEDが点灯しているときは、イジェクトボタンを押したり、CD／DVDを取り出す操作をしないでください。CD／DVDが傷ついたり、ドライブが壊れるおそれがあります。
- 電源が入っているときには、イジェクトホールを押さないでください。回転中のCD／DVDのデータやドライブが壊れるおそれがあります。

参照 イジェクトホールについて「2章 6 - 3 - CD／DVDが出てこない場合」

- ディスクトレイを開けたときに、CD／DVDが回転している場合には、停止するまでCD／DVDに手を触れないでください。けがのおそれがあります。
- パソコン本体を持ち運ぶときは、ドライブにCD／DVDが入っていないことを確認してください。入っている場合は取り出してください。
- CD／DVDをディスクトレイにセットするときは、無理な力をかけないでください。
- CD／DVDを正しくディスクトレイにセットしないとCD／DVDを傷つけることがあります。
- 本製品では、8cm、12cmのCD／DVDのみ使用できます。
  これら以外のCD／DVDは使用できません。

DVD-RAMのフォーマットについて

- フォーマットを行うと、そのDVD-RAMに保存されている情報はすべて消去されます。一度使用したDVD-RAMをフォーマットする場合は注意してください。

5 「TOSHIBA Active Display Off」について

- 次の場合は、人の顔を正しく検出できずに、本機能が正しく動作しないことがあります。
  - ・暗い場合
  - ・Webカメラに対して逆光の場合
  - ・マスクやサングラスなどを身に着けている場合
  - ・着衣や背景などが影響している場合　　など
- Webカメラの撮影範囲内に、人の顔と間違えて検出されるものがある場合は、本機能が正しく動作しないことがあります。この場合は、［TOSHIBA Active Display Off］画面で撮影範囲を確認し、人の顔として検出される可能性のあるものを撮影範囲から取り除いてください。
- Webカメラを使用するほかのアプリケーションを使用している場合は、本機能が正しく動作しない場合があります。
- 外部ディスプレイを接続している場合は、本機能は動作しません。
- 市販のWebカメラなどの接続機器やソフトウェアなど、当社が関与しない組み合わせによる不具合、その結果生じた不便または損害、本機能の使用から生じる付随的な損害（記憶内容の変化・消失、事業利益の損失、事業の中断など）に関して当社はいっさいの責任を負いかねますので、ご了承ください。

6 Webカメラについて

Webカメラを使用するにあたって

- Webカメラを太陽に直接向けないでください。
- Webカメラのレンズ部分に触れたり、強く押したりしないでください。画質が低下する原因となります。
  レンズ部分が汚れた場合は、眼鏡ふき（クリーナークロス）などの柔らかい布でふいてください。

付録

7 有線LANについて

LANケーブルの使用にあたって

- LANケーブルは市販のものを使用してください。
- LANケーブルをパソコン本体のLANコネクタに接続した状態で、LANケーブルを引っ張ったり、パソコン本体の移動をしないでください。LANコネクタが破損するおそれがあります。
- LANインターフェースを使用するとき、Gigabit Ethernet（1000BASE-T）は、エンハンストカテゴリ5（CAT5e）以上のケーブルを使用してください。
  Fast Ethernet（100BASE-TX）は、カテゴリ5（CAT5）以上のケーブルを使用してください。
  Ethernet（10BASE-T）は、カテゴリ3（CAT3）以上のケーブルが使用できます。

8 無線LANについて

無線LANを使用するにあたって

- 無線LANの無線アンテナは、障害物が少なく見通しのきく場所で最も良好に動作します。無線通信の範囲を最大限有効にするには、本や厚い紙の束などの障害物でディスプレイを覆わないようにしてください。
  また、無線LANアクセスポイントとパソコンとの間を金属板などで遮へいしたり、無線アンテナの周囲を金属製のケースなどで覆わないようにしてください。
- 無線LANは無線製品です。各国／地域で適用される無線規制については、『取扱説明書』を確認してください。
- 本製品の無線LANを使用できる国／地域については、「dynabook.com」を確認してください。

無線LANの操作にあたって

- Bluetoothと無線LANは同じ無線周波数帯を使用するため、同時に使用すると電波が干渉し合い、通信速度の低下やネットワークが切断される場合があります。接続に支障がある場合は、今お使いのBluetooth、無線LANのいずれかの使用を中止してください。
- アドホックネットワーク機能で、設定されているネットワーク名へのネットワーク接続が不可能になる場合があります。
  この場合、再度ネットワーク接続を可能にするには、同じネットワーク名で接続されていたコンピューターすべてに対して、新たに別のネットワーク名で設定を行う必要があります。

9 モデムについて

モデムの操作にあたって

- モジュラーケーブルは市販のものを使用してください。
- モジュラーケーブルをパソコン本体のモジュラージャックに接続した状態で、モジュラーケーブルを引っ張ったり、パソコン本体の移動をしないでください。モジュラージャックが破損するおそれがあります。
- 市販の分岐アダプターを使用してほかの機器と並列接続した場合、本モデムのデータ通信やほかの機器の動作に悪影響を与えることがあります。
- 回線切換器を使用する場合は、両切り式のもの（未使用機器から回線を完全に切り離す構造のもの）を使用してください。

10 周辺機器について

周辺機器の取り付け／取りはずしについて

- 取り付け／取りはずしの方法は周辺機器によって違います。4章の各節を読んでから作業をしてください。またその際には、次のことを守ってください。守らなかった場合、故障するおそれがあります。
  - ・ホットインサーションに対応していない周辺機器を接続する場合は、必ずパソコン本体の電源を切ってから作業を行ってください。ホットインサーションとは、電源を入れた状態で機器の取り付け／取りはずしを行うことです。
  - ・適切な温度範囲内、湿度範囲内であっても、結露しないように急激な温度変化を与えないでください。冬場は特に注意してください。
  - ・ほこりが少なく、直射日光のあたらない場所で作業をしてください。
  - ・極端に温度や湿度の高い／低い場所では作業しないでください。
  - ・静電気が発生しやすい環境（乾燥した場所やカーペット敷きの場所など）では作業をしないでください。
  - ・本書および『取扱説明書』で説明している場所のネジ以外は、ゆるめたり、取りはずしたりしないでください。
  - ・作業時に使用するドライバーは、ネジの形、大きさに合ったものを使用してください。
  - ・本製品を分解、改造すると、保証やその他のサポートは受けられません。
  - ・パソコン本体のコネクタにケーブルを接続するときは、コネクタの上下や方向を合わせてください。
  - ・ケーブルのコネクタに固定用ネジがある場合は、パソコン本体のコネクタに接続したあと、ケーブルがはずれないようにネジを締めてください。
  - ・パソコン本体のコネクタにケーブルを接続した状態で、接続部分に無理な力を加えないでください。

付録

USB対応機器の操作にあたって

- 電源供給を必要とするUSB対応機器を接続する場合は、USB対応機器の電源を入れてからパソコン本体に接続してください。
- USB対応機器を使用するには、システム（OS）が対応しており、機器用ドライバーがインストールされている必要があります。
- すべてのUSB対応機器の動作確認は行っていません。したがってすべてのUSB対応機器の動作は保証できません。
- USB対応機器を接続したままスリープまたは休止状態にすると、復帰後USB対応機器が使用できない場合があります。その場合は、USB対応機器を接続し直すか、パソコンを再起動してください。

❑USB接続の外部ディスプレイを使用するにあたって

- USB接続の外部ディスプレイを接続した場合、著作権保護機能に対応していないドライバーがインストールされることにより、映像を再生するアプリケーションが動作しなくなることがあります。
  これらのアプリケーションを使用される場合は、USB接続の外部ディスプレイの接続やドライバーのインストールを行わないようにお願いします。

❏取りはずす前に確認しよう

- 取りはずすときは、USB対応機器をアプリケーションやシステムで使用していないことを確認してください。
- USBフラッシュメモリやUSB接続のハードディスクドライブなど、記憶装置のUSB対応機器を取りはずす場合は、データを消失するおそれがあるため、必ずシステム上で使用停止の手順を行ってください。

❏USBの常時給電について

- 本機能を「東芝システムセッティング」で有効にした際、⚡アイコンが付いているUSBコネクタに接続しているUSB周辺機器が正しく動作しない場合があります。この場合、ほかのUSBコネクタを使用するか、本機能を「東芝システムセッティング」で無効にしてください。
- 本機能を利用しての充電は、専用充電器で充電する場合と比較して、より多くの充電時間が必要になることがあります。
- 常時給電を有効にしている場合は、電源OFFの状態でもバッテリーが消費されます。
  バッテリー駆動時間や休止状態の保持時間が短くなるので、電源コードとACアダプターを接続して使用することをおすすめします。
- USB対応機器の給電中にパソコン本体の電源を入れると、USB対応機器が正常に認識されない場合があります。この場合は、一度USB対応機器を取りはずしてから再接続してください。
- USB対応機器の給電中にパソコン本体の電源を切ると、正常に充電できない場合があります。この場合は、一度USB対応機器を取りはずしてから再接続を試みてください。
- パソコン本体の電源ON／OFFと連動するUSBバスパワー（DC5V）連動機能を持つ外部機器は、常に動作状態になることがあります。
- 常時給電に対応したUSBコネクタに接続された外部機器の使用電流が過大の場合、安全性確保のためUSBバスパワー（DC5V）の供給を停止させることがあります。
  この場合、外部機器の仕様を確認し、常時給電に対応したUSBコネクタに接続する外部機器の使用電流全体の合計を2.1A以下にしてください。
  その後、パソコン本体の電源をON／OFFすることで復帰します。
- 本機能を「東芝システムセッティング」で有効にした場合は、⚡アイコンが付いているUSBコネクタでは「USB WakeUp機能」*1が機能しません。
  この場合、ほかのUSBコネクタを使用するか、本機能を「東芝システムセッティング」で無効にしてください。

＊1 USB WakeUp機能とは、USBコネクタに接続した外部機器によってパソコン本体をスリープ状態から復帰させる機能です。本機能は、すべてのUSBコネクタで有効です。

❏ USBの高速充電について

■ 高速充電モードについて

- 接続するUSB対応機器およびUSBケーブルが2.0A充電に対応している場合は、「東芝システムセッティング」で本機能のモード設定を［高速充電モード］に設定すると、電源OFF時（スリープ状態、休止状態、シャットダウン状態）に、USB対応機器への高速充電（2.0A）ができます。
  USBコネクタにUSBバスパワー（DC5V）を最大2.0Aまで供給して短時間で充電することができます。
- ［高速充電モード］で正しく充電できない場合は、本機能を「東芝システムセッティング」で［自動モード］に変更するか、無効にしてください。
- 接続するUSB対応機器およびUSBケーブルが2.0A充電に対応していない場合は、［高速充電モード］には設定しないでください。
  この場合は、［自動モード］に設定してください。

■ システムON CDPチャージモードについて

- 本機能を「東芝システムセッティング」で有効にすると、電源ON時にUSBコネクタにUSBバスパワー（DC5V）を最大1.5Aまで供給して短時間で充電することができます。
- 本機能を「東芝システムセッティング」で有効にした際、⚡アイコンが付いているUSBコネクタに接続しているUSB周辺機器が正常に認識されない場合があります。この場合、ほかのUSBコネクタを使用するか、本機能を「東芝システムセッティング」で無効に設定してください。
- システムON CDPチャージモードで高速充電している場合は、バッテリー駆動時間が短くなるので、電源コードとACアダプターを接続して使用することをおすすめします。
- バッテリー残量が10%以下では、システムON CDPチャージモードは機能しません。この場合は、通常の給電となります。
  本機能を使用する場合は、バッテリーを充電してからパソコンを起動してください。使用中にバッテリー残量が10%以下になった場合に、再び本機能を使用するには、バッテリーを充電後、パソコンの再起動が必要になります。
- 本機能を「東芝システムセッティング」で有効にした場合は、⚡アイコンが付いているUSBコネクタでは「USB WakeUP機能」*1が機能しません。
  この場合、ほかのUSBコネクタを使用するか、本機能を「東芝システムセッティング」で無効にしてください。

＊1 USB WakeUp機能とは、USBコネクタに接続した外部機器によってパソコン本体をスリープ状態から復帰させる機能です。本機能は、すべてのUSBコネクタで有効です。

eSATA対応機器の操作にあたって

- スリープまたは休止状態でパソコンのeSATA／USBコネクタにeSATA対応機器を接続しないでください。eSATA対応機器を認識できない場合があります。
  eSATA対応機器は、パソコンに電源が入った状態で接続してください。

付録

外部ディスプレイ接続の操作にあたって

- 必ず、映像の再生アプリケーションを起動する前に、表示装置の切り替えを行ってください。起動中は表示装置を切り替えないでください。
- 次のようなときには、表示装置を切り替えないでください。
  - ・データの読み出しや書き込みをしている間
  - ・通信を行っている間
- クローン表示にしているときに映像を再生させると、画像がコマ落ちをすることがあります。この場合は表示解像度を下げるか、クローン表示にしないで１つの表示装置に表示するか、拡張表示に設定してください。
- 拡張表示で外部ディスプレイをメインディスプレイに設定した場合、スリープまたは休止状態のときに外部ディスプレイをはずさないでください。スリープまたは休止状態から復帰したときにサインイン画面が表示されずに、操作ができなくなることがあります。
- すべての外部ディスプレイと接続動作確認は行っていません。したがって、すべての外部ディスプレイへの表示は保証できません。
  外部ディスプレイによっては正しく表示されない場合があります。
- 外部ディスプレイに表示したときに、画面の周りに黒い帯が表示され、画面が外部ディスプレイの中央に小さく表示されることがあります。
  その場合は『外部ディスプレイに付属の説明書』を参照して、外部ディスプレイがサポートしている画面モードに設定してください。適切なサイズと適切なアスペクト比で表示されます。

インテル® ワイヤレス・ディスプレイの使用にあたって

- 「インテル® ワイヤレス・ディスプレイ」機能についての詳細は、『テレビアダプターに付属の説明書』を参照してください。
- 「インテル® ワイヤレス・ディスプレイ」で伝送した映像は3Dに対応していません。テレビが3D表示に対応している場合でも、3D表示はされません。
- 「インテル® ワイヤレス・ディスプレイ」を使用した場合、3Dゲームなど一部のアプリケーションは正常にテレビに表示されないことがあります。

ヘッドホンの操作にあたって

- 次のような場合にはヘッドホンを装着しないでください。雑音が発生する場合があります。
  - ・パソコン本体の電源を入れる／切るとき
  - ・ヘッドホンの取り付け／取りはずしをするとき

PCカードの操作にあたって

- ホットインサーションに対応していないPCカードを使用する場合は、必ずパソコン本体の電源を切ってから取り付け／取りはずしを行ってください。
- PCカードには、長い時間使用していると熱を帯びるものがあります。PCカードを取りはずす際に、PCカードが熱い場合は、少し時間をおき、冷めてからPCカードを取りはずしてください。
- PCカードの使用停止は必ず行ってください。使用停止を行わずにPCカードを取りはずすとシステムが回復不能な影響を受ける場合があります。

❑ 取りはずす前に確認しよう

- 取りはずすときは、PCカードをアプリケーションやシステムで使用していないことを確認してください。
- 通知領域に［ハードウェアを安全に取り外してメディアを取り出す］アイコン（または）が表示されているPCカードを取りはずす場合、PCカードの使用停止は必ず行ってください。使用停止を行わずにPCカードを取りはずすとシステムが回復不能な影響を受ける場合があります。

Bluetoothについて

- 本製品は、すべてのBluetooth対応機器との接続動作を確認したものではありません。また、すべてのBluetooth対応機器との動作を保証することはできません。
- 本製品のBluetooth機能を使用できる国／地域については、「dynabook.com」を確認してください。

11 バッテリーについて

バッテリーを充電するにあたって

- バッテリーパックの温度が極端に高いまたは低いと、正常に充電されないことがあります。バッテリーは5～35℃の室温で充電してください。

社団法人　電子情報技術産業協会の「バッテリ関連Q&A」について
http://home.jeita.or.jp/cgi-bin/page/detail.cgi?n=121&ca=14

12 CD／DVDにデータのバックアップをとる

CD／DVDに書き込む前に

CD／DVDに書き込みを行うときは、次の注意をよく読んでから使用してください。
守らずに使用すると、書き込みに失敗するおそれがあります。また、ドライブへの振動や衝撃などの本体異常や、記録メディアの状態などによっては処理が正常に行えず、書き込みに失敗することがあります。

- 書き込みに失敗したCD／DVDの損害については、当社はいっさいその責任を負いません。また、記憶内容の変化・消失など、CD／DVDに保存した内容の損害および内容の損失・消失により生じる経済的損害といった派生的損害については、当社はいっさいその責任を負いませんので、あらかじめご了承ください。
- CD／DVDに書き込むときには、それぞれの書き込み速度に対応し、それぞれの規格に準拠した記録メディアを使用してください。また、推奨するメーカーの記録メディアを使用してください。

  参照 CD／DVDについて「2章 6 CDやDVDを使う」
- バッテリー駆動で使用中に書き込みを行うと、バッテリーの消耗などによって書き込みに失敗するおそれがあります。必ず電源コードとACアダプターを接続してパソコン本体を電源コンセントに接続して使用してください。
- 書き込みを行うときは、本製品の省電力機能が働かないようにしてください。また、スリープ、休止状態、シャットダウンまたは再起動を実行しないでください。

  参照 省電力機能について「5章 2 省電力の設定をする」
- 次に示すような、ライティングソフトウェア以外のソフトウェアは終了させてください。
  ・スクリーンセーバー
  ・ウイルスチェックソフト
  ・ディスクのアクセスを高速化する常駐型ユーティリティ
  ・音楽や映像の再生アプリケーション
  ・LANなどの通信アプリケーション　など
  ソフトウェアによっては、動作の不安定やデータの破損の原因となります。
- SDメモリカード、USB接続などのハードディスクドライブなど、本体のハードディスク以外の記憶装置にあるデータを書き込むときは、データをいったん本体のハードディスクに保存してから書き込みを行ってください。
- LANを経由する場合は、データをいったん本体のハードディスクに保存してから書き込みを行ってください。

書き込みを行うにあたって

- タッチパッドを操作する、ウィンドウを開く、ユーザーを切り替える、画面の解像度や色数の変更など、パソコン本体の操作を行わないでください。
- パソコン本体に衝撃や振動を与えないでください。
- 書き込み中は、周辺機器の取り付け／取りはずしを行わないでください。

  参照 周辺機器について「4章 周辺機器を使って機能を広げよう」
- パソコン本体から携帯電話、およびほかの無線通信装置を離してください。
- 重要なデータについては、書き込み終了後、必ずデータが正しく書き込まれたことを確認し

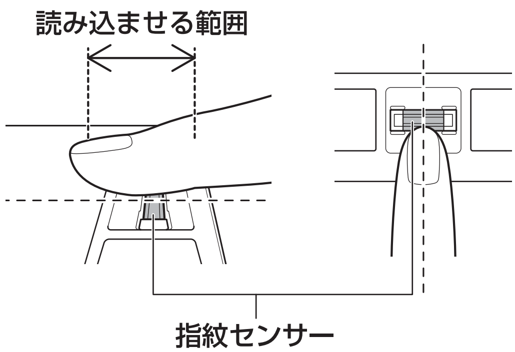
付録

13 指紋認証について

指紋認証の操作にあたって

指紋センサーは非常に高度な技術で作られておりますので、次の取扱注意事項を守ってご使用ください。特に指紋センサー表面の取り扱いには十分ご注意ください。

- 次のような取り扱いをすると故障したり、指紋が認証されない原因になります。
  - ・指紋センサー表面をつめなどの硬いものでこすったりひっかいたりする
  - ・指紋センサー表面を強く押す
  - ・ぬれた手で指紋センサー表面を触る
    指紋センサーの表面に水蒸気などをあてず、乾燥した状態に保ってください。
  - ・化粧品や薬品、砂や泥などの付いた手で指紋センサー表面を触る
    砂などの小さい物でも、指紋センサーを傷つける場合があります。
  - ・指紋センサー表面にシールなどをはる
  - ・指紋センサー表面に鉛筆やボールペンなどで書く
  - ・指紋センサー表面を静電気を帯びた手や布などで触る
- 指紋センサーをご使用になるときには、次の点にご注意ください。
  - ・手が汚れている場合には手を洗い、完全に水分をふき取る
  - ・金属に手を触れるなどして、静電気を取り除く
    特に空気が乾燥する冬場には注意してください。静電気は指紋センサーの故障原因になります。
  - ・眼鏡ふき（クリーナークロス）などの柔らかい布でセンサーの汚れをふき取る
    このとき、洗剤は使用しないでください。
  - ・指と指紋センサーが横から見て平行になるように指を置く
  - ・指紋センサーと指の中央を合わせる
  - ・指紋センサーの上に第１関節がくるように置く
  - ・すべらせるときにはゆっくりと一定のはやさで手前にすべらせる
    それでも認識されない場合は、はやさを調整してください。
  - ・右の図のように、指を上下や左右にぶれさせず、指紋センサーが完全に見える状態になるまで手前にすべらせてください。



付録

- 指紋を登録する場合には、認識率向上のために次のような状態の指は避けてください。
  - ・ぬれている
  - ・けがをしている
  - ・ふやけている
  - ・荒れている
  - ・汚れている
    指紋の間の汚れや異物を取り除いた状態で登録してください。
  - ・乾燥性の皮膚炎などにかかっている
- 認識率が下がったな、と思ったら次の点を確認してください。
  - ・指紋センサーの表面が汚れていないか確認する
    汚れている場合は、眼鏡ふき（クリーナークロス）などの柔らかい布で軽くふき取ってから使ってください。指紋センサー表面は強くこすらないでください。故障するおそれがあります。
  - ・指の状態を確認する
    傷や手荒れ、極端に乾燥した状態、ふやけた状態、指紋が磨耗した状態、極端に太った場合など、指紋の登録時と状態が異なると認識できない可能性があります。認識率が改善されない場合には、ほかの指での再登録をおすすめします。
  - ・指の置きかたに注意する
- その他
  - ・2本以上の指を登録することをおすすめします。うまく認識しにくい場合などは、登録しなおすか、ほかの指を登録してください。
  - ・指紋認証機能は、正しくお使いいただいた場合でも、個人差により指紋情報が少ないなどの理由で、登録・使用ができない場合があります。
  - ・指紋認証機能は、データやハードウェアの完全な保護を保証してはおりません。本機能を利用したことによる、いかなる障害、損害に関して、いっさいの責任は負いかねますので、ご了承ください。

付録

Windowsパスワードの設定について

- 指紋認証を使用するには、あらかじめWindowsパスワードの設定が必要です。
  Windowsパスワードがわからなくなった場合、パソコンの管理者アカウントで設定したユーザーアカウントがほかにあれば、そのアカウントでサインインしてパスワードの再登録ができます。管理者アカウントで設定したほかのユーザーアカウントがない場合は、リカバリーをしてください。リカバリーをすると、購入したあとに作成したデータなどは、すべて消失します。

参照 Windowsパスワードについて『Windows ヘルプとサポート』

指紋認証のパスワード入力について

- 指紋認証に関連するシステム環境や設定が変更された場合、起動時にユーザーパスワードの入力を求められることがあります。その場合は、キーボードから各パスワードを入力してください。

14 TPMについて

TPMの操作にあたって

- 「Infineon TPM Software Professional Package」をインストールすると、Windowsパスワードやユーザーパスワードとは別にTPMに対するパスワードを設定する必要があります。設定したパスワードは、忘れたときのために必ず控えておいてください。また控えたパスワードは、安全な場所に保管してください。パスワードがわからなくなった場合、どんな手段でもTPMで保護されたデータを復元することはできません。
- 本製品を修理・保守に出した場合、メイン基板に組み込まれたセキュリティチップ（TPM）内のデータは保証いたしません。TPMを使用している場合に、本製品を保守・修理に出す際は、バックアップウィザードを使用して、TPMをバックアップしておいてください。
  バックアップしたメディアは、安全な場所に保管してください。データのバックアップに関しては、当社はいっさいの責任を負いかねますのでご了承ください。

  参照 バックアップウィザードについて『TPMのヘルプ』
- 本製品を修理・保守に出した場合、搭載されているTPMに障害がなくてもTPM が交換される場合があります。
  その場合、バックアップウィザードを使用して、TPMの設定を復元してください。
- TPMでは、最新のセキュリティ機能を提供しますが、データやハードウェアの完全な保護を保証してはおりません。本機能を利用したことによる、いかなる障害、損害に関して、いっさいの責任は負いかねますので、ご了承ください。
- 所有者登録とユーザー登録を削除すると、TPMに関係するセキュリティ機能が使用できなくなります。このため、管理者権限を持たないユーザーがBIOSセットアップのTPMに関する項目を操作できないように設定することをおすすめします。

  参照 管理者以外のユーザーの制限について
  「6章 5 - 3 東芝パスワードユーティリティでTPMの設定をする」
- 所有者登録とユーザー登録を削除したあとに、TPMの使用を再開する場合は、もう一度TPMへ所有者登録やユーザー登録を行う必要があります。

付録

2 記録メディアについて

記録メディアを使う前に、次の内容をよく読んでください。

1 使えるCDを確認しよう

CD-RW、CD-Rについて／CD-RW、CD-Rの使用推奨メーカー

- CD-RW、CD-Rに書き込む際には、次のメーカーの記録メディアを使用することを推奨します。
  書き込み速度は、使用する記録メディアによって異なります。
  これらのメーカー以外の記録メディアを使用すると、うまく書き込みができない場合があります。

記録メディア	書き込み／書き換え速度	推奨メーカー
CD-Rメディア*1	最大24倍速	太陽誘電（株）、三菱化学メディア（株）、日立マクセル（株）
マルチスピードCD-RWメディア	最大4倍速	三菱化学メディア（株）
High Speed CD-RWメディア	最大10倍速	
Ultra Speed CD-RWメディア*2	最大24倍速	

＊1 最大の倍速で書き込むためには書き込み速度に対応したCD-Rメディアを使用してください。
＊2 Ultra Speed+ CD-RWメディアは使用できません。使用した場合、データは保証できません。

- CD-Rに書き込んだデータの消去はできません。
- CD-RWの消去されたデータを復元することはできません。消去の際は、記録メディアの内容を十分に確認してから行ってください。
- 書き込み可能なドライブが複数台接続されている際には、書き込み・消去する記録メディアをセットしたドライブを間違えないよう十分に注意してください。
- ハードディスクに不良セクターがあると書き込みに失敗するおそれがあります。定期的に「エラー チェック」でクラスターのチェックを行うことをおすすめします。
  「エラー チェック」は、デスクトップ画面のタスクバーの［エクスプローラー］→［コンピューター］のハードディスクのアイコンを右クリックし、表示されたメニューから［プロパティ］をクリックして、プロパティ画面の［ツール］タブから行うことができます。
- ドライブの構造上、記録メディアの傷、汚れ、ほこり、チリなどにより読み出し／書き込みができなくなる場合があります。データなどを書き込む際は、記録メディアの状態をよくご確認ください。
- 12cm/8cmディスク対応、Serial ATA接続、バッファーアンダーランエラー防止機能付き。

2 使えるDVDを確認しよう

■DVD-RAMの種類

DVD-RAMにはいくつかの種類があります。本製品のドライブで使用できるDVD-RAMは次のとおりです。
カートリッジタイプの記録メディアは、カートリッジから取り出してドライブにセットしてください。両面ディスクで、読み出し／書き込みする面を変更するときは、一度ドライブから記録メディアを取り出し、裏返してセットし直してください。

○：使用できる　×：使用できない

DVD-RAMの種類	本製品の対応
カートリッジなし＊1	○
カートリッジタイプ（取り出し不可）	×
カートリッジタイプ（取り出し可能）＊2	○

＊1 一部の家庭用DVDビデオレコーダーでは再生できない場合があります。
＊2 2.6GB、5.2GBのディスクは使用できません。

DVDについて／DVDの使用推奨メーカー

● DVD-RAM、DVD-RW、DVD-R、DVD+RW、DVD+Rに書き込む際には、次のメーカーの記録メディアを使用することを推奨します。
書き込み速度は、使用する記録メディアによって異なります。
これらのメーカー以外の記録メディアを使用すると、うまく書き込みができない場合があります。

記録メディア		書き込み／書き換え速度	推奨メーカー
DVD-R	8倍速、16倍速	最大8倍速	太陽誘電（株）、日立マクセル（株）、三菱化学メディア（株）
DVD-R DL	4倍速	最大4倍速	三菱化学メディア（株）
	8倍速	最大6倍速	
DVD+R	8倍速、16倍速	最大8倍速	太陽誘電（株）、三菱化学メディア（株）
DVD+R DL	8倍速	最大6倍速	三菱化学メディア（株）
DVD-RW	4倍速	最大4倍速	日本ビクター（株）、三菱化学メディア（株）
	6倍速	最大6倍速	
DVD+RW	4倍速	最大4倍速	三菱化学メディア（株）
	8倍速	最大8倍速	
DVD-RAM	3倍速	最大3倍速	日立マクセル（株）、パナソニック（株）
	5倍速	最大5倍速	

これらより速い書き込み倍速に対応した記録メディアを使用しても、ドライブの書き込み／書き換え速度以上の速度で書き込み／書き換えはできません。

- DVD-R、DVD+Rに書き込んだデータの消去はできません。
- DVD-RAM、DVD-RW、DVD+RWの消去されたデータを復元することはできません。消去の際は、記録メディアの内容を十分に確認してから行ってください。
- 書き込み可能なドライブが複数台接続されているときには、書き込み・消去する記録メディアをセットしたドライブを間違えないよう十分に注意してください。
- DVD-RAM、DVD-RW、DVD-R、DVD+RW、DVD+Rへの書き込みでは、ファイルの管理領域なども必要になるため、記録メディアに記載された容量分のデータを書き込めない場合があります。
- DVD-RW、DVD-Rへの書き込みでは、DVDの規格に準拠するため、書き込むデータのサイズが約1GBに満たない場合にはダミーのデータを加えて、最小1GBのデータに編集して書き込みます。
  このため、実際に書き込もうとしたデータが少ないにもかかわらず、書き込み完了までに時間がかかることがあります。
- ハードディスクに不良セクターがあると書き込みに失敗するおそれがあります。定期的に「エラー チェック」でクラスターのチェックを行うことをおすすめします。
  「エラー チェック」は、デスクトップ画面のタスクバーの［エクスプローラー］→［コンピューター］のハードディスクのアイコンを右クリックし、表示されたメニューから［プロパティ］をクリックして、プロパティ画面の［ツール］タブから行うことができます。
- ドライブの構造上、記録メディアの傷、汚れ、ほこり、チリなどにより読み出し／書き込みができなくなる場合があります。データなどを書き込むときは、記録メディアの状態をよくご確認ください。
- DVD-RAMをドライブにセットしたとき、システムがDVD-RAMを認識するまでに多少時間がかかります。
- DVD-R DLは、Format4での読み出し/書き込みをサポートしておりません。
- 12cm/8cmディスク対応、Serial ATA接続、バッファーアンダーランエラー防止機能付き。

メモ

- DVD-Rは、DVD-R for General Ver2.0規格に準拠した記録メディアを使用してください。
- DVD-RWは、DVD-RW Ver1.1またはVer1.2規格に準拠した記録メディアを使用してください。
- DVD-RAMは、DVD-RAM Ver2.0、Ver2.1、Ver2.2規格に準拠した記録メディアを使用してください。
- 市販のDVD-Rには業務用メディア（for Authoring）と一般用メディア（for General）があります。
  業務用メディアはパソコンのドライブでは書き込みすることができません。
  一般用メディア（for General）を使用してください。
- 市販のDVD-RAM、DVD-RW、DVD-R、DVD+RW、DVD+Rには「for Data」と「for Video」の2種類があります。映像を保存する場合や家庭用DVDビデオレコーダーとの互換性を重視する場合は「for Video」を使用してください。
- 作成したDVDは、一部の家庭用DVDビデオレコーダーやパソコンでは再生できないこともあります。
  また、作成したDVD+R DLメディア、DVD-R DLメディアを再生するときは、それぞれの記録メディアの読み取りに対応している機器を使用してください。

3 メディアカードを使うにあたって

1 メディアカードの操作にあたって

- ブリッジメディア LEDが点灯中は、電源を切ったり、メディアカードを取り出したり、パソコン本体を動かしたりしないでください。データやメディアカードが壊れるおそれがあります。
- メディアカードは無理な力を加えず、静かに挿入してください。正しくセットされていない場合、パソコンの動作が不安定になったり、メディアカードが壊れるおそれがあります。
- スリープ中は、メディアカードを取り出さないでください。データが消失するおそれがあります。
- メディアカードのコネクタ部分（金色の部分）には触れないでください。静電気で壊れるおそれがあります。
- メディアカードを取り出す場合は、必ずシステム上で使用停止の手順を行ってください。データが消失したり、メディアカードが壊れるおそれがあります。
- パソコン本体を持ち運ぶときは、必ずブリッジメディアスロットからメディアカードを取り出してください。ブリッジメディアスロットやメディアカードが破損するおそれがあります。

2 メディアカードのフォーマットについて

- 再フォーマットする場合は、メディアカードを使用する機器（デジタルカメラやオーディオプレーヤーなど）で行ってください。
  Windows上（[コンピューター] 画面）でメディアカードのフォーマットを行わないでください。デジタルカメラやオーディオプレーヤーなどほかの機器で使用できなくなる場合があります。
- 再フォーマットを行うと、そのメディアカードに保存されていた情報はすべて消去されます。一度使用したメディアカードを再フォーマットする場合は注意してください。

付録

3 SDメモリカードを使う前に

- ブリッジメディアスロットにminiSDメモリカードをセットするときは、必ずSDメモリカードサイズのminiSDメモリカード用のアダプターを装着した状態で行ってください。
  microSDメモリカードをセットするときは、必ずSDメモリカードサイズのmicroSDメモリカード用のアダプターを装着した状態で行ってください。miniSDメモリカードサイズのmicroSDメモリカード用のアダプターは使用できません。
- ブリッジメディアスロットからminiSDメモリカード／microSDメモリカードを取りはずすときは、必ずminiSDメモリカードまたはmicroSDメモリカード用のアダプターに装着したままの状態で行ってください。
- すべてのSDメモリカードの動作確認は行っていません。したがって、すべてのSDメモリカードの動作保証はできません。

- SDメモリカードは、SDMIの取り決めに従って、デジタル音楽データの不正なコピーや再生を防ぐための著作権保護技術を搭載しています。
  そのため、ほかのパソコンなどで取り込んだデータが著作権保護されている場合は、本製品でコピー、再生することはできません。SDMIとはSecure Digital Music Initiativeの略で、デジタル音楽データの著作権を守るための技術仕様を決めるための団体のことです。
- 著作権保護技術CPRMを使用するには、著作権保護技術CPRMに対応しているアプリケーションが必要です。
- あなたが記録したものは、個人として楽しむなどのほかは、著作権法上、権利者に無断で使用できません。
- SDメモリカードは、デジタル音楽データの不正なコピーや再生を防ぐSDMIに準拠したデータを取り扱うことができます。メモリの一部を管理データ領域として使用するため、使用できるメモリ容量は表示の容量より少なくなっています。

4 メモリースティックを使う前に

- ブリッジメディアスロットにメモリースティック デュオ／メモリースティックPRO デュオをセットするときは、必ずメモリースティック デュオ アダプターを装着した状態で行ってください。
- ブリッジメディアスロットからメモリースティック デュオ／メモリースティックPRO デュオを取りはずすときは、必ずメモリースティック デュオ アダプターに装着したままの状態で行ってください。
- 本製品は、著作権保護技術MagicGateには対応していません。本製品では、著作権保護を必要としないデータの読み出し／書き込みのみできます。
- すべてのメモリースティックの動作確認は行っていません。したがって、すべてのメモリースティックの動作は保証できません。
- メモリースティックの詳しい使いかたなどについては『メモリースティックに付属の説明書』を確認してください。

5 xD-ピクチャーカードを使う前に

- すべてのxD-ピクチャーカードの動作確認は行っていません。したがって、すべてのxD-ピクチャーカードの動作は保証できません。
- xD-ピクチャーカードの詳しい使いかたなどについては『xD-ピクチャーカードに付属の説明書』を確認してください。

6 マルチメディアカードを使う前に

- すべてのマルチメディアカードの動作確認は行っていません。したがって、すべてのマルチメディアカードの動作は保証できません。
- マルチメディアカードの詳しい使いかたなどについては『マルチメディアカードに付属の説明書』を確認してください。

4 記録メディアの廃棄・譲渡について

記録メディア（CD、DVD、USBフラッシュメモリ、メディアカードなど）を廃棄・譲渡する際には、書き込まれたデータが流出しないよう、適切な方法で消去することをおすすめします。初期化、削除、消去などの操作などを行っても、データの復元ツールで再生できる場合もありますので、十分ご確認ください。
データ消去のための専用ソフトや、記録メディア専用のシュレッダーも販売されています。

3 お客様登録の手続き

パソコンやアプリケーションを使用するときは、自分が製品の正規の使用者（ユーザー）であることを製品の製造元へ連絡します。これを「お客様登録」または「ユーザー登録」といいます。お客様登録は、パソコン本体、使用するアプリケーションごとに行い、方法はそれぞれ異なります。

1 東芝ID（TID）お客様登録のおすすめ

東芝では、お客様へのサービス・サポートのご提供の充実をはかるために東芝ID（TID）のご登録をおすすめしております。
サービス内容は、『東芝PCサポートのご案内』を確認してください。

詳しくは、次のアドレス「Room1048（TID）会員サイトについて」をご覧ください。
https://toshibadirect.jp/supportguide/about_sight.aspx

1 ［東芝お客様登録］アイコンからのご登録方法

インターネット接続の設定やインターネットプロバイダーとの契約をしてある場合に、［東芝お客様登録］アイコンからTID登録を行う方法を説明します。インターネットに接続している間の通信料金やプロバイダー使用料などの費用はお客様負担となりますので、あらかじめご了承ください。

メモ

- インストールしているウイルスチェックソフトの設定によって、インターネット接続を確認する画面が表示される場合があります。インターネット接続を許可する項目を選択し、操作を進めてください。

1 スタート画面の［デスクトップ］をクリックする

デスクトップ画面が表示されます。

2 ［東芝お客様登録］アイコン（ ）をダブルクリックする

「Internet Explorer」が起動し、登録用のホームページが表示されます。
以降は、画面の指示に従って操作してください。

メモ

- インターネットに接続後、URLを入力して登録用のホームページにアクセスすることもできます。
  登録用ホームページ：http://toshibadirect.jp/room1048/
  商品の追加登録も、登録用のホームページから行えます。

付録

4 技術基準適合について

高調波対策について

JIS C 61000-3-2 適合品
本装置は、高調波電流規格 JIS C 61000-3-2 に適合しています。

電波障害自主規制について

この装置は、クラスB情報技術装置です。この装置は、家庭環境で使用することを目的としていますが、この装置がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。
取扱説明書に従って正しい取り扱いをして下さい。

VCCI-B

参照 「7章 2 - 4 - Q パソコンの近くにあるテレビやラジオの調子がおかしい」

「FCC information」について

FCC notice "Declaration of Conformity Information"

This equipment has been tested and found to comply with the limits for a Class B digital device, pursuant to Part 15 of the FCC rules. These limits are designed to provide reasonable protection against harmful interference in a residential installation. This equipment generates, uses and can radiate radio frequency energy and, if not installed and used in accordance with the instructions, it may cause harmful interference to radio communications. However, there is no guarantee that interference will not occur in a particular installation. If this equipment does cause harmful interference to radio or television reception, which can be determined by turning the equipment off and on, the user is encouraged to try to correct the interference by one or more of the following measures:

- Reorient or relocate the receiving antenna.
- Increase the separation between the equipment and receiver.
- Connect the equipment into an outlet on a circuit different from that to which the receiver is connected.
- Consult the dealer or an experienced radio/TV technician for help.

WARNING : *Only peripherals complying with the FCC rules class B limits may be attached to this equipment. Operation with non-compliant peripherals or peripherals not recommended by TOSHIBA is likely to result in interference to radio and TV reception. Shielded cables must be used between the external devices and the computer's external monitor ports, Universal Serial Bus (USB 2.0 and USB 3.0) ports, eSATA/USB combo port, serial port, Display port and microphone jack. Changes or modifications made to this equipment, not expressly approved by TOSHIBA or parties authorized by TOSHIBA could void the user's authority to operate the equipment.*

FCC conditions

This device complies with Part 15 of the FCC Rules.
Operation is subject to the following two conditions:

1. This device may not cause harmful interference.
2. This device must accept any interference received, including interference that may cause undesired operation.

Contact

Address : TOSHIBA America Information Systems, Inc.
9740 Irvine Boulevard
Irvine, California 92618-1697
Telephone : (949) 583-3000

EU Declaration of Conformityについて

This product is carrying the CE-Mark in accordance with the related European Directives. Responsible for CE-Marking is TOSHIBA EUROPE GMBH, Hammfelddamm 8, 41460 Neuss, Germany. The complete and official EU Declaration of Conformity can be found on TOSHIBA's web site
http://epps.toshiba-teg.com on the Internet.

CE compliance

This product is labelled with the CE Mark in accordance with the related European Directives, notably RoHS Directive 2011/65/EU and Electromagnetic Compatibility Directive 2004/108/EC for the notebook and the electronic accessories including the supplied power adapter, the Radio Equipment and Telecommunications Terminal Equipment Directive 1999/5/EC in case of implemented telecommunication accessories and the Low Voltage Directive 2006/95/EC for the supplied power adapter. Furthermore the product complies with the Ecodesign Directive 2009/125/EC (ErP) and its related implementing measures.

This product and the original options are designed to observe the related EMC (Electromagnetic Compatibility) and safety standards. However, TOSHIBA cannot guarantee that this product still observes these EMC standards if options or cables not produced by TOSHIBA are connected or implemented. In this case the persons who have connected/implemented those options/cables have to provide assurance that the system (PC plus options/cables) still fulfils the required standards. To avoid general EMC problems, the following guidance should be noted:

- Only CE marked options should be connected/implemented
- Only best shielded cables should be connected

Working environment

This product was designed to fulfil the EMC (Electromagnetic Compatibility) requirements to be observed for so-called “Residential, commercial and light industry environments”. TOSHIBA do not approve the use of this product in working environments other than the above mentioned “Residential, commercial and light industry environments”.

For example, the following environments are not approved:

- Industrial Environments (e.g. environments where a mains voltage of 380 V three-phase is used)
- Medical Environments
- Automotive Environments
- Aircraft Environments

Any consequences resulting from the use of this product in working environments that are not approved are not the responsibility of TOSHIBA.

The consequences of the use of this product in non-approved working environments may be:

- Interference with other devices or machines in the near surrounding area.
- Malfunction of, or data loss from, this product caused by disturbances generated by other devices or machines in the near surrounding area.

Therefore TOSHIBA strongly recommend that the electromagnetic compatibility of this product should be suitably tested in all non-approved working environments before use. In the case of automobiles or aircraft, the manufacturer or airline respectively should be asked for permission before use of this product.

Furthermore, for general safety reasons, the use of this product in environments with explosive atmospheres is not permitted.

本体のモデムについて

＊モデム搭載モデルのみ

本体のモデムをご使用になる場合は、次の注意事項を守ってください。

内蔵モデムは、財団法人 電気通信端末機器審査協会により電気通信事業法第50条1項に基づき、技術基準適合認定を受けたものです。
認定番号 A05-0413001

■対応地域

本体のモデムは、次の地域で使用できます。

アイスランド、アイルランド、アメリカ合衆国、アラブ首長国連邦、アルゼンチン、イギリス、イスラエル、イタリア、インド、インドネシア、エジプト、エストニア、オーストラリア、オーストリア、オマーン、オランダ、カナダ、韓国、ギリシャ、クウェート、サウジアラビア、シンガポール、スイス、スウェーデン、スペイン、スリランカ、スロバキア、スロベニア、タイ、台湾、チェコ、中国、デンマーク、ドイツ、トルコ、日本、ニュージーランド、ノルウェー、パキスタン、ハンガリー、バングラデシュ、フィリピン、フィンランド、ブラジル、フランス、ブルガリア、ベルギー、ポーランド、ポルトガル、香港、マルタ、マレーシア、南アフリカ、メキシコ、モロッコ、ラトビア、リトアニア、ルーマニア、ルクセンブルク、レバノン、ロシア

（2013年1月現在）

なお、その他の地域での許認可は受けていないため、その他の地域では使用できません。注意してください。
本体のモデムが使用できない地域では、その地域で許認可を受けているモデムを購入してください。
本体のモデムに接続する回線がPBX等を経由する場合は使用できない場合があります。
上記の注意事項を超えてのご使用における危害や損害などについては、当社では責任を負えませんのであらかじめ了承してください。

参照 設定について「3章 1 - 4 - 3 海外でインターネットに接続するには」

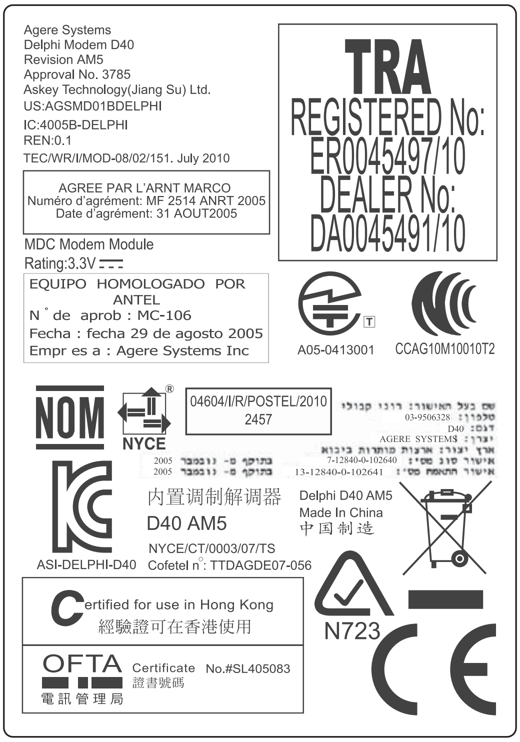
■自動再発信の制限

本体のモデムは2回を超える再発信（リダイヤル）は、発信を行わず『BLACK LISTED』を返します（『BLACK LISTED』の応答コードが問題になる場合は、再発信を2回以下または再発信間隔を1分以上にしてください）。

＊内蔵モデムの自動再発信機能は、電気通信事業法の技術基準（アナログ電話端末）「自動再発信機能は2回以内（但し、最初の発信から3分以内）」に従っています。

■回線規格ラベル

本体のモデムには、次の回線規格ラベルが貼付してあります。





Conformity Statement

The equipment has been approved to [Commission Decision "CTR21"] for pan-European single terminal connection to the Public Switched Telephone Network (PSTN).
However, due to differences between the individual PSTNs provided in different countries/regions the approval does not, of itself, give an unconditional assurance of successful operation on every PSTN network termination point.
In the event of problems, you should contact your equipment supplier in the first instance.

Network Compatibility Statement

This product is designed to work with, and is compatible with the following networks. It has been tested to and found to confirm with the additional requirements conditional in EG 201 121.

Germany - ATAAB AN005,AN006,AN007,AN009,AN010 and DE03,04,05, 08,09,12,14,17
Greece - ATAAB AN005,AN006 and GR01,02,03,04
Portugal - ATAAB AN001,005,006,007,011 and P03,04,08,10
Spain - ATAAB AN005,007,012, and ES01
Switzerland - ATAAB AN002
All other countries/regions - ATAAB AN003,004

Specific switch settings or software setup are required for each network, please refer to the relevant sections of the user guide for more details.
The hookflash (timed break register recall) function is subject to separate national type approvals. If has not been tested for conformity to national type regulations, and no guarantee of successful operation of that specific function on specific national networks can be given.

Pursuant to FCC CFR 47, Part 68:

When you are ready to install or use the modem, call your local telephone company and give them the following information:

- The telephone number of the line to which you will connect the modem
- The registration number that is located on the device

The FCC registration number of the modem will be found on either the device which is to be installed, or, if already installed, on the bottom of the computer outside of the main system label.

- The Ringer Equivalence Number (REN) of the modem, which can vary.
  For the REN of your modem, refer to your modem's label.

The modem connects to the telephone line by means of a standard jack called the USOC RJ11C.

付録

Type of service

Your modem is designed to be used on standard-device telephone lines.
Connection to telephone company-provided coin service (central office implemented systems) is prohibited. Connection to party lines service is subject to state tariffs. If you have any questions about your telephone line, such as how many pieces of equipment you can connect to it, the telephone company will provide this information upon request.

Telephone company procedures

The goal of the telephone company is to provide you with the best service it can.
In order to do this, it may occasionally be necessary for them to make changes in their equipment, operations, or procedures. If these changes might affect your service or the operation of your equipment, the telephone company will give you notice in writing to allow you to make any changes necessary to maintain uninterrupted service.

If problems arise

If any of your telephone equipment is not operating properly, you should immediately remove it from your telephone line, as it may cause harm to the telephone network. If the telephone company notes a problem, they may temporarily discontinue service. When practical, they will notify you in advance of this disconnection. If advance notice is not feasible, you will be notified as soon as possible. When you are notified, you will be given the opportunity to correct the problem and informed of your right to file a complaint with the FCC.
In the event repairs are ever needed on your modem, they should be performed by TOSHIBA Corporation or an authorized representative of TOSHIBA Corporation.

Disconnection

If you should ever decide to permanently disconnect your modem from its present line, please call the telephone company and let them know of this change.

Fax branding

The Telephone Consumer Protection Act of 1991 makes it unlawful for any person to use a computer or other electronic device to send any message via a telephone fax machine unless such message clearly contains in a margin at the top or bottom of each transmitted page or on the first page of the transmission, the date and time it is sent and an identification of the business, other entity or individual sending the message and the telephone number of the sending machine or such business, other entity or individual.
In order to program this information into your fax modem, you should complete the setup of your fax software before sending messages.

CAUTION: Use only No. 26AWG or larger modular cable.

Instructions for IC CS-03 certified equipment

1 NOTICE : The Industry Canada label identifies certified equipment. This certification means that the equipment meets certain telecommunications network protective, operational and safety requirements as prescribed in the appropriate Terminal Equipment Technical Requirements document(s). The Department does not guarantee the equipment will operate to the user's satisfaction.
Before installing this equipment, users should ensure that it is permissible to be connected to the facilities of the local telecommunications company. The equipment must also be installed using an acceptable method of connection.
The customer should be aware that compliance with the above conditions may not prevent degradation of service in some situations.
Repairs to certified equipment should be coordinated by a representative designated by the supplier. Any repairs or alterations made by the user to this equipment, or equipment malfunctions, may give the telecommunications company cause to request the user to disconnect the equipment.
Users should ensure for their own protection that the electrical ground connections of the power utility, telephone lines and internal metallic water pipe system, if present, are connected together. This precaution may be particularly important in rural areas.
Caution: Users should not attempt to make such connections themselves, but should contact the appropriate electric inspection authority, or electrician, as appropriate.

2 The user manual of analog equipment must contain the equipment's Ringer Equivalence Number (REN) and an explanation notice similar to the following:
The Ringer Equivalence Number (REN) of the modem, which can vary.
For the REN of your modem, refer to your modem's label.
NOTICE : The Ringer Equivalence Number (REN) assigned to each terminal device provides an indication of the maximum number of terminals allowed to be connected to a telephone interface. The termination on an interface may consist of any combination of devices subject only to the requirement that the sum of the Ringer Equivalence Numbers of all the devices does not exceed 5.

3 The standard connecting arrangement (telephone jack type) for this equipment is jack type(s): USOC RJ11C.
CANADA:4005B-DELPHI

Notes for Users in Australia and New Zealand

Modem warning notice for Australia

Modems connected to the Australian telecoms network must have a valid Austel permit. This modem has been designed to specifically configure to ensure compliance with Austel standards when the region selection is set to Australia.
The use of other region setting while the modem is attached to the Australian PSTN would result in you modem being operated in a non-compliant manner.
To verify that the region is correctly set, enter the command ATI which displays the currently active setting.
To set the region permanently to Australia, enter the following command sequence:
AT%TE=1
ATS133=1
AT&F
AT&W
AT%TE=0
ATZ
Failure to set the modem to the Australia region setting as shown above will result in the modem being operated in a non-compliant manner. Consequently, there would be no permit in force for this equipment and the Telecoms Act 1991 prescribes a penalty of $12,000 for the connection of non-permitted equipment.

Notes for use of this device in New Zealand

付録

- The grant of a Telepermit for a device in no way indicates Telecom acceptance of responsibility for the correct operation of that device under all operating conditions. In particular the higher speeds at which this modem is capable of operating depend on a specific network implementation which is only one of many ways of delivering high quality voice telephony to customers. Failure to operate should not be reported as a fault to Telecom.
- In addition to satisfactory line conditions a modem can only work properly if:
  a/ it is compatible with the modem at the other end of the call and
  b/ the application using the modem is compatible with the application at the other end of the call - e.g., accessing the Internet requires suitable software in addition to a modem.
- This equipment shall not be used in any manner which could constitute a nuisance to other Telecom customers.
- Some parameters required for compliance with Telecom's PTC
  Specifications are dependent on the equipment (PC) associated with this modem. The associated equipment shall be set to operate within the following limits for compliance with Telecom Specifications:
  a/ There shall be no more than 10 call attempts to the same number within any 30 minute period for any single manual call initiation, and
  b/ The equipment shall go on-hook for a period of not less than 30 seconds between the end of one attempt and the beginning of the next.
  c/ Automatic calls to different numbers shall be not less than 5 seconds apart.

- Immediately disconnect this equipment should it become physically damaged, and arrange for its disposal or repair.
- The correct settings for use with this modem in New Zealand are as follows:
  ATB0 (CCITT operation)
  AT&G2 (1800 Hz guard tone)
  AT&P1 (Decadic dialing make-break ratio =33%/67%)
  ATS0=0 (not auto answer)
  ATS10=less than 150 (loss of carrier to hangup delay, factory default of 15 recommended)
  ATS11=90 (DTMF dialing on/off duration=90 ms)
  ATX2 (Dial tone detect, but not (U.S.A.) call progress detect)
- When used in the Auto Answer mode, the S0 register must be set with a value between 3 or 4. This ensures:

(a) a person calling your modem will hear a short burst of ringing before the modem answers. This confirms that the call has been successfully switched through the network.

(b) caller identification information (which occurs between the first and second ring cadences) is not destroyed.

- The preferred method of dialing is to use DTMF tones (ATDT...) as this is faster and more reliable than pulse (decadic) dialing. If for some reason you must use decadic dialing, your communications program must be set up to record numbers using the following translation table as this modem does not implement the New Zealand "Reverse Dialing" standard.
  Number to be dialed: 0 1 2 3 4 5 6 7 8 9
  Number to program into computer: 0 9 8 7 6 5 4 3 2 1
  Note that where DTMF dialing is used, the numbers should be entered normally.
- The transmit level from this device is set at a fixed level and because of this there may be circumstances where the performance is less than optimal.
  Before reporting such occurrences as faults, please check the line with a standard Telepermitted telephone, and only report a fault if the phone performance is impaired.
- It is recommended that this equipment be disconnected from the Telecom line during electrical storms.
- When relocating the equipment, always disconnect the Telecom line connection before the power connection, and reconnect the power first.
- This equipment may not be compatible with Telecom Distinctive Alert cadences and services such as Fax Ability.

NOTE THAT FAULT CALL OUT CAUSED BY ANY OF THE ABOVE CAUSES MAY INCUR A CHARGE FROM TELECOM

General conditions

As required by PTC 100, please ensure that this office is advised of any changes to the specifications of these products which might affect compliance with the relevant PTC Specifications.

The grant of this Telepermit is specific to the above products with the marketing description as stated on the Telepermit label artwork. The Telepermit may not be assigned to other parties or other products without Telecom approval.

A Telepermit artwork for each device is included from which you may prepare any number of Telepermit labels subject to the general instructions on format, size and colour on the attached sheet.

The Telepermit label must be displayed on the product at all times as proof to purchasers and service personnel that the product is able to be legitimately connected to the Telecom network.

The Telepermit label may also be shown on the packaging of the product and in the sales literature, as required in PTC 100.

The charge for a Telepermit assessment is $337.50. An additional charge of $337.50 is payable where an assessment is based on reports against non-Telecom New Zealand Specifications. $112.50 is charged for each variation when submitted at the same time as the original.

An invoice for $NZ1237.50 will be sent under separate cover.

レーザー安全基準について

本装置を正しくご使用いただくために、この説明書をよくお読みください。

⚠注 意

1. 本装置はレーザーシステムを使用しています。
   本装置の定格銘板には、「レーザーラベルと表示位置」に記載している表示がされています。
   本装置はヨーロッパ共通のレーザー規格EN60825-1で“クラス1レーザー機器”に分類されています。
   レーザー光を直接被爆することを防ぐために、この装置の筐体を開けないでください。
2. 分解および改造をしないでください。感電の原因になります。信頼性、安全性、性能の保証をすることができなくなります。
3. 本装置はある確率で読み取り誤りをおこすことがあります。従って、本装置を使用するシステムには、これらの誤りや故障に起因する二次的な損失、障害および事故を防止するために、安全性や保全性に関する十分な配慮が必要です。
   本装置の故障、取り出されたデータの誤りによって、人体への危害や物質的損害を誘発する可能性があるシステムには、本装置を使用しないでください。
4. ご使用のディスクが損傷を受けても保証はいたしません。
5. ご使用中に異常が生じた場合は、電源を切って、東芝PCあんしんサポートにご相談ください。
6. ここに規定した以外の手順による制御および調整は、危険なレーザー放射の露光に結びつくことがあります。

次のいずれかの装置が搭載されています。

①Toshiba Samsung Storage Technology　ドライブ
②Panasonic　ドライブ
③TEAC　ドライブ

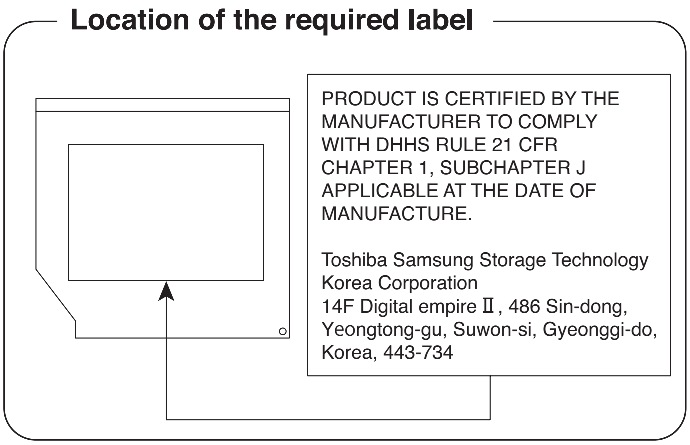
■レーザーラベルと表示位置

①Toshiba Samsung Storage Technologyのレーザーラベル

CLASS 1 LASER PRODUCT
APPAREIL A LASER DE CLASSE 1
LASER SCHUTZ KLASSE 1
PRODUKT
NACH EN 60825-1:1994/A2:2001

DANGER	-VISIBLE AND INVISIBLE LASER RADIATION WHEN OPEN. AVOID EXPOSURE TO BEAM. (for 21 CFR)
CAUTION	-CLASS 3B VISIBLE AND INVISIBLE LASER RADIATION WHEN OPEN. AVOID EXPOSURE TO THE BEAM.
ATTENTION	-LASER DE CLASSE 3B RAYONNEMENT VISIBLE ET INVISIBLE, EN CAS D'OUVERTURE. EXPOSITION DANGEREUSE DE L'OEIL OU DE LA PEAU RAYONNEMENT DIRECT OU DIFFUS.
VORSICHT	-SICHTBARE UND UNSICHTBARE LASERSTRAHLUNG KLASSE 3B, WENN ABDECKUNG GEÖFFNET. NICHT DEM STRAHL AUSSETZEN.
ADVARSEL	-KLASSE 3B SYNLIG OG USYNLIG LASERSTRÅLING VED ÅBNING. UNDGÅ UDSÆTTELSE FOR STRÅLING
ADVARSEL	-KLASSE 3B SYNLIG OG USYNLIG LASERSTRÅLING NÅR DEKSEL ÅPNES. UNNGÅ EKSPONERING FOR STRÅLEN.
VARO!	-LUOKAN 3B NÄKYVÄÄ JA NÄKYMÄTÖN AVATTAESSA OLET ALTTIINA LASERSÄTEILYLLE. ÄLÄ KATSO SÄTEESEEN.
VARNING	-SYNLIG OCH OSYNLIG KLASSE 3B LASERSTRÅLNING NÄR DENNA DEL ÄR ÖPPNAD. STRÅLE ÄR FARLIG.
注意	-打开时有3B等級的可见及不可见激光辐射。避免激光束照射。
注意	-ここを開くとクラス3B可視レーザー光及び不可視レーザー光が出ます。ビームに身をさらさないこと。

ラベルの表示位置



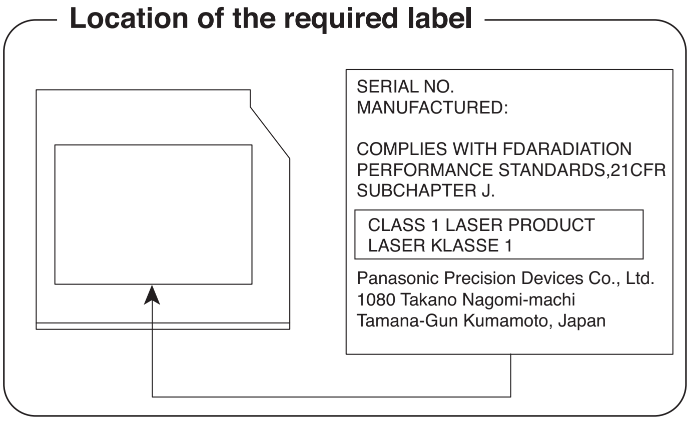
付録

②Panasonicのレーザーラベル

CLASS 1 LASER PRODUCT
LASER KLASSE 1

CAUTION	CLASS 3B VISIBLE AND INVISIBLE LASER RADIATION WHEN OPEN. AVOID EXPOSURE TO BEAM.
ATTENTION	CLASSE 3B RAYONNEMENT LASER VISIBLE ET INVISIBLE EN CAS D'OUVERTURE. EXPOSITION DANGEREUSE AU FAISCEAU.
VORSICHT	KLASSE 3B SICHTBARE UND UNSICHTBARE LASERSTRAHLUNG, WENN ABDECKUNG GEÖFFNET. NICHT DEM STRAHL AUSSETZEN.
VARNING	KLASS 3B SYNLIG OCH OSYNLIG LASERSTRÅLNING NÄR DENNA DEL ÄR ÖPPNAD. STRÅLE ÄR FARLIG.

ラベルの表示位置



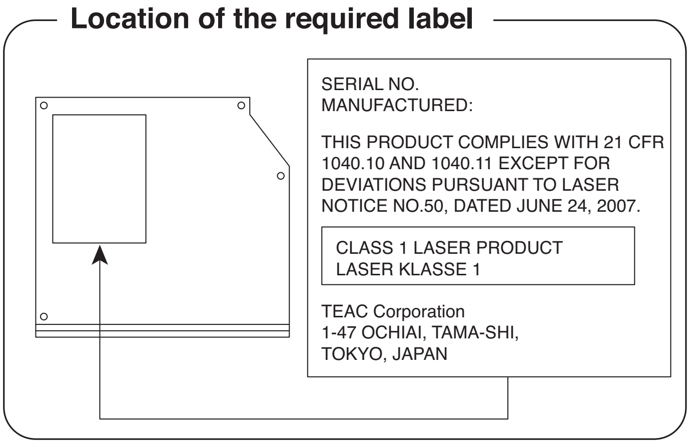
付録

③TEACのレーザーラベル

CLASS 1 LASER PRODUCT
LASER KLASSE 1

CAUTION	CLASS 3B INVISIBLE LASER RADIATION WHEN OPEN. AVOID EXPOSURE TO BEAM.
ATTENTION	CLASSE 3B RAYONNEMENT LASER INVISIBLE EN CAS D'OUVERTURE. EXPOSITION DANGEREUSE AU FAISCEAU.
VORSICHT	KLASSE 3B UNSICHTBARE LASERSTRAHLUNG, WENN ABDECKUNG GEÖFFNET. NICHT DEM STRAHL AUSSETZEN.
ADVARSEL	KLASSE 3B USYNLIG LASERSTRÅLING VED ÅBNING. UNDGÅ UDS/ETTELSE FOR STRÅLEN.
ADVARSEL	KLASSE 3B USYNLIG LASERSTRÅLING NÅR DEKSEL ÅPNES. UNDGÅ EKSPONERING FOR STRÅLEN.
VARNING	KLASS 3B OSYNLIG LASERSTRÅLNING NÄR DENNA DEL ÄR ÖPPNAD. STRÅLEN ÄR FARLIG.
VARO !	KURSSI 3B NÄKYMÄTÖN AVATTAESSA OLET ALTTINA LASERSÄTEILYLLE. ÄLÄ KATSO SÄTEESEEN.

ラベルの表示位置

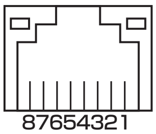


付録

5 各インターフェースの仕様

1 LANインターフェース

ピン番号	信号名	意　味	信号方向
1	BI_DA+	送受信データA（＋）	I/O
2	BI_DA-	送受信データA（－）	I/O
3	BI_DB+	送受信データB（＋）	I/O
4	BI_DC+	送受信データC（＋）	I/O
5	BI_DC-	送受信データC（－）	I/O
6	BI_DB-	送受信データB（－）	I/O
7	BI_DD+	送受信データD（＋）	I/O
8	BI_DD-	送受信データD（－）	I/O
コネクタ図			



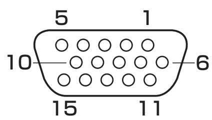
信号名　　　　：－がついているのは、負論理値の信号です
信号方向（I）：パソコン本体への入力
信号方向（O）：パソコン本体からの出力

付録

2 RGBインターフェース

ピン番号	信号名	意　味	信号方向
1	CRV	赤色ビデオ信号	O
2	CGV	緑色ビデオ信号	O
3	CBV	青色ビデオ信号	O
4	Reserved	予約	
5	GND	グランド	
6	GND	グランド	
7	GND	グランド	
8	GND	グランド	
9	+5V	電源	
10	GND	グランド	
11	Reserved	予約	
12	SDA	SDA通信信号	I/O
13	HSYNC	水平同期信号	O
14	VSYNC	垂直同期信号	O
15	SCL	SCLデータクロック信号	O

コネクタ図



高密度D-SUB 3列15ピンメス

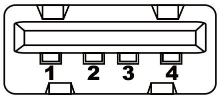
信号方向（I）：パソコン本体への入力
信号方向（O）：パソコン本体からの出力

付録

3 USB2.0インターフェース

ピン番号	信号名	意　味	信号方向
1	VBUS	＋5V	
2	D-	マイナスデータ	I/O
3	D+	プラスデータ	I/O
4	GND	グランド	

コネクタ図

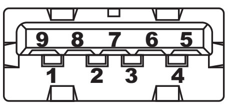


信号名　　　　：ーがついているのは、負論理値の信号です
信号方向（I）：パソコン本体への入力
信号方向（O）：パソコン本体からの出力

4 USB3.0インターフェース

ピン番号	信号名	意　味	信号方向
1	VBUS	＋5V	
2	D-	USB2.0マイナスデータ	I/O
3	D+	USB2.0プラスデータ	I/O
4	GND	グランド	
5	StdA_SSRX-	USB3.0受信マイナスデータ	I
6	StdA_SSRX+	USB3.0受信プラスデータ	I
7	GND_DRAIN	グランド	
8	StdA_SSTX-	USB3.0送信マイナスデータ	O
9	StdA_SSTX+	USB3.0送信プラスデータ	O

コネクタ図

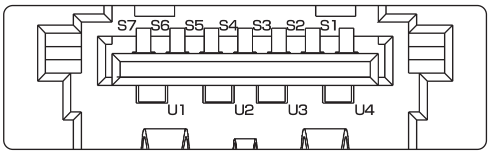


信号名　　　　：ーがついているのは、負論理値の信号です
信号方向（I）：パソコン本体への入力
信号方向（O）：パソコン本体からの出力

5 eSATA／USB2.0インターフェース

ピン番号	信号名	意　味	信号方向
S1	GND	グランド	
S2	A+	eSATA送信プラスデータ	O
S3	A-	eSATA送信マイナスデータ	O
S4	GND	グランド	
S5	B-	eSATA受信マイナスデータ	I
S6	B+	eSATA受信プラスデータ	I
S7	GND	グランド	
U1	VBUS	＋5V	
U2	D-	USBマイナスデータ	I/O
U3	D+	USBプラスデータ	I/O
U4	GND	グランド	

コネクタ図



信号名　　　　：－がついているのは、負論理値の信号です
信号方向（I）：パソコン本体への入力
信号方向（O）：パソコン本体からの出力

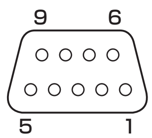
付録

6 シリアルインターフェース

＊シリアルコネクタ搭載モデルのみ

ピン番号	信号名	意　味	信号方向
1	CD	受信キャリア検出	I
2	RXD	受信データ	I
3	TXD	送信データ	O
4	DTR	データ端末レディ	O
5	GND	グランド	
6	DSR	データセットレディ	I
7	RTS	送信要求	O
8	CTS	送信可	I
9	CI	被呼表示	I

コネクタ図

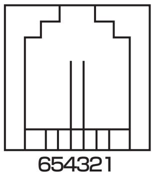


D-SUB 9ピンオス

信号方向（I）：パソコン本体への入力
信号方向（O）：パソコン本体からの出力

7 モデムインターフェース

＊モデム搭載モデルのみ

ピン番号	信号名	意　味	信号方向
1	－	ノーコンタクト	
2	－	ノーコンタクト	
3	TIP	電話回線	I/O
4	RING	電話回線	I/O
5	－	ノーコンタクト	
6	－	ノーコンタクト	
コネクタ図			
			

信号名　　　　：－がついているのは、負論理値の信号です
信号方向（I）：パソコン本体への入力
信号方向（O）：パソコン本体からの出力

6 モデムについて

＊ モデム搭載モデルのみ

本体のモデムにモデムボードを取り付けることによって、モデム機能を使用できます。あらかじめモデムボードが取り付けられているモデルの場合は、取り付け／取りはずしの作業は必要ありません。また、モデムボードを取りはずした状態で本製品を使用しないでください。

⚠ 警 告

- **本文中で説明されている部分以外は絶対に分解しないこと**
  内部には高電圧部分が数多くあり、万が一触ると、感電ややけどのおそれがあります。
- **取りはずしたネジは、乳幼児の手の届かないところに保管すること**
  誤って飲み込むと窒息のおそれがあります。万が一、飲み込んだ場合は、ただちに医師に相談してください。

⚠ 注 意

- **モデムボードの取り付け／取りはずしは、必ず電源を切り、ACアダプターのプラグを抜き、バッテリーパックを取りはずしてから作業を行うこと**
  電源を入れたまま取り付け／取りはずしを行うと感電、故障のおそれがあります。
- **電源を切った直後には、モデムボードの取り付け／取りはずしを行わないこと**
  内部が高温になっており、やけどのおそれがあります。電源を切った後30分以上たってから、行ってください。
- **パソコン内部にネジや異物を残さないこと**
  火災、発煙のおそれがあります。

お願い

- モデムボードの取り付け／取りはずし、PTTラベルの確認以外の目的でパソコン本体のカバーを開けないでください。
- モデムボードを取りはずした状態で本製品を使用しないでください。故障の原因になります。
- モデムボードを強く押したり、曲げたり、落としたりしないでください。
- キズや破損を防ぐため、布などを敷いた安定した台の上にパソコン本体を置いて作業を行ってください。

モデムボードの取り付け／取りはずし

＊ **この操作は、本マニュアルを参照しながら実行することはできません。**
必ず本項目のページを印刷してから実行してください。

■取り付け／取りはずしの前に

①データを保存し、SHIFT キーを押しながら［シャットダウン］をクリックして電源を切る

参照 電源の切り方『取扱説明書』

②電源コード、ACアダプター、その他のケーブル類をパソコン本体からはずす
③ディスプレイを閉じてパソコン本体を裏返し、バッテリーパックを取りはずす
④ハードディスクドライブスロットカバーのネジ１本を取りはずし、ハードディスクドライブスロットカバーを取りはずす
⑤ハードディスクドライブを取りはずす
⑥パソコン本体底面のネジ11本を取りはずす
⑦パソコン本体を表面に戻し、ディスプレイをあける
⑧キーボードホルダーを取りはずす
⑨キーボードを固定しているネジ２本（テンキー搭載モデルの場合は４本）を取りはずす
⑩キーボードを持ち上げてパームレストの上へ裏向きに置く
⑪メイン基板からキーボードケーブルとタッチパッドケーブルを取りはずす
⑫メイン基板からLCDケーブル、パワースイッチ基板ケーブルを取りはずす
⑬無線LAN機能搭載モデルの場合、無線LANモジュールからアンテナケーブルを取りはずす
⑭上カバーをとめているネジ８本を取りはずす
⑮上カバー（ディスプレイ含む）をベースカバーから取りはずす
⑯ドライブ搭載モデルの場合、ドライブを取りはずす
⑰メイン基板から、DC-INジャック、マイク、スピーカーケーブルを取りはずす
⑱メイン基板をとめているネジ２本を取りはずす
⑲メイン基板をベースカバーから取りはずす
⑳メイン基板を裏返す
規格（PTT）ラベルを確認することができます。

■取り付け

①モデムボードにケーブルを取り付ける
②メイン基板にモデムボードを取り付け、ネジ２本でとめる

■取りはずし

①モデムボードのネジ２本を取りはずし、モデムボードを取りはずす
②モデムボードからケーブルを取りはずす

■取り付け／取りはずしの後に

①メイン基板をベースカバーにネジ２本で取り付ける
②メイン基板にDC-INジャック、マイク、スピーカーケーブルを取り付ける
③ドライブ搭載モデルの場合、ドライブを取り付ける
④上カバー（ディスプレイ含む）をベースカバーにネジ８本で取り付ける
⑤無線LAN機能搭載モデルの場合、無線LANモジュールにアンテナケーブルを取り付ける
⑥メイン基板にLCDケーブル、パワースイッチ基板ケーブルを取り付ける
⑦メイン基板にキーボードケーブルとタッチパッドケーブルを取り付ける
⑧キーボードをネジ２本（テンキー搭載モデルの場合は４本）で取り付ける
⑨キーボードホルダーを取り付ける
⑩ディスプレイを閉じてパソコン本体を裏返す
⑪本体底面をネジ１１本で取り付ける
⑫ハードディスクドライブを取り付ける
⑬ハードディスクドライブスロットカバーを取り付け、ネジ１本で取り付ける
⑭バッテリーパックを取り付ける

7 Windows 8 BIOSについて

OpenSSLについて

LICENSE ISSUES

The OpenSSL toolkit stays under a dual license, i.e. both the conditions of the OpenSSL License and the original SSLeay license apply to the toolkit. See below for the actual license texts. Actually both licenses are BSD-style Open Source licenses. In case of any license issues related to OpenSSL please contact openssl-core@openssl.org.

OpenSSL License

Redistribution and use in source and binary forms, with or without modification, are permitted provided that the following conditions are met:

1. Redistributions of source code must retain the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer.
2. Redistributions in binary form must reproduce the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer in the documentation and/or other materials provided with the distribution.
3. All advertising materials mentioning features or use of this software must display the following acknowledgment:
   "This product includes software developed by the OpenSSL Project for use in the OpenSSL Toolkit. (http://www.openssl.org/)"
4. The names "OpenSSL Toolkit" and "OpenSSL Project" must not be used to endorse or promote products derived from this software without prior written permission. For written permission, please contact openssl-core@openssl.org.
5. Products derived from this software may not be called "OpenSSL" nor may "OpenSSL" appear in their names without prior written permission of the OpenSSL Project.
6. Redistributions of any form whatsoever must retain the following acknowledgment:
   "This product includes software developed by the OpenSSL Project for use in the OpenSSL Toolkit (http://www.openssl.org/)"

Original SSLeay License